

FUJITSU Storage

ETERNUS LT270 S2 テープライブラリ

ユーザーズガイド パネル操作編

このページは空白です。

はじめに

このたびは、弊社の ETERNUS LT270 S2 テープライブラリをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ETERNUS LT270 S2 テープライブラリは、サーバ (PRIMEQUEST, PRIMERGY, SPARC M12/M10 など) に接続して使用するテープライブラリシステムです。

本書は、ETERNUS LT270 S2 テープライブラリの運用管理や設定を、オペレーターパネルおよびリモートパネルを使用して行う操作方法について説明しています。

本書は、日本国内向けの装置用に作成されています。

本書をご覧になり、本装置を正しくお使いいただきますよう、お願いいたします。

第 7 版

2021 年 3 月

LTO、Linear Tape-Open、Ultrium は Hewlett-Packard Enterprise、IBM Corporation、Quantum Corporation の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他一般に、会社名、製品名、サービス名は、各社の商標または登録商標です。

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

3

本書の構成と内容

本書は、以下に示す 3 章から構成されています。

- 第 1 章 概要
オペレーターパネルとリモートパネルの概要について説明しています。
- 第 2 章 オペレーターパネルの操作
オペレーターパネルを使用して行える各種操作について説明しています。
- 第 3 章 リモートパネルの操作
リモートパネルを使用して行える各種操作について説明しています。

警告表示について

このマニュアルでは、使用者および周囲の方の身体や財産に損害を与えないための警告表示をしています。警告表示は、警告レベルの記号と警告文から構成しています。以下に、警告レベルの記号を示し、その意味を説明します。



この記号は、正しく使用しない場合、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあることを示しています。



この記号は、正しく使用しない場合、軽傷、または中程度の傷害を負うことがあり得ることと、本装置自身またはその他の使用者などの財産に、損害が生じる危険性があることを示しています。

重要

この記号は、お使いになる際の重要な注意点があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に以下の記号を使用しています。



△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。



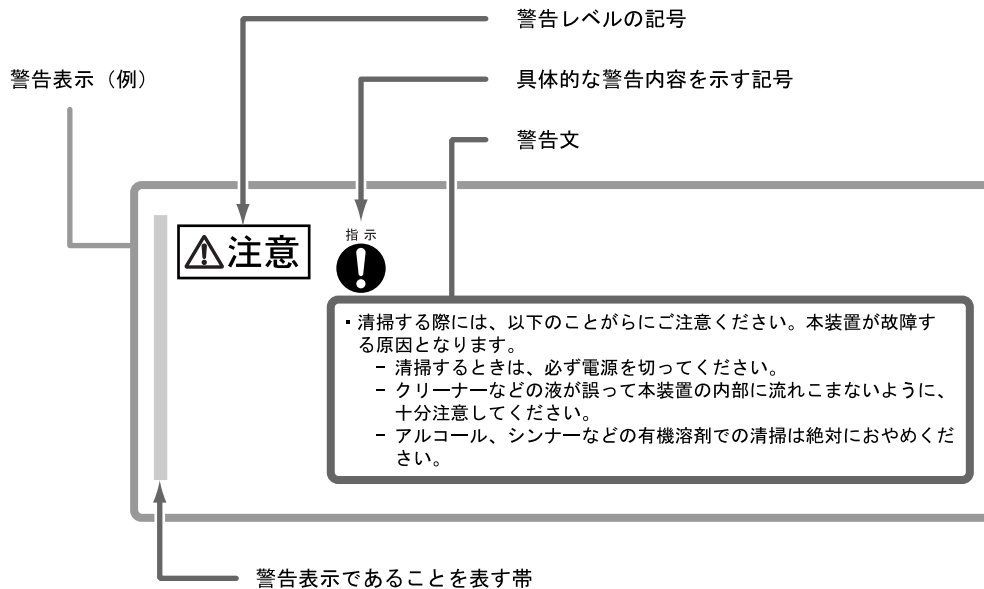
⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容（左図の場合は分解禁止）が示されています。



●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容（左図の場合は電源プラグを抜く）が示されています。

本文中の警告表示の仕方



警告レベルの記号の横に警告文が続きます。警告文は、通常の記述と区別するため、行の左側に帯を記述しています。
表示例を以下に示します。



本書の表記について

本文中の記号

本文中では、以下の記号を使用しています。

- | | |
|---|---|
|  注意 | お使いになるときに注意していただきたいことを記述しています。必ずお読みください。 |
|  備考 | 操作や設定を行ううえで知っておくと便利な機能や使い方など、本文を補足する内容が書いてあります。 |

本文中の表記

- ・ 本文中では「ETERNUS LT270 S2 テープライブラリ」を「LT270 S2」と表記しています。
- ・ 本書では、本文中の™、®などの記号は省略しています。

目次

第 1 章	概要	15
1.1	パネル操作の概要	15
1.1.1	オペレーターパネルの概要	15
1.1.2	リモートパネルの概要	16
1.2	操作画面	18
1.2.1	オペレーターパネル画面の画面構成	18
1.2.2	リモートパネルの画面構成	21
1.2.3	論理ライブラリ機構オプションの操作画面	22
1.3	メニューツリー	23
1.3.1	オペレーターパネルのメニューツリー	23
1.3.2	リモートパネルのメニューツリー	24
第 2 章	オペレーターパネルの操作	25
2.1	ログイン	25
2.2	ステータス表示	27
2.2.1	ライブラリのステータス	27
2.2.2	ドライブ／カートリッジテープのステータス	28
2.3	ライブラリ情報の表示	29
2.3.1	CAS のカートリッジテープ情報	29
2.3.2	ホストインターフェースの設定情報	31
2.3.3	ライブラリの設定情報	33
2.3.4	論理ライブラリの構成情報	34
2.3.5	ドライブの設定情報	35
2.3.6	ネットワークの設定情報	37
2.4	エラー情報の表示	39
2.4.1	ライブラリのハードウェアエラー情報	39
2.4.2	ドライブのハードウェアエラー情報	40
2.4.3	アラーム事象の情報	41
2.4.4	インフォメーション事象の情報	43
2.5	ライブラリ／ドライブ版数の表示	45
2.6	各種ユニット情報の表示	46
2.7	ライブラリ情報の設定	48
2.7.1	ネットワークの設定	49

2.7.2	時計の設定	52
2.7.3	スクリーンセーバーの設定	54
2.7.4	パスワードの設定	55
2.7.5	オペレーターパネルの明るさを設定する	56
2.8	CAS 割り当ての変更	57
2.9	CAS 扉のオープン	58
2.10	カートリッジテープのロード	59
2.11	カートリッジテープのイジェクト	61
2.12	マニュアルクリーニング	63
2.13	クリーニングカートリッジの投入／排出	64
2.13.1	クリーニングカートリッジの投入	65
2.13.2	クリーニングカートリッジの排出	67
2.14	ドライブハードウェアエラーの解除	69
2.15	インベントリ	70
2.16	トラッシュセル内カートリッジテープの排出	72
2.17	オペレーターアカウントの設定	73
第3章	リモートパネルの操作	76
3.1	ログイン	76
3.2	ライブラリ／ドライブのステータス表示	80
3.2.1	ライブラリのステータス	81
3.2.2	キャビネットのステータス	82
3.2.3	ドライブのステータス	82
3.3	ライブラリ情報の表示	83
3.3.1	カートリッジテープ情報	83
3.3.2	ホストインターフェースの設定情報	94
3.3.3	ライブラリの設定情報	96
3.3.4	論理ライブラリの構成情報	98
3.3.5	ドライブの設定情報	99
3.3.6	ネットワークの設定情報	101
3.4	エラー履歴の表示	102
3.5	統計情報の表示	103
3.5.1	カートリッジテープの統計情報	104
3.5.2	ロボットの統計情報	106
3.5.3	ドライブの統計情報	107
3.6	ライブラリ／ドライブの版数の表示	108

3.7	E-mail 設定情報の表示	109
3.8	SNMP 設定情報の表示	112
3.9	各種ユニット情報の表示	113
3.10	ドライブの設定	116
3.11	ライブラリ情報の設定	118
3.11.1	ホストインターフェースの設定	118
3.11.2	ライブラリの設定	120
3.11.3	ネットワークの設定	122
3.11.4	時計の設定	125
3.11.5	E-mail 機能の設定	127
3.11.6	E-mail の送信テスト	129
3.11.7	SNMP エージェントの設定	131
3.11.8	SNMP トラップの送信テスト	135
3.11.9	MIB ファイルのダウンロード	139
3.11.10	パスワードの変更	142
3.12	論理ライブラリの設定	143
3.12.1	論理ライブラリの新規作成	144
3.12.2	論理ライブラリの構成変更	152
3.12.3	論理ライブラリの削除	153
3.13	ライブラリの操作	156
3.13.1	CAS 扉のオープン	156
3.13.2	マニュアルクリーニング	157
3.13.3	クリーニングカートリッジの投入／排出	160
3.13.4	カートリッジテープのロード	165
3.13.5	カートリッジテープのイジェクト	166
3.13.6	ドライブハードウェアエラーの解除	168
3.13.7	インベントリ	170
3.13.8	トレースファイルの操作	172
3.13.9	ライブラリ／ドライブ設定情報の保存	173
3.13.10	ライブラリ／ドライブのリポート	176
3.14	ライブラリのトレース／ログのダウンロード	178
3.14.1	トレースのダウンロード	178
3.14.2	ログのダウンロード	184

目次

図 1.1	イニシャライズ画面	15
図 1.2	メニュー画面	16
図 1.3	リモートパネルのスタート画面	17
図 1.4	オペレーターパネル（エリア構成）	18
図 1.5	リモートパネル（フレーム構成）	21
図 1.6	論理ライブラリ構成時の操作画面	22
図 1.7	オペレーターパネルのメニュー構造	23
図 1.8	リモートパネルのメニュー構造	24
図 2.1	ログイン画面（[Login] ボタン選択）	25
図 2.2	ログイン画面（パスワード入力）	26
図 2.3	[Information] タブの選択	29
図 2.4	CAS セルのカートリッジテープ情報参照画面	30
図 2.5	ホストインターフェースの設定情報参照画面（Fabric 接続で設定されている場合）	32
図 2.6	ホストインターフェースの設定情報参照画面（AL 接続 / Hard Address で設定されている場合）	32
図 2.7	ホストインターフェースの設定情報参照画面（AL 接続 / Soft Address で設定されている場合）	33
図 2.8	ライブラリの設定情報参照画面	34
図 2.9	ライブラリの構成情報参照画面	35
図 2.10	ドライブの設定情報参照画面（Soft Address で設定されている場合）	36
図 2.11	ドライブの設定情報参照画面（Hard Address で設定されている場合）	37
図 2.12	ネットワークの設定情報参照画面（IPv4 有効 / IPv6 有効の場合）	38
図 2.13	ネットワークの設定情報参照画面（IPv4 無効 / IPv6 有効の場合）	38
図 2.14	ライブラリのハードウェアエラー情報表示画面	40
図 2.15	ドライブのハードウェアエラー情報表示画面	41
図 2.16	アラームボタンの点灯	41
図 2.17	アラーム情報表示画面	42
図 2.18	インフォメーションボタンの点灯	43
図 2.19	インフォメーション情報表示画面	44
図 2.20	ライブラリ / ドライブ版数情報参照画面	45
図 2.21	各種ユニット情報表示画面	47
図 2.22	[Setup] タブの選択	48
図 2.23	IPv4 ネットワークの設定画面	50
図 2.24	IPv6 ネットワークの設定画面（1/2）	51
図 2.25	IPv6 ネットワークの設定画面（2/2）	51
図 2.26	日時の設定画面	52
図 2.27	スクリーンセーバー起動時間の設定画面	54
図 2.28	パスワードの設定画面	55
図 2.29	画面明るさの設定画面	56
図 2.30	Operation メニュー	57
図 2.31	[CAS Open] ボタンの選択	58
図 2.32	[Load] ボタンの選択	60
図 2.33	[Manual Eject] ボタンの選択	62
図 2.34	[Clean] ボタンの選択	63
図 2.35	[Clean] ボタンの選択	65
図 2.36	[Clean] ボタンの選択	67
図 2.37	ドライブハードウェアエラー発生中のホーム画面	69

図 2.38	[Drive Reset] ボタンの選択	70
図 2.39	[Inventory] ボタンの選択	71
図 2.40	[Trash Eject] ボタンの選択	72
図 2.41	[Operator Mode] ボタンの選択	73
図 2.42	Operation Mode Enable の選択	74
図 2.43	オペレーターモード無効時の表示	74
図 2.44	オペレーターモード有効時の表示	75
図 2.45	オペレーターログイン時の表示	75
図 3.1	ログイン画面	77
図 3.2	ログイン失敗時の画面	78
図 3.3	重複ログイン時の画面	79
図 3.4	ライブラリ／ドライブのステータス参照画面	80
図 3.5	ライブラリが正常な状態での上部フレーム	81
図 3.6	ライブラリがエラー状態での上部フレーム	81
図 3.7	セルの種類を選択する画面	83
図 3.8	キャビネットの構成画面	84
図 3.9	キャビネットごとのセル一覧表示画面	85
図 3.10	一般セルのカートリッジテープ情報表示画面	85
図 3.11	CAS セルのカートリッジテープ情報表示画面	87
図 3.12	ドライブセルのカートリッジテープ情報表示画面	88
図 3.13	特殊セルのカートリッジテープ情報表示画面	89
図 3.14	予兆カートリッジテープ情報表示画面	91
図 3.15	交換カートリッジテープ情報表示画面	92
図 3.16	バーコードラベル検索画面	93
図 3.17	バーコードラベル検索結果例	94
図 3.18	ホストインターフェース設定情報表示画面	95
図 3.19	ライブラリ設定情報表示画面	96
図 3.20	論理ライブラリ構成情報画面	98
図 3.21	エラー画面（物理ライブラリ構成時）	99
図 3.22	ドライブ設定情報表示画面	100
図 3.23	ネットワーク設定情報表示画面	101
図 3.24	エラー履歴表示画面	102
図 3.25	統計情報表示画面	104
図 3.26	カートリッジテープ統計値表示画面	105
図 3.27	ロボット統計値表示画面	106
図 3.28	ドライブ統計値表示画面	107
図 3.29	ファームウェア版数表示画面	108
図 3.30	E-mail 設定情報表示画面	109
図 3.31	SNMP 設定情報表示画面	112
図 3.32	各種ユニット情報表示画面	114
図 3.33	ドライブセットアップ画面	116
図 3.34	アダプター選択画面	118
図 3.35	ホストインターフェース設定画面	119
図 3.36	ライブラリ情報設定画面	120
図 3.37	ネットワーク情報設定画面（DHCP 無効）	123
図 3.38	日付時刻設定画面	125
図 3.39	E-mail 機能設定画面	127
図 3.40	E-mail 機能設定画面（送信テスト）	129
図 3.41	E-mail 送信テスト開始画面	130
図 3.42	E-mail 送信テスト結果画面	131

図 3.43	SNMP エージェント設定画面	132
図 3.44	SNMP エージェント設定画面 (送信テスト)	136
図 3.45	SNMP トラップの送信テスト開始確認画面	137
図 3.46	SNMP トラップの送信完了画面	138
図 3.47	SNMP トラップ設定画面	139
図 3.48	SNMP 設定画面 (ダウンロード)	140
図 3.49	MIB/Trap ファイルダウンロード画面	141
図 3.50	パスワード変更画面	142
図 3.51	論理ライブラリ作成画面	145
図 3.52	論理ライブラリ作成画面 (対象選択)	146
図 3.53	論理ライブラリ作成画面 (ユニーク名指定)	147
図 3.54	論理ライブラリ作成画面 (分割セル数指定)	148
図 3.55	論理ライブラリ作成画面 (運用セル数指定)	149
図 3.56	論理ライブラリ作成画面 (クラスタ番号指定)	150
図 3.57	論理ライブラリ作成画面 (ドライブ台数指定)	151
図 3.58	論理ライブラリ構成変更画面	152
図 3.59	論理ライブラリ全削除画面	153
図 3.60	論理ライブラリ全削除画面 (対象選択)	154
図 3.61	論理ライブラリ全削除画面 (確認画面)	155
図 3.62	CAS Open 画面	156
図 3.63	Clean メニュー画面	158
図 3.64	ドライブ/クリーニングカートリッジ選択画面	159
図 3.65	Clean メニュー画面	161
図 3.66	クリーニングカートリッジ選択画面	162
図 3.67	Clean メニュー画面	163
図 3.68	クリーニングカートリッジ選択画面	164
図 3.69	CAS 選択画面	165
図 3.70	ドライブ選択画面	167
図 3.71	Drive Reset 画面	168
図 3.72	Inventory 画面	170
図 3.73	トレースファイル操作画面	172
図 3.74	ライブラリ/ドライブ設定情報保存方法の選択	173
図 3.75	ライブラリ/ドライブ設定情報ダウンロードの確認	174
図 3.76	ライブラリ/ドライブ設定情報完了	175
図 3.77	Reboot 確認画面	176
図 3.78	Reboot 実行画面	177
図 3.79	トレースの種類を選択する画面	178
図 3.80	ライブラリトレース準備画面	179
図 3.81	ライブラリトレースのダウンロード開始画面	180
図 3.82	トレースをダウンロードするドライブを選択する画面	181
図 3.83	ドライブトレースのダウンロード開始確認画面	182
図 3.84	ドライブトレースのダウンロード実行画面	182
図 3.85	ドライブトレースのダウンロード完了画面	183
図 3.86	ログを選択する画面	184
図 3.87	ログのダウンロード開始画面	185
図 3.88	ログのダウンロード実行中画面	185
図 3.89	ログのダウンロード完了画面	186

表目次

表 1.1	メニュー画面のタブ機能.....	19
表 1.2	アイコンの種類.....	19
表 1.3	共通ボタンの種類	20
表 2.1	アカウントごとの操作メニュー（オペレーターパネル）.....	26
表 2.2	ライブラリのステータス.....	27
表 2.3	ドライブとカートリッジテープのステータス.....	28
表 2.4	ドライブとカートリッジテープのステータス（詳細）.....	28
表 2.5	カートリッジ情報	30
表 2.6	各種ユニットの状態表示.....	46
表 2.7	世界の時間帯	53
表 2.8	CAS の状態	59
表 2.9	クリーニングカートリッジ情報.....	67
表 2.10	クリーニングカートリッジの状態表示.....	68
表 3.1	アカウントごとの操作メニュー（リモートパネル）.....	77
表 3.2	ライブラリのステータス.....	81
表 3.3	キャビネットのステータス	82
表 3.4	ドライブのステータス.....	82
表 3.5	カートリッジテープ情報.....	86
表 3.6	カートリッジテープの状態表示	86
表 3.7	CAS セル情報	87
表 3.8	ドライブセル情報	88
表 3.9	クリーニングセル	90
表 3.10	診断セル.....	90
表 3.11	トラッシュセル／交換セル	90
表 3.12	予兆カートリッジテープ情報	91
表 3.13	交換カートリッジテープ情報	92
表 3.14	ホストインターフェース設定情報	95
表 3.15	ライブラリ設定情報	97
表 3.16	論理ライブラリ構成情報.....	98
表 3.17	ドライブ設定情報	100
表 3.18	ネットワーク設定情報.....	101
表 3.19	エラー履歴情報.....	102
表 3.20	カートリッジテープ統計値	105
表 3.21	ロボット統計値.....	106
表 3.22	ドライブ統計値.....	107
表 3.23	ファームウェア版数情報.....	108
表 3.24	E-mail 設定情報.....	110
表 3.25	メール送信内容（ライブラリハードウェアエラー発生時）.....	110
表 3.26	メール送信内容（ドライブハードウェアエラー発生時）.....	111
表 3.27	SNMP 設定情報.....	112
表 3.28	各種ユニットの状態表示.....	115
表 3.29	ドライブ情報設定項目	117
表 3.30	ホストインターフェース設定項目	119
表 3.31	ライブラリ情報設定項目	121
表 3.32	ネットワーク情報設定項目	123

表 3.33	日付時刻設定項目	126
表 3.34	E-mail 設定項目	128
表 3.35	SNMP エージェント設定項目	133
表 3.36	パスワード設定項目	142
表 3.37	論理ライブラリ設定項目.....	144

第 1 章

概要

オペレーターパネルとリモートパネルの概要について説明します。

1.1 パネル操作の概要

LT270 S2 では、装置の状態参照および設定を行うときに、オペレーターパネルまたはリモートパネルを使用します。

リモートパネルを使用する場合は、あらかじめオペレーターパネルでネットワーク設定を行っておく必要があります。

1.1.1 オペレーターパネルの概要

オペレーターパネルは、フロント外扉の中央付近にあります。オペレーターパネルでは、ライブラリやドライブ状態を参照／設定する、および CAS のマガジン扉を開けるなどの様々な操作を行えます。オペレーターパネルの画面に表示されるボタンにタッチして、メニューの切り替え、機能の選択、設定値の入力などを行います。オペレーターパネルの画面は、イニシャライズ画面およびメニュー画面に分類されます。

■ イニシャライズ画面

ライブラリの電源が投入されると、イニシャライズ動作が開始します。イニシャライズ画面では、ライブラリの初期化動作の進捗状況が表示されます。また、拡張構成では自キャビネットのキャビネット番号が表示されます。

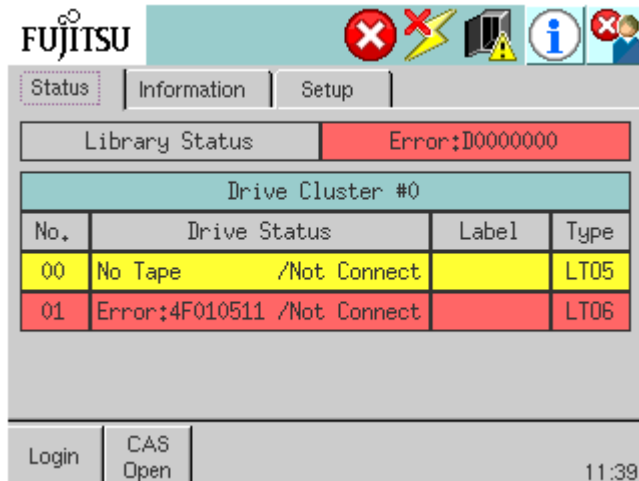
図 1.1 イニシャライズ画面

```
Cabinet ID 0
L RDF FPGA Config Start.
U RDF FPGA Config Start.
Serial barcode read start.
== Issue_SerialReadCmd ==
L RDF FPGA Config      [OK]
U RDF FPGA Config      [OK]
L RDF Connection Start.
U RDF Connection Start.
L RDF Connection.      [OK]
U RDF Connection.      [OK]
L Robot Serial Read Selftest.
```

■ メニュー画面

イニシャライズ動作が終了すると、オペレーターパネルはメニュー画面になります。

図 1.2 メニュー画面



1.1.2 リモートパネルの概要

リモートパネルを使用して、ライブラリ／ドライブ状態の参照や設定、およびドライブのクリーニングなどの操作を、Web ブラウザから LAN 経由で行うことができます。

● 備考

- リモートパネルの推奨動作環境については、以下の URL から「リモートパネル /Web パネルの Internet Explorer /OS 対応状況」を参照してください。
<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/storage/manual/>
- リモートパネルは、Cookie および Java Script を使用しています。
ご利用の Web ブラウザで、Cookie および Java Script の設定を有効にしておいてください。

リモートパネルを使用するには、あらかじめオペレーターパネルでネットワーク設定を行い、IP アドレス／サブネットマスク／ゲートウェイを有効にしておく必要があります。設定後に LT270 S2 を再起動し、Web ブラウザで以下の URL を指定してください。

`http:// < 装置に設定した IP アドレス >/`

または、

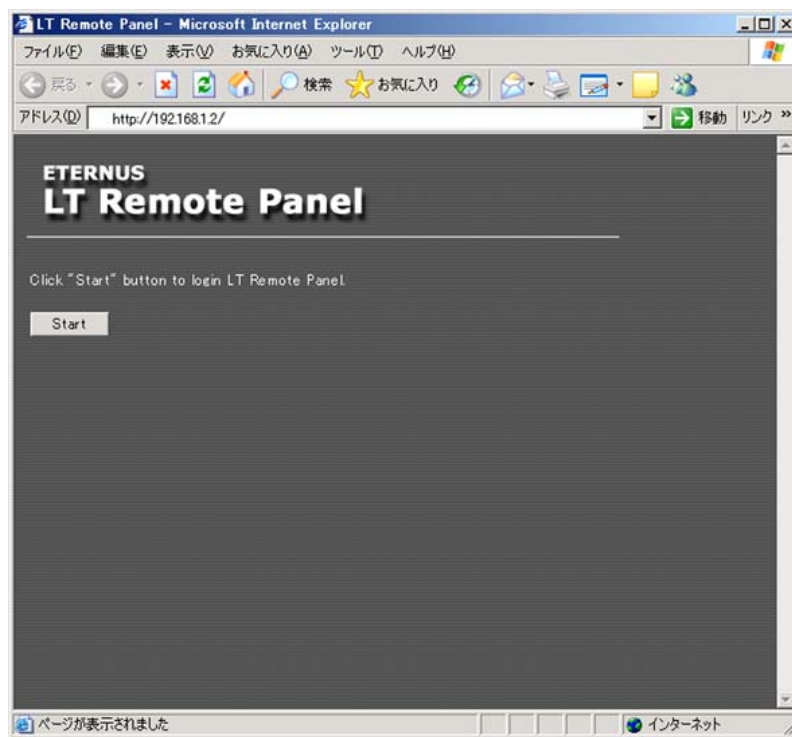
`https://< 装置に設定した IP アドレス >/`

● 備考

暗号鍵管理オプションを適用している装置では、https で接続できます。

LT270 S2 に接続すると、以下の画面が表示されます。

図 1.3 リモートパネルのスタート画面

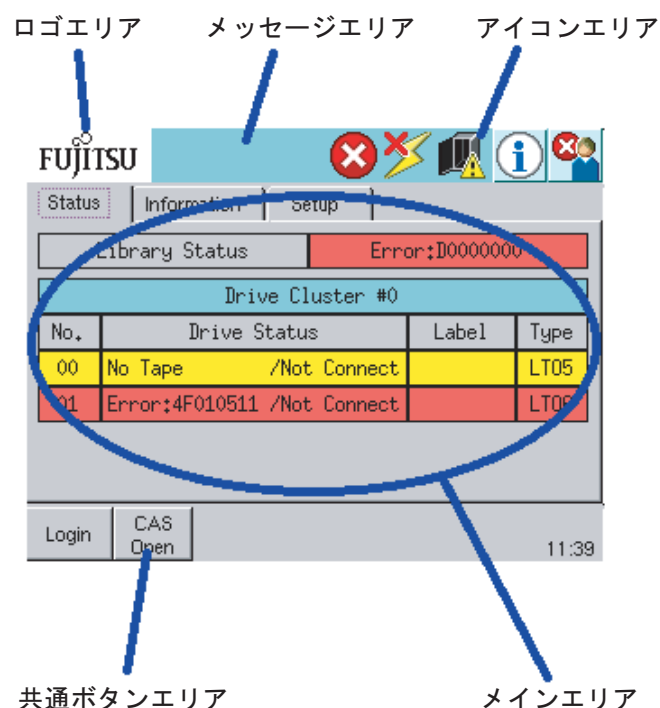


1.2 操作画面

1.2.1 オペレーターパネル画面の画面構成



オペレーターパネルのメニュー画面は、5つのエリアで構成されます。

図 1.4 オペレーターパネル (エリア構成)



- **ロゴエリア**
富士通のロゴが表示されます。
- **メッセージエリア**
リモートパネルからの操作中は「Remote panel operating」のメッセージが表示されます。操作中の論理ライブラリユニーク名を表示します（論理ライブラリ構成時のみ）。
- **メインエリア**
ライブラリ／ドライブ状態の表示やメニュータブが押されたときのボタン操作領域です。メニュータブには、以下の種類があります。

表 1.1 メニュー画面のタブ機能





タブ名	用途	機能
[Status] タブ	ライブラリ／ドライブ状態の参照	ライブラリやドライブの状態が参照できます。
[Information] タブ	ライブラリ／ドライブ設定情報の参照	CAS マガジンセルのカートリッジテープレベル名、ライブラリ／ドライブの設定情報、エラーログなどが参照できます。
[Setup] タブ	ライブラリ／ドライブ情報の設定	ネットワークなどの設定を行うことができます。  備考 管理者アカウントでのログインが必要です。
[Operation] タブ	ライブラリの操作	ドライブへのロード、マニュアルイジェクト、マニュアルクリーニングなどの設定を行うことができます。  備考 管理者アカウントでのログインが必要です。



● アイコンエリア

ライブラリのステータスがアイコンでリアルタイムに表示されます。ライブラリの状態を示すアイコンは、タッチしている間その内容が表示されます。また、ライブラリアラームが発生すると、アラームボタンが表示されます。

表示されるアイコンには、以下の種類があります。

表 1.2 アイコンの種類

アイコン	名称	機能
	Library Error アイコン	ライブラリのハードウェアエラーが発生すると点灯します。
	CAS Opened アイコン	Cartridge Access Station のマガジン扉が開くと点灯します。
	Library Offline アイコン	ライブラリが Offline 状態になると点灯します。  備考 保守員による Offline 設定が行われると、このアイコンが点灯します。

アイコン	名称	機能
	Sign Information ボタン	データカートリッジ／クリーニングカートリッジ／ロボット／ドライブが交換基準の予兆に達した場合、およびデータカートリッジ／クリーニングカートリッジが交換基準に達した場合は Sign Information ボタンが表示されます。このボタンを押すと、インフォメーション事象が表示されます。
	Library Alarm ボタン	ライブラリやドライブのアラームが発生した場合、およびロボット／ドライブが交換基準に達した場合は Library Alarm ボタンが表示されます。このボタンを押すと、アラームの事象が表示されます。

● 共通ボタンエリア

操作できるボタンには、以下の種類があります。

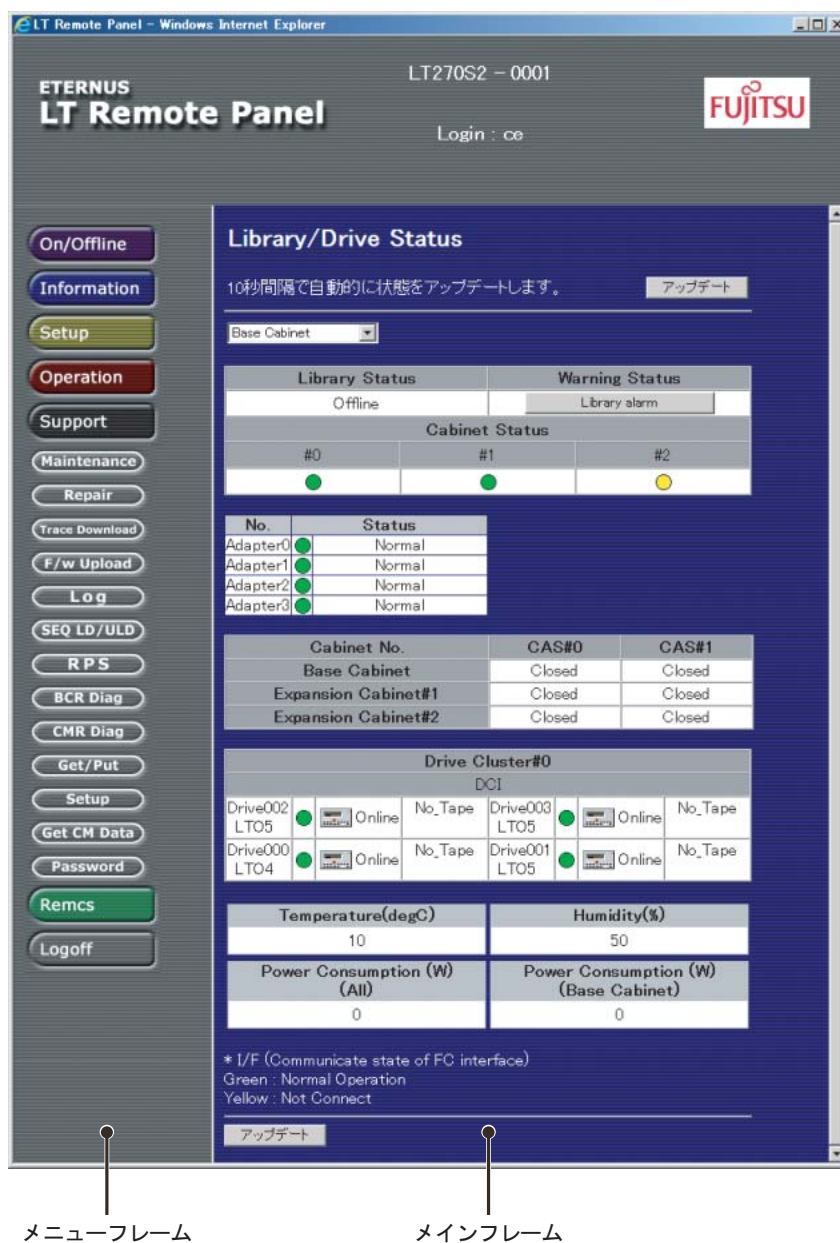
表 1.3 共通ボタンの種類

ボタン名	機能
[Login] / [Logout] ボタン	管理者メニューへのログインやログアウトを行います。 ログインパスワードについては、 [2.7.4 パスワードの設定] (P.55) を参照してください。
[CAS Open] ボタン	CAS 扉を開けるメニューへショートカットします。
[Back] ボタン	メニュー画面の操作で1つ前の画面に戻ります。
[Next] / [Back] ボタン	メニュー画面の操作で次画面／前画面へ移動します。
[OK] ボタン	メニュー画面の操作で実行を開始します。
[▲] / [▼] ボタン	ホーム画面や選択画面でページの UP / DOWN スクロールを行います。

1.2.2 リモートパネルの画面構成

リモートパネルの操作画面は、メニューフレームとメインフレームで構成されます。

図 1.5 リモートパネル（フレーム構成）



- **メニューフレーム**

状態参照／設定／操作を行うメニューが表示されます。

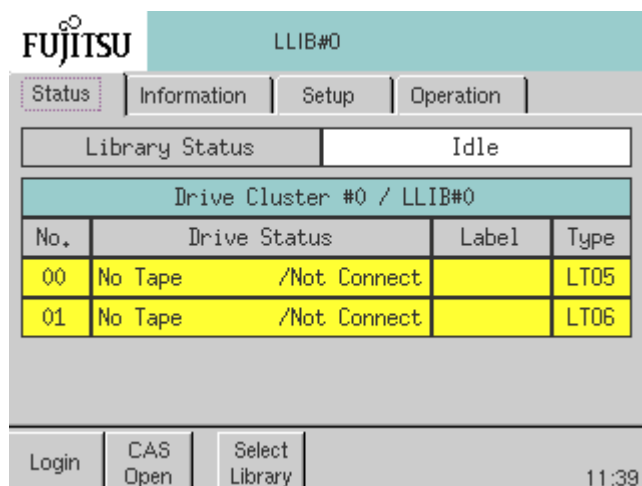
- **メインフレーム**

メニューフレームで選択されたメニューの設定／操作を行うための画面が表示されます。

1.2.3 論理ライブラリ機構オプションの操作画面

論理ライブラリ機構オプションで論理ライブラリを構成すると、オペレーターパネルの画面や操作方法が一部変更されます。変更時は、[図 1.6](#) に示すようにメッセージエリアに現在操作中の論理ライブラリユニーク名が表示され、共通ボタンエリアには [Select Library] ボタンが追加されます。[Select Library] ボタンを使用して選択中の論理ライブラリを切り替えることが可能です。

図 1.6 論理ライブラリ構成時の操作画面

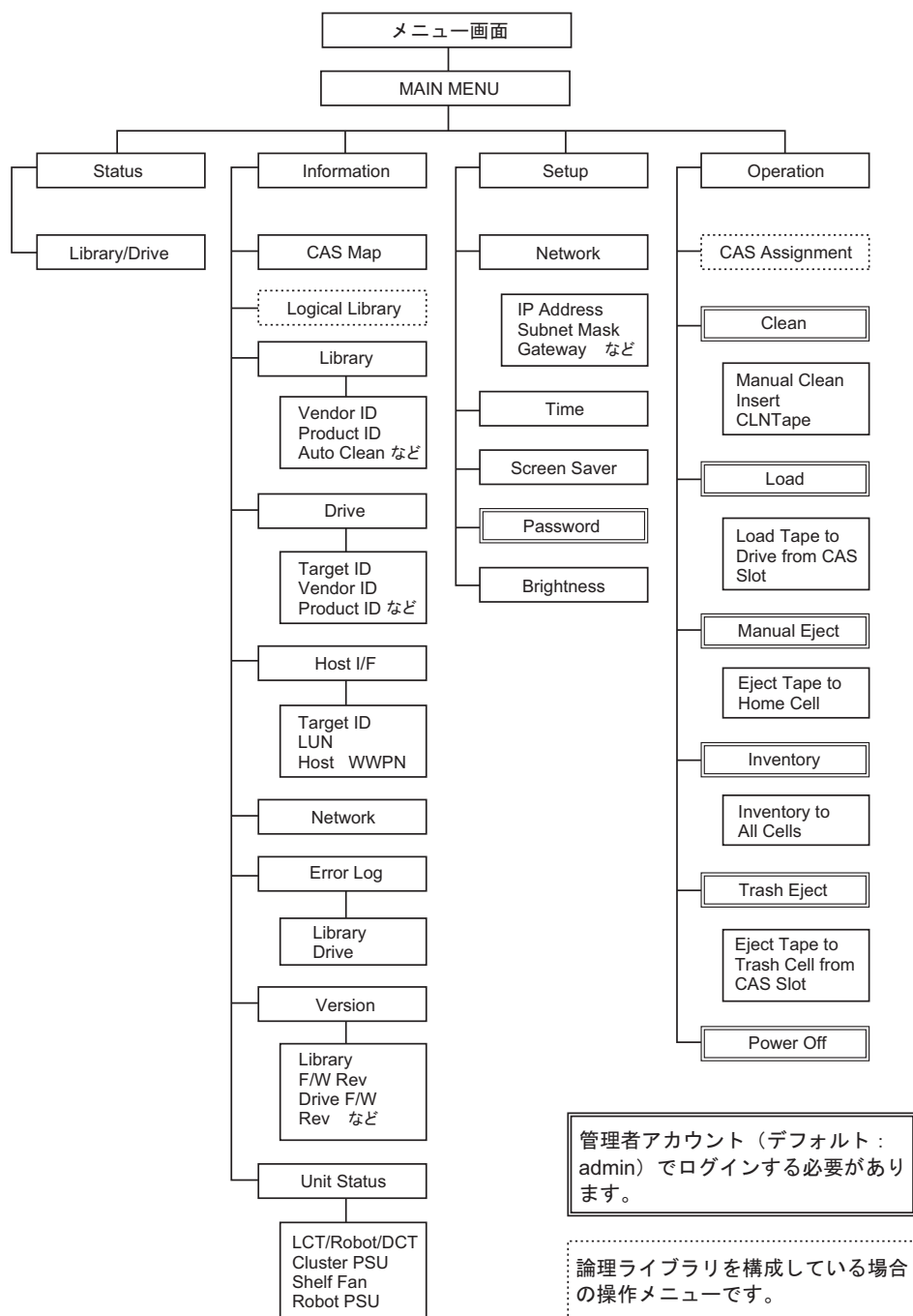


1.3 メニューツリー

オペレーターパネル、およびリモートパネルのメニュー構造について説明します。

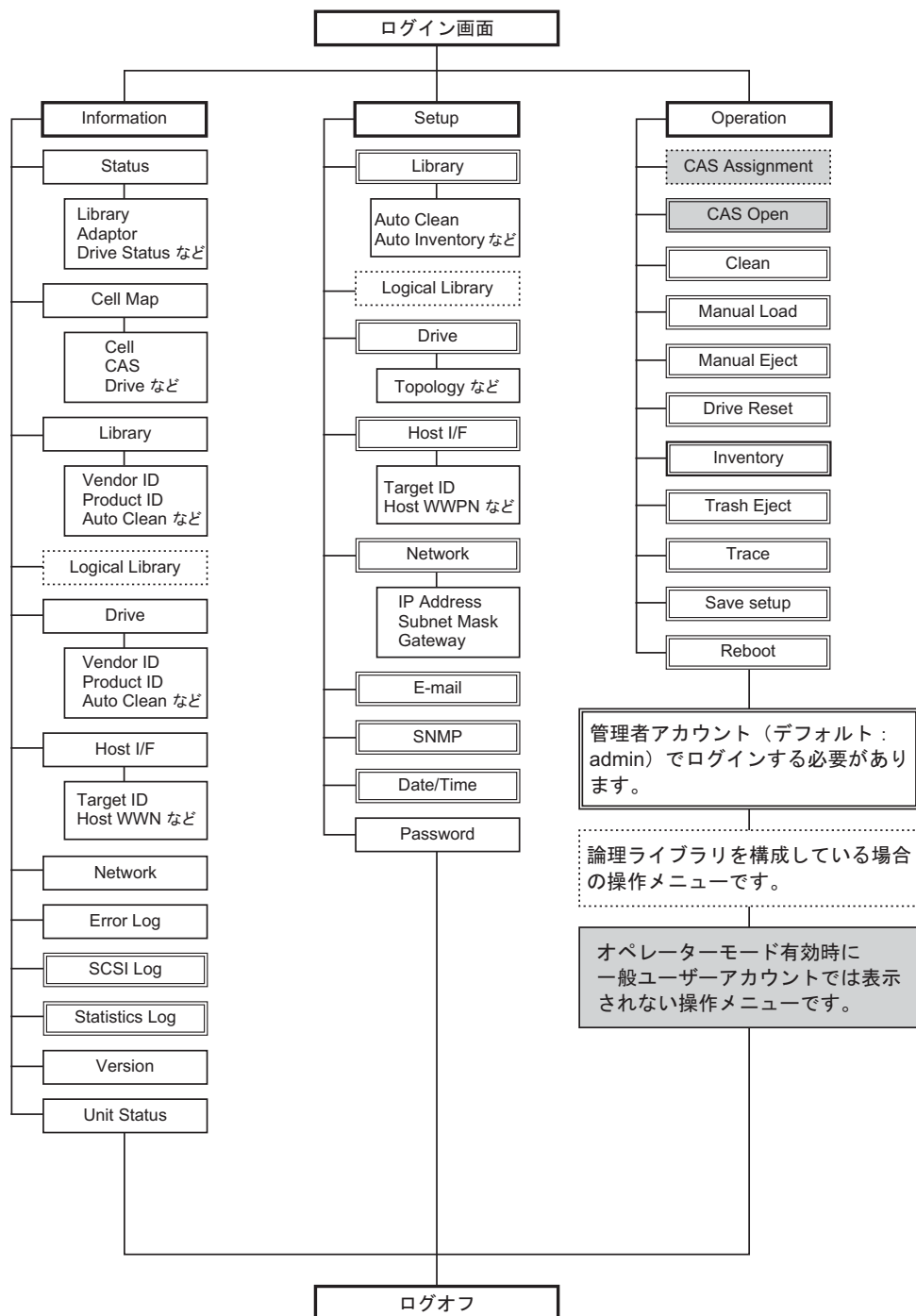
1.3.1 オペレーターパネルのメニューツリー

図 1.7 オペレーターパネルのメニュー構造



1.3.2 リモートパネルのメニューツリー

図 1.8 リモートパネルのメニュー構造



第2章

オペレーターパネルの操作

オペレーターパネルを使用して行える各種操作について説明します。

2.1 ログイン

オペレーターパネルのログイン手順を説明します。

ログインには、「管理者」、「オペレーター」の2つログインアカウントがあり、それぞれパスワードが異なります。なお、一般ユーザーアカウントで操作する場合、ログインは不要です。

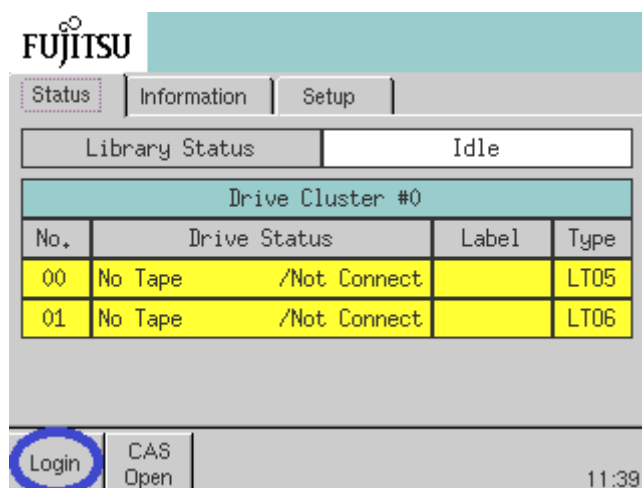
● 備考

オペレーターアカウントは、オペレーターモードを有効にすると利用できます。アカウントの設定については、[\[2.17 オペレーターアカウントの設定\] \(P.73\)](#) を参照してください。

手順

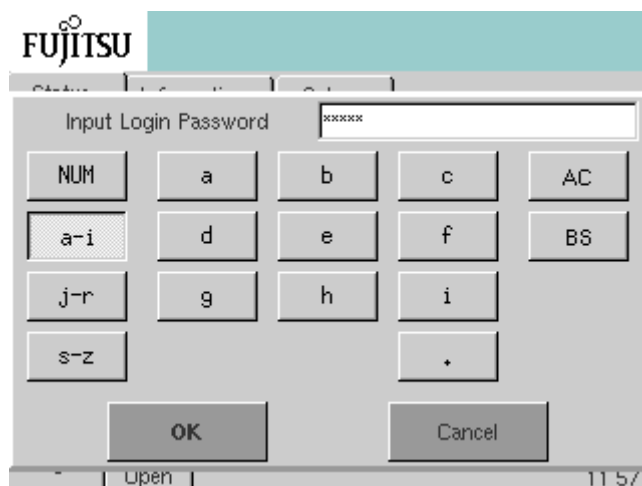
- 1 オペレーターパネルの [Login] ボタンを押すと、パスワードを入力する画面が表示されます。

図 2.1 ログイン画面 ([Login] ボタン選択)



- 2** アカウントごとに設定されたパスワードを入力後、[OK] ボタンを押します（デフォルトではパスワードは管理者：admin オペレーターアカウント：operate となっています）。
ログインが完了すると、共通ボタンエリアに [Logout] ボタンが表示されます。

図 2.2 ログイン画面（パスワード入力）



手順ここまで

ログインアカウントにより、オペレーターパネルの操作メニューが制限されます。

表 2.1 アカウントごとの操作メニュー（オペレーターパネル）

ログインアカウント	操作可能なメニュー	パスワード
一般ユーザー	状態参照	—
管理者	状態参照／設定／操作	admin（初期値）
オペレーター	状態参照／操作	operate（初期値）

2.2 ステータス表示

メニュー画面の [Status] タブでは、ライブラリおよびドライブのステータスがリアルタイムに表示されます。それぞれのステータスについては[表 2.2](#)、[表 2.3](#) および[表 2.4](#) を参照してください。

● 備考

ドライブのステータスはドライブクラスタ単位で表示されます。論理ライブラリを構成している場合は、ドライブクラスタ番号と併せて論理ライブラリのユニーク名が表示されます。

2.2.1 ライブラリのステータス

表示されるライブラリのステータスには、以下の種類があります。

表 2.2 ライブラリのステータス

ステータス名	状態
Initializing	ライブラリのイニシャライズ動作中であることを示します。
Idle	正常な状態で停止中であることを示します。
Moving	ロボットが動作中であることを示します。
Checking Inventory	CAS やセルのインベントリ中であることを示します。
Front Door Opened	フロント内扉が開いた状態であることを示します。
Offline	ライブラリが非活性 (Offline) 状態であることを示します。
Error	ライブラリがエラー状態であることを示します。 同時にエラーコードが表示されます。
Firmware Updating	ファームウェアのアップデート中であることを示します。
Not Connect (N.C)	ホストと接続されていないアダプター番号が表示されます。

2.2.2 ドライブ／カートリッジテープのステータス

表示されるドライブとカートリッジのステータスには、以下の種類があります。[表 2.4](#) のステータスは、[表 2.3](#) 内のステータスに付加されて表示される補足情報です。

表 2.3 ドライブとカートリッジテープのステータス

ステータス名	状態
Initializing	ドライブの電源が投入されイニシャライズ動作中であることを示します。
No Tape	カートリッジテープがマウントされていない状態であることを示します。
Loading	ロード動作中であることを示します。
Ready	ロード動作が完了し処理可能な状態であることを示します。
Write Protected	ロードされたカートリッジテープが書き込みの禁止された状態であることを示します。
Rewinding	カートリッジテープが Rewind されていることを示します
Reading	カートリッジテープが Read されていることを示します。
Writing	カートリッジテープが Write されていることを示します。
Erasing	カートリッジテープが Erase されていることを示します。
Locating	カートリッジテープが Locate されていることを示します。
Unloading	アンロード動作中であることを示します。
Unloaded	アンロード動作が完了したことを示します。
Cleaning	クリーニングカートリッジがロードされクリーニング処理中であることを示します。
Required Clean	ドライブがクリーニングを要求している状態であることを示します。
Need Clean	ドライブがクリーニングを要求している状態であることを示します（クリーニングカートリッジ以外はロードできません）。
Error	ドライブのエラーが発生した状態であることを示します。 エラーコードも併せて表示されます。
FAN Alarm	ドライブユニットの冷却ファンに異常があることを示します。
Media Error	ロードしたカートリッジテープに異常があることを示します。
Updating	ドライブのファームウェアがアップデート処理中であることを示します。
Power Off	ドライブの電源が OFF 状態であることを示します。
Not Installed	ドライブが搭載されていない状態であることを示します。

表 2.4 ドライブとカートリッジテープのステータス（詳細）

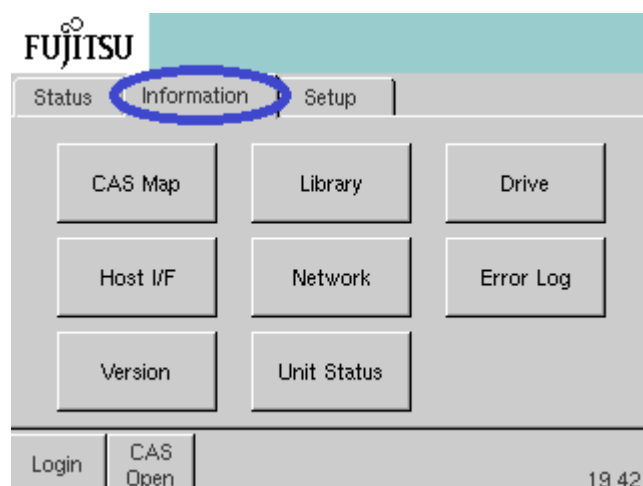
ステータス名	状態
XXX / Not Connect	FC ケーブルが接続されていない（Not Connect）状態であることを示します。
XXX / Offline	ドライブが非活性（Offline）状態であることを示します。

ステータス名	状態
XXX / Trace Saving	ドライブに異常が発生したため、障害解析用のデータ（トレースデータ）を自動採取している状態であることを示します。
XXX / Prevent	ホストからドライブが予約されている状態であることを示します。 注意 この状態ではマニュアルイジェクト操作の対象ドライブには含まれず、排出操作を行うことができません。

2.3 ライブラリ情報の表示

ライブラリやドライブの設定情報の参照は Information メニューで行います。Information メニューを表示するにはメインエリアにある [Information] タブを押します。

図 2.3 [Information] タブの選択



2.3.1 CAS のカートリッジテープ情報

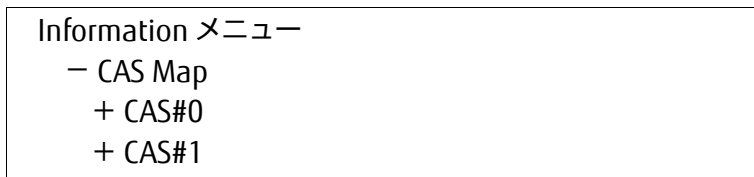
CAS セルアドレス、ラベル名、カートリッジテープタイプなどの CAS のカートリッジテープ情報を参照できます。

手順

- 1 Information メニューから [CAS Map] ボタンを押します。

Information メニュー
+ CAS Map

2 参照する CAS を選択します。



3 CAS MAP 表示画面では、[Up/Down] ボタンで参照する CAS セル番号のページを切り替えます。

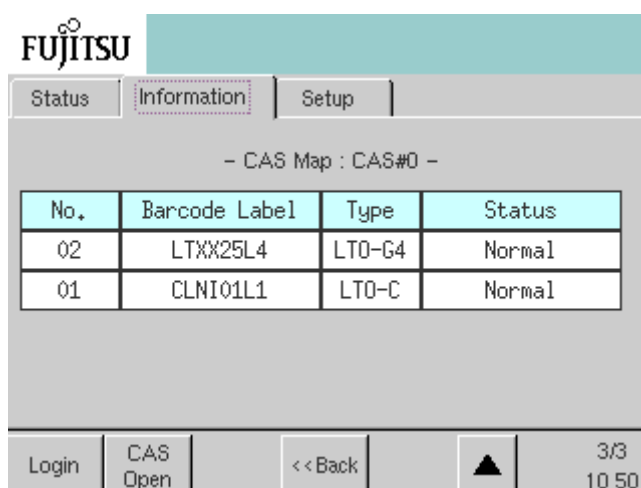
以下のカートリッジ情報が表示されます。

- Barcode Label : バーコードラベル名
- Type : カートリッジテープタイプ (LTO-G2 など)
- Status : カートリッジテープの状態

表 2.5 カートリッジ情報

ステータス	内容
Normal	使用可能な状態
Media Error	メディアエラーが発生し、使用できない状態
Unusable Cell	選択した CAS で CIC センサーエラーが発生している状態
Invalid	バーコードエラーが発生し、カートリッジテープを認識できない、または未サポートカートリッジテープの状態
Cell Error	セルエラーが発生している状態
Limit	クリーニングカートリッジが使用限度を超えている状態
No Label	カートリッジテープにラベルが貼られていない状態
Unmatch	カートリッジラベルのテープ種と CM (Cartridge Memory) のカートリッジテープ情報に矛盾を検出している状態

図 2.4 CAS セルのカートリッジテープ情報参照画面



手順ここまで

2.3.2 ホストインターフェースの設定情報

ホストインターフェースアダプターのトポロジー設定や WWN などが参照できます。

手順

- 1 Information メニューから [Host I/F] ボタンを押します。

Information メニュー
+ Host I/F

- 2 情報を参照したいアダプターのアダプター番号を押します。

Information メニュー
- Host I/F
+ Adapter#0

● 備考

アダプター番号はライブラリアダプターカード搭載位置の上から下に、Adapter#0、Adapter#1、Adapter#2、Adapter#3 となります。

- 3 指定されたアダプターの情報が表示されます。

- Status：接続されたカードの状態
 - Normal 正常なカードであることを示します。
 - Error 認識できない異常なカードであることを示します。
 - Not Connect ホストと接続されていないことを示します。
- Type：インターフェースのタイプとカード種別
Fiber Channel とカード種別（1G/2G/4G/8G）が表示されます。
- Topology：トポロジー設定の状態
Fabric 接続または Arbitrated Loop 接続（直結）が表示されます。
- Addressing Mode：アドレッシングモード（Arbitrated Loop 接続の場合のみ）
Hard Address または Soft Address が表示されます。
- LOOP ID：ライブラリの LOOP ID
Arbitrated Loop 接続で Hard Address 設定の場合のみ表示されます。
- Link Speed：カードの Link Speed 設定（Auto Negotiation）が表示されます。
- WWNN：アダプターの World Wide Node Name
- WWPN：アダプターの World Wide Port Name
- LUN：LUN 値（ライブラリは 0 固定となります）。

図 2.5 ホストインターフェースの設定情報参照画面
(Fabric 接続で設定されている場合)

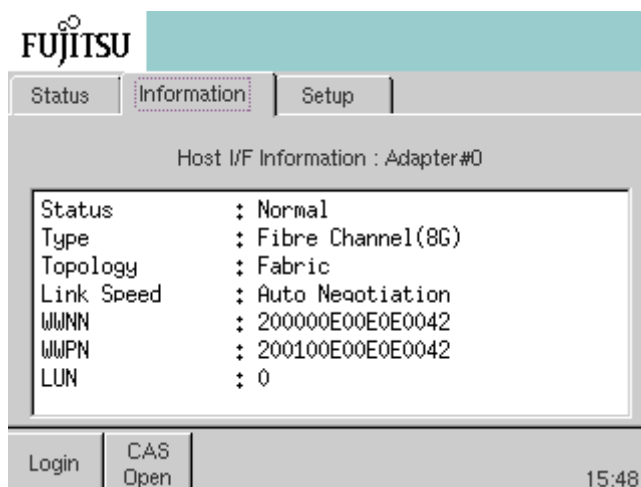


図 2.6 ホストインターフェースの設定情報参照画面
(AL 接続 / Hard Address で設定されている場合)

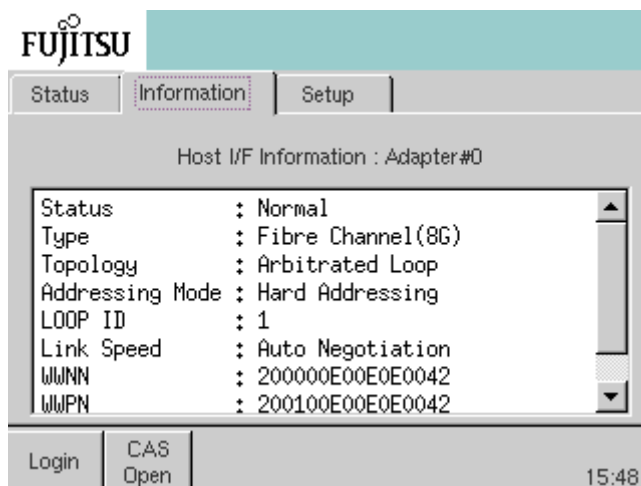
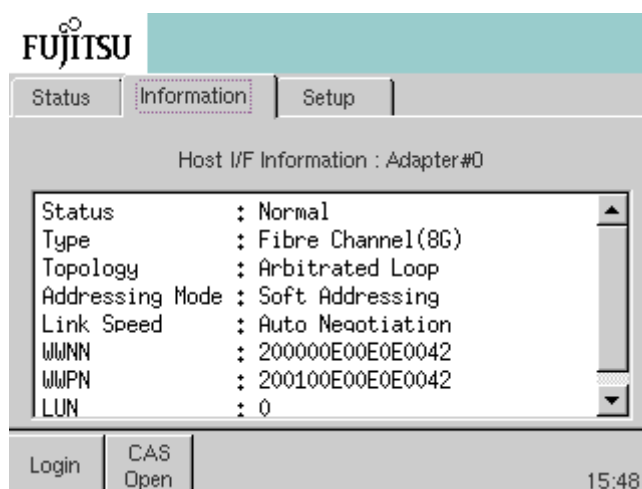


図 2.7 ホストインターフェースの設定情報参照画面
(AL 接続 / Soft Address で設定されている場合)



手順ここまで

2.3.3 ライブラリの設定情報

構成情報や Vendor ID、Product ID、設定情報などのライブラリ情報を参照できます。

手順

- 1 Information メニューから [Library] ボタンを押します。

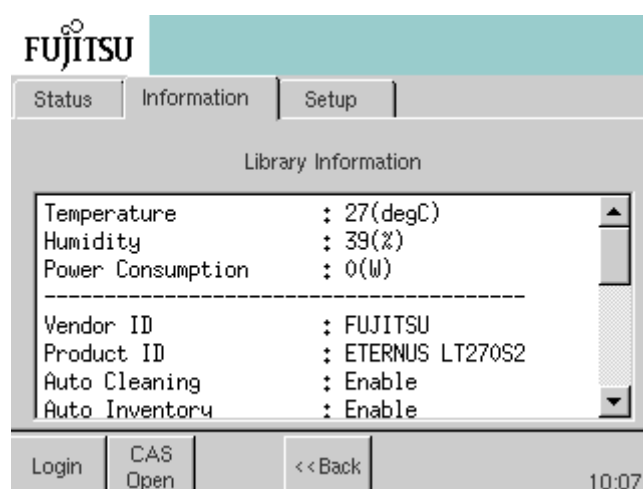
Information メニュー
+ Library

- 2 以下の情報が表示されます。

- Temperature / Humidity : ライブラリ装置内の温度 / 湿度
- 装置の構成情報
 - Installed Clusters : ドライブクラスタ数
 - Installed Drives : 搭載されているドライブ数
 - Installed CASs : 使用可能な CAS 数
 - Installed Cells : ユーザーセル数 (クリーニングセルなどの特殊セルは含まれません)
- ライブラリ設定情報
 - Vendor ID / Product ID : ライブラリの Vendor ID / Product ID (論理ライブラリを構成すると、ライブラリの Vendor ID / Product ID は論理ライブラリごとに設定され、論理ライブラリ構成情報に表示されます ([\[2.3.4 論理ライブラリの構成情報\]](#) (P.34) 参照)。)
 - Auto Cleaning : オートクリーニング機能の設定状態

- Auto Inventory : オートインベントリ機能の設定状態
- Fast Load : ファーストロード機能の設定状態
- モデル情報
 - Model Type / Cell Option : モデルタイプ/セルオプション
 - Serial No. : シリアル番号
 - Model Name : モデル名
 - Check Code : 遠隔保守機能で設定される装置固有の設定値
 - Device Name : リモートパネルを使用した SNMP Trap 通報機能で設定されるユニークなライブラリ装置名

図 2.8 ライブラリの設定情報参照画面



手順ここまで

2.3.4 論理ライブラリの構成情報

論理ライブラリを構成すると、操作対象の論理ライブラリの Vendor ID、Product ID、割り当てられたセル数/ドライブ番号/アダプター番号を参照できます。

手順

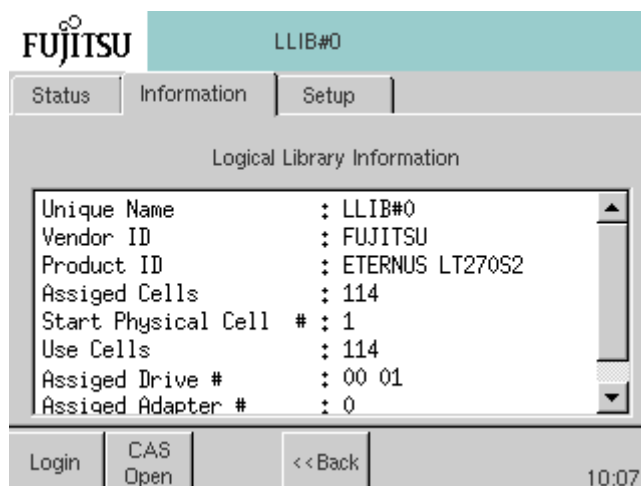
- 1 Information メニューから [Logical Library] ボタンを押します。

Information メニュー
+ Logical Library

- 2 以下の情報が表示されます。
 - Unique Name : 論理ライブラリ名 (ユニーク名)
 - Vendor ID : 論理ライブラリごとのベンダー ID
 - Product ID : 論理ライブラリごとのプロダクト ID

- Assigned Cells : 割り当てられたセル数
- Start Physical Cell # : 開始セル番号
- Use Cells : 運用セル数
- Assigned Drive # : 割り当てられたドライブ番号
- Assigned Adapter # : 割り当てられたアダプター番号

図 2.9 ライブラリの構成情報参照画面



手順ここまで

2.3.5 ドライブの設定情報

ドライブのトポロジー設定、Vendor ID、Product ID、WWPN/WWNN を参照できます。

手順

- 1 Information メニューから [Drive] ボタンを押します。

Information メニュー
+ Drive

- 2 参照するドライブを、ドライブ番号で指定します。

Information メニュー
- Drive
+ DRV#00
+ DRV#01

3 指定されたドライブについて以下の情報が表示されます。

- Drive I/F Type : インターフェースのタイプ (Fibre Channel)
- Drive Topology : トポロジー
Fabric 接続または Arbitrated Loop 接続 (直結) が表示されます。
- Drive Addressing Mode : アドレッシングモード (Arbitrated Loop 接続の場合のみ)
Hard Address または Soft Address が表示されます。
- Drive LOOP ID : ドライブの LOOP ID
Hard Address 設定の場合のみ表示されます。
- Drive Link Speed : ドライブの Link Speed 設定 (Auto Negotiation/1Gbps/2Gbps/
4Gbps/8Gbps) が表示されます。Hard Address 設定の場合のみ表示されます。
- Drive Type : ドライブのホストインターフェースタイプが表示されます。
- Drive Vendor ID/Product ID : ドライブの Vendor ID/Product ID
- Drive Serial No. : シリアル番号
- Drive WWNN : アダプターの World Wide Node Name
- Drive WWPN : アダプターの World Wide Port Name

図 2.10 ドライブの設定情報参照画面 (Soft Address で設定されている場合)

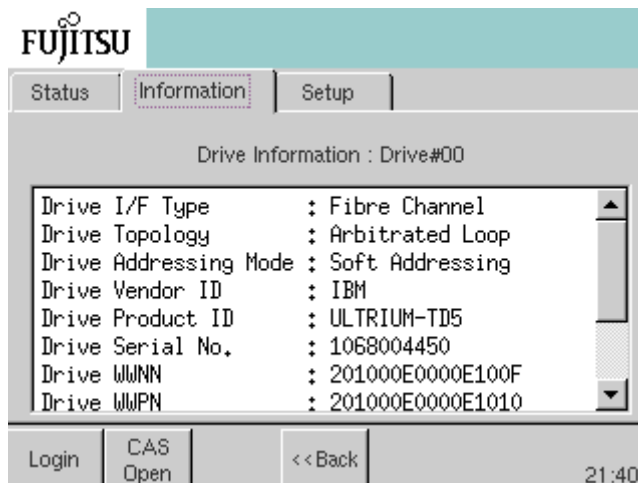
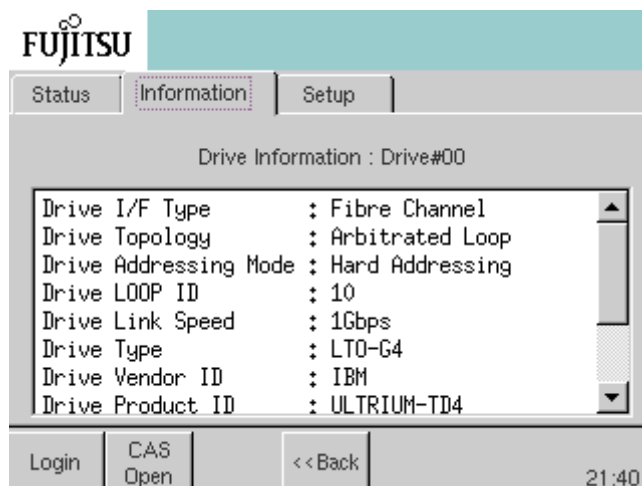


図 2.11 ドライブの設定情報参照画面（Hard Address で設定されている場合）



手順ここまで

2.3.6 ネットワークの設定情報

ネットワークの設定情報を参照できます。

手順

- 1 Information メニューから [Network] ボタンを押します。

Information メニュー
+ Network

- 2 以下の情報が表示されます。

■ IPv4 の場合

- IPv4 有効／無効
IPv4 が有効に設定されている場合は、以下の項目およびアドレスが表示されます。
- DHCP 有効／無効
- IP Address
- Subnet Mask
- Gateway Address
- NTP Server Address

■ IPv6 の場合

- IPv6 有効／無効
IPv6 が有効に設定されている場合は、以下の項目およびアドレスが表示されます。
- INPUT 自動／手動

- Link Local Address
- Global Address
- Length of Subnet Prefix
- Gateway Address
- NTP Server Address

図 2.12 ネットワークの設定情報参照画面 (IPv4 有効 / IPv6 有効の場合)

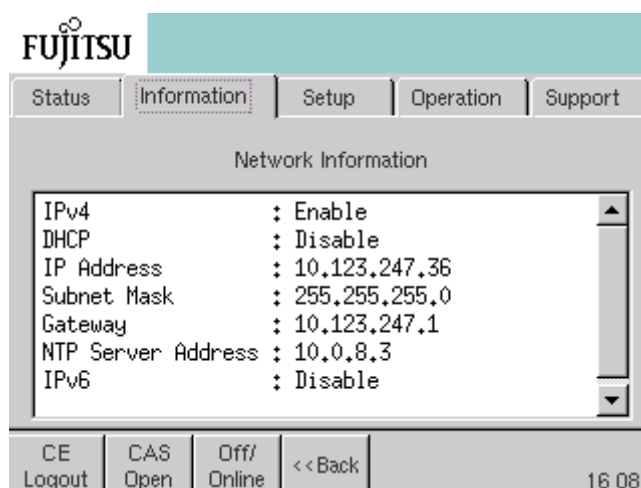
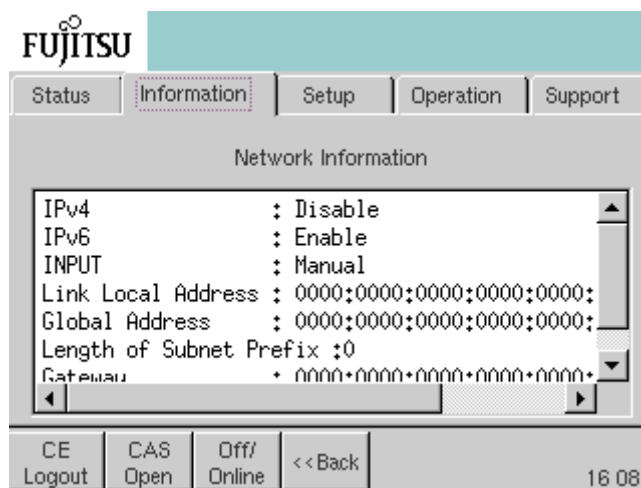


図 2.13 ネットワークの設定情報参照画面 (IPv4 無効 / IPv6 有効の場合)



手順ここまで

2.4 エラー情報の表示

発生しているハードウェアエラー情報、および解除されていないエラー情報を参照できます。

▶ 注意

落雷などの影響により、オペレーターパネルにアラーム情報 (I2C Error Alarm) が表示される場合があります。「I2C Error Alarm」が表示されると、リモートパネルに表示される消費電力の更新が停止しますが、装置の機能には影響はないため継続して使用できます。
なお、「I2C Error Alarm」は、本装置を再起動することで復旧します。
本装置の再起動で復旧しない場合、弊社保守サービスセンターにお問い合わせください。

2.4.1 ライブラリのハードウェアエラー情報

ライブラリに発生しているハードウェアエラー情報を表示します。

手順

- 1 Information メニューから [Error Log] ボタンを押します。

Information メニュー
+ Error Log

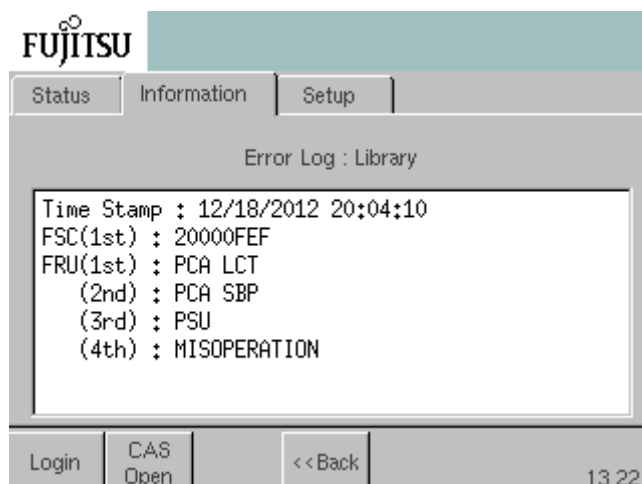
- 2 [Library] ボタンを押すと、ライブラリのエラー情報 (発生日時、エラーコードなど) が表示されます。

Information メニュー
- Error Log
+ Library

● 備考

過去 20 件のエラー情報が新しい順に表示されます。

図 2.14 ライブラリのハードウェアエラー情報表示画面



手順ここまで

2.4.2 ドライブのハードウェアエラー情報

ドライブに発生しているハードウェアエラー情報を表示します。

手順

- 1 Information メニューから [Error Log] ボタンを押します。

```
Information メニュー
+ Error Log
```

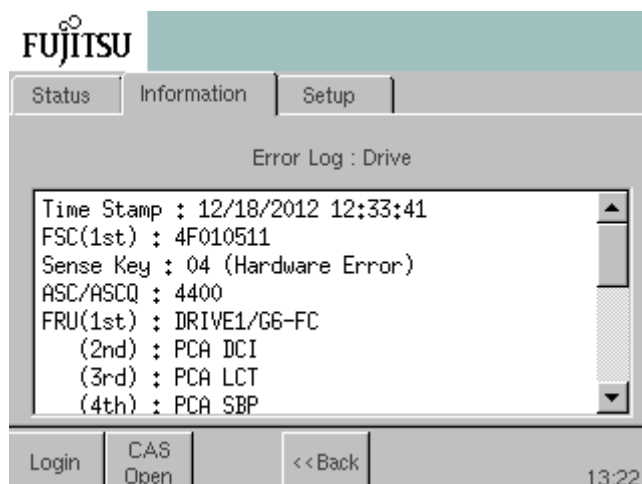
- 2 [Drive] ボタンを押すと、ドライブのエラー情報（発生日時、エラーコードなど）が表示されます。

```
Information メニュー
- Error Log
+ Drive
```

● 備考

過去 20 件のエラー情報が新しい順に表示されます。

図 2.15 ドライブのハードウェアエラー情報表示画面



手順ここまで

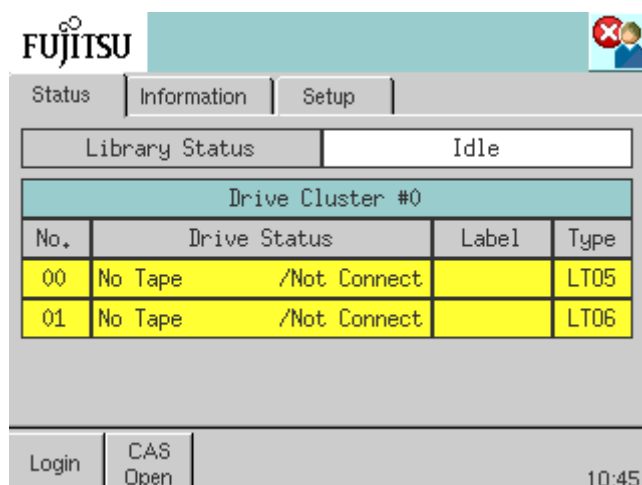
2.4.3 アラーム事象の情報

発生しているアラーム情報を表示します。

手順

- 1 アラーム事象が発生するとアイコンエリアにアラームボタンが点灯します（アラーム事象が発生していない場合はアラームボタンは表示されません）。

図 2.16 アラームボタンの点灯

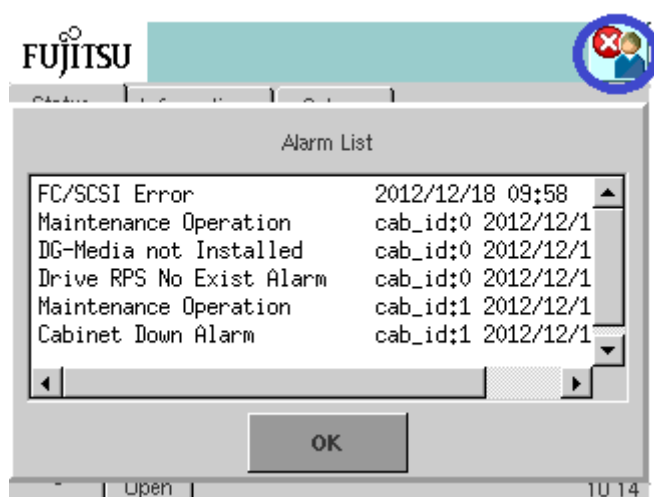


2 アラームボタンを押すと、現在発生しているアラーム内容が表示されます。

● 備考

アラーム情報の詳細は、『FUJITSU Storage ETERNUS LT270 S2 テープライブラリ ユーザーズガイド 導入/運用編』の「7.12.1.2 ライブラリのエラータイプ ■ライブラリのアラームエラー」を参照してください。

図 2.17 アラーム情報表示画面



手順ここまで

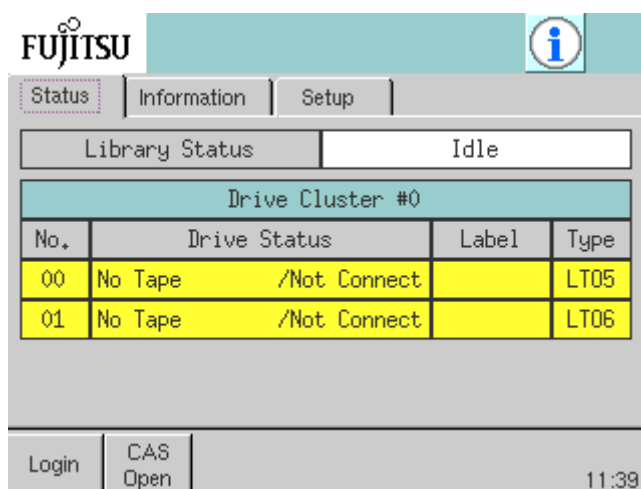
2.4.4 インフォメーション事象の情報

発生しているインフォメーション情報を表示します。

手順

- 1 インフォメーション事象が発生するとアイコンエリアに [Sign Information] ボタンが点灯します（インフォメーション事象が発生していない場合はインフォメーションボタンは表示されません）。

図 2.18 インフォメーションボタンの点灯

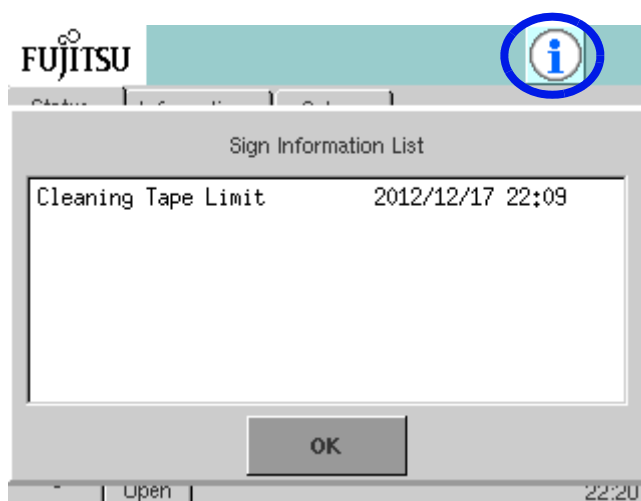


- 2** [Sign Information] ボタンを押すと、現在発生しているインフォメーション内容が表示されます。

● 備考

インフォメーション情報の詳細は、『FUJITSU Storage ETERNUS LT270 S2 テープライブラリ ユーザーズガイド 導入／運用編』の「7.12.1.2 ライブラリのエラータイプ ■ライブラリのインフォメーション」を参照してください。

図 2.19 インフォメーション情報表示画面



手順ここまで

2.5 ライブラリ／ドライブ版数の表示

ライブラリ／ドライブのファームウェア／ハードウェアの版数を参照できます。

手順

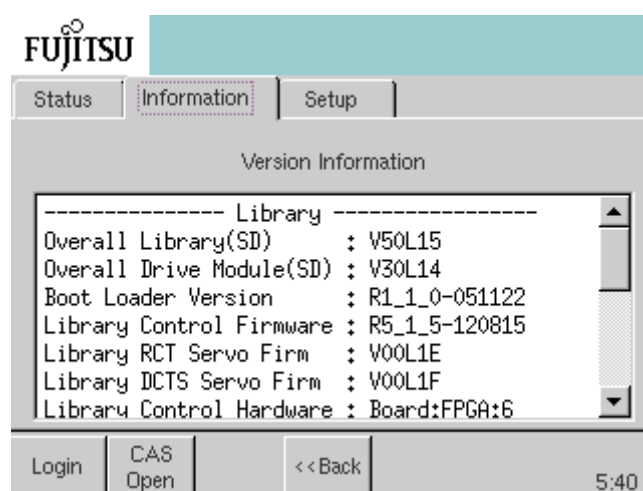
- 1 Information メニューから [Version] ボタンを押します。

Information メニュー
+ Version

- 2 ライブラリ／ドライブとして以下の情報が表示されます。

- ライブラリ
 - 全体版数 (Overall Library)
 - ブートローダ版数 (Boot Loader Version)
 - コントロール部ファームウェア版数 (Library Control Firmware)
 - サーボ部ファームウェア版数 (Library Servo Firmware)
 - コントロール部ハードウェア版数 (Library Control Hardware)
 - サーボ部ハードウェア版数 (Library Servo Hardware)
 - 1 世代前のファームウェア全体版数 (Old Overall Library)
- ドライブモジュール
 - 全体版数 (Overall Drive Module)
 - ドライブのファームウェア版数 (Drive Firmware)

図 2.20 ライブラリ／ドライブ版数情報参照画面



手順ここまで

2.6 各種ユニット情報の表示

各種ユニットの状態を参照できます。

手順

- 1 Information メニューから [Unit Status] ボタンを押します。

Information メニュー
+ Unit Status

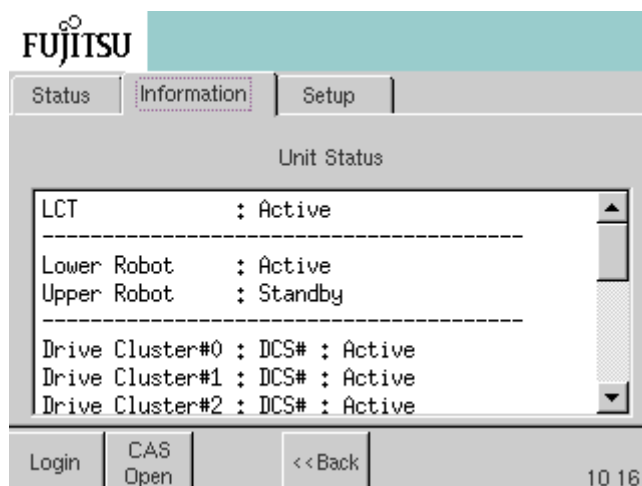
- 2 各種ユニットの状態として以下の情報が表示されます。

表 2.6 各種ユニットの状態表示

ユニット名	状態	
LCT	Active	稼働状態
	Standby	退避状態
	Power Off	電源 OFF 状態
	Error	エラー状態
Lower Robot Upper Robot	Active	稼働状態
	Standby	退避状態
	Offline	Offline で切り離された状態
	Error	エラー状態
	Power Off	電源 OFF 状態
	Not Installed	未装着状態
Drive Cluster#n DCI#0/#1	Active	稼働状態
	Error	エラー状態
	Power Off	電源 OFF 状態
	Not Installed	未装着状態
Drive Cluster#n Cluster PSU#0/#1	Active	稼働状態
	Error	エラー状態
	FAN Alarm	FAN エラーが発生した状態
	Power Off	電源 OFF 状態
	Not Installed	未装着状態
Shelf FAN#0/#1	Active	稼働状態
	FAN Alarm	FAN エラーが発生した状態
	Not Installed	未装着状態

ユニット名	状態	
Robot PSU#0/#1	Active	稼働状態
	Error	エラー状態
	FAN Alarm	FAN エラーが発生した状態
	Power Off	電源 OFF 状態
	Not Installed	未装着状態

図 2.21 各種ユニット情報表示画面



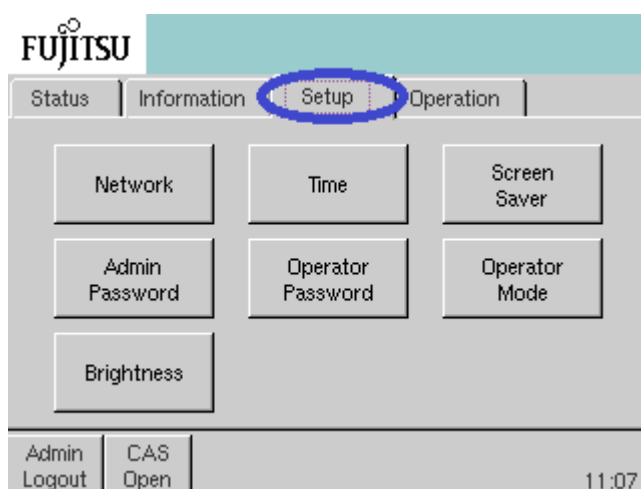
手順ここまで

2.7 ライブラリ情報の設定

ライブラリ情報を設定できます。設定可能な情報を以下に示します。

- ネットワーク情報
- 時計（日付、時刻、タイムゾーン）
- スクリーンセーバー
- パスワード
- オペレーターパネルの明るさ

図 2.22 [Setup] タブの選択



2.7.1 ネットワークの設定

LT270 S2 は、LAN (TCP/IP プロトコル) 通信機能を装備しています。

- リモートパネル機能
Web ブラウザからライブラリ/ドライブの参照や設定を行うことができます。
- E-mail 送信機能
ロボットやドライブでハードウェアエラーが検出されると、その障害情報が E-mail で通知されます。

● 備考

E-mail 送信機能の設定については、[「3.11.5 E-mail 機能の設定」\(P.127\)](#) を参照してください。

- REMCS 機能 (Remote Customer Support system)
LT270 S2 を富士通の保守管理システムに接続することで、異常発生の把握、修復時間の短縮、ファームウェアの自動配信などのサポートを行います。

● 備考

REMCS 機能のご利用については、保守員にご相談ください。

これらの機能を使用するためにはネットワーク情報の設定が必要になります。ネットワーク情報の設定は、IPv4 および IPv6 で可能です。

以下に設定方法を示します。

2.7.1.1 IPv4 ネットワークの設定

以下に IPv4 ネットワークの設定方法を示します。

手順

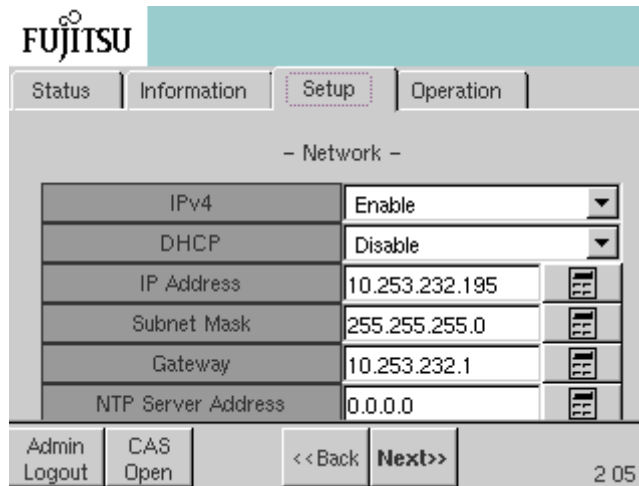
- 1 Setup メニューから [Network] ボタンを押し、さらに IPv4 を押します。

```
Setup メニュー
- Network
+ IPv4
```

- 2 リストボタンを押し、IPv4 を有効 (Enable) に設定します。

- 3 リストボタンを押し、DHCPの有効/無効 (Enable / Disable) を選択します。
DHCP無効 (Disable) を選択した場合は、IP Address、Subnet Mask、Gateway Address、NTP Server Address (必要な場合) を、テンキーボタンを押して入力します。
入力が終了したら [Next] ボタンを押してください。

図 2.23 IPv4 ネットワークの設定画面



- 4 確認画面が表示されます。
表示内容に問題がなければ [OK] ボタンを押します。
- 5 画面上に処理中メッセージが表示されます。設定が正常に終了すると Setup メニューに戻ります。

手順ここまで

2.7.1.2 IPv6 ネットワークの設定

以下に IPv6 ネットワークの設定方法を示します。

手順

- 1 Setup メニューから [Network] ボタンを押し、さらに IPv6 を押します。

```
Setup メニュー
- Network
+ IPv6
```

- 2 リストボタンを押し、IPv6 を有効 (Enable) に設定します。

- 3 リストボタンを押し、INPUT の設定 (Auto / Manual) を選択します。
Manual を選択した場合は、Link Local Address、Global Address、Length of Subnet Prefix、Gateway Address、NTP Server Address (必要な場合) を、テンキーボタンを押して入力します。
入力画面は 2 ページあります。[Next] ボタンおよび [Back] ボタンを押すとページ送り、ページ戻しが可能です。
すべての入力が終わったら、2 ページ目で [Next] ボタンを押してください。

図 2.24 IPv6 ネットワークの設定画面 (1/2)

Status	Information	Setup	Operation
- Network : User Port IPv6 1/2 -			
IPv6	Enable		
INPUT	Manual		
Link Local Address	0000:0000:0000:0000		
Global Address	0000:0000:0000:0000: 0000:0000:0000:0000		
Length of Subnet Prefix	0		
Admin Logout	CAS Open	<<Back	Next>>
22 35			

図 2.25 IPv6 ネットワークの設定画面 (2/2)

Status	Information	Setup	Operation
- Network : User Port IPv6 2/2 -			
Gateway	0000:0000:0000:0000: 0000:0000:0000:0000		
NTP Server Address	0000:0000:0000:0000: 0000:0000:0000:0000		
Admin Logout	CAS Open	<<Back	Next>>
22 36			

- 4 確認画面が表示されます。
表示内容に問題がなければ [OK] ボタンを押します。
- 5 画面上に処理中メッセージが表示されます。設定が正常に終了すると Setup メニューに戻ります。

手順ここまで

2.7.2 時計の設定


ライブラリを初めてセットアップするときは、ライブラリの時計を設定する必要があります。
時計はエラー情報に時刻を記録するときに必要となります。

▶ 注意

Time Zone を変更すると、ライブラリのリブートが必要となります。
リブートできない場合は [Back] ボタンでキャンセルし、リブートができる状態で、再度設定してください。

手順

- 1 Setup メニューから [Time] ボタンを押します。



Setup メニュー
+ Time

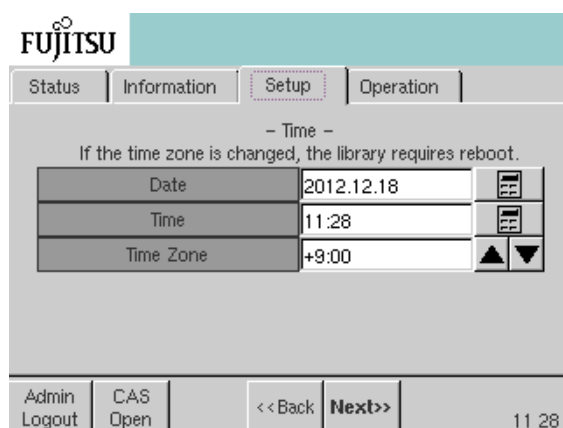
- 2 Date (年/月/日) と Time (時/分) を、テンキーボタンを選択し、テンキーで入力します。入力が完了したら [Next] ボタンを押します。

● 備考

入力可能な西暦は 2005 年～ 2037 年までです。

- 3 Time Zone を上下矢印 (▲/▼) ボタンで設定します。
Time Zone の指定値は [表 2.7](#) のとおりです。

図 2.26 日時の設定画面



- 4 確認画面が表示されます。
表示内容に問題がなければ [OK] ボタンを押します。

- 5** 画面上に処理中メッセージが表示されます。設定が正常に終了すると Setup メニューに戻ります。

手順ここまで

表 2.7 世界の時間帯

タイムゾーン	地域
+13:00	ヌクアロファ
+12:00	フィジー、カムチャッカ、マーシャル諸島、オークランド、ウェリントン
+11:00	マガタン、ソロモン諸島、ニューカレドニア
+10:00	ブリスベン、メルボルン、シドニー、グアム、ポートモレスビー、ウラジオストック、ホバート
+09:30	アデレード、ダーウィン
+09:00	東京、大阪、札幌、ソウル、ヤクーツク
+08:30	モルッカ諸島
+08:00	北京、重慶、ウルムチ、香港、パース、シンガポール、台北
+07:00	バンコク、ジャカルタ、ハノイ
+06:30	ヤンゴン (ラングーン)
+06:00	アルアトウイ、ダッカ
+05:30	ムンバイ (ボンベイ)、コルカタ (カルカッタ)、チェンナイ (マドラス)、ニューデリー、コロombo
+05:00	イスラマバード、カラチ、エカチェリンブルグ、タシュケント
+04:30	カブール
+04:00	アブダビ、マスカト、トビリシ
+03:30	テヘラン
+03:00	バクダット、クウェート、ナイロビ、リヤド、モスクワ、サンクトペテルブルグ、カザン
+02:00	アテネ、ヘルシンキ、イスタンブール、カイロ、東欧、ハラレ、イスラエル、プレトリア
+01:00	ベルリン、ストックホルム、ローマ、ベルン、ブリュッセル、ウィーン、パリ、マドリッド、アムステルダム、ブラハ、ワルシャワ、ブタベスト
00:00	イギリス、リスボン、モンロビア、カサブランカ
-01:00	大西洋
-02:00	中部大西洋
-03:00	ブラジル、ブエノスアイレス、ジョージタウン
-03:30	ニューファンドランド
-04:00	大西洋標準時 (カナダ)、カラカス、ラパス
-05:00	東部標準時 (米、カナダ)、ボゴタ、リマ
-06:00	中央標準時 (米、カナダ)、サスカチワン、メキシコシティ、テグシガルパ
-07:00	山岳標準時 (米、カナダ)、アリゾナ
-08:00	太平洋標準時 (米、カナダ)、ティファナ
-09:00	アラスカ
-10:00	ハワイ

タイムゾーン	地域
-11:00	ミッドウェイ諸島、サモア
-12:00	エニウエトク、クワジャリン

2.7.3 スクリーンセーバーの設定

オペレーターパネルのスクリーンセーバーの起動時間を設定します。

手順

- 1 Setup メニューから [Screen Saver] ボタンを押します。

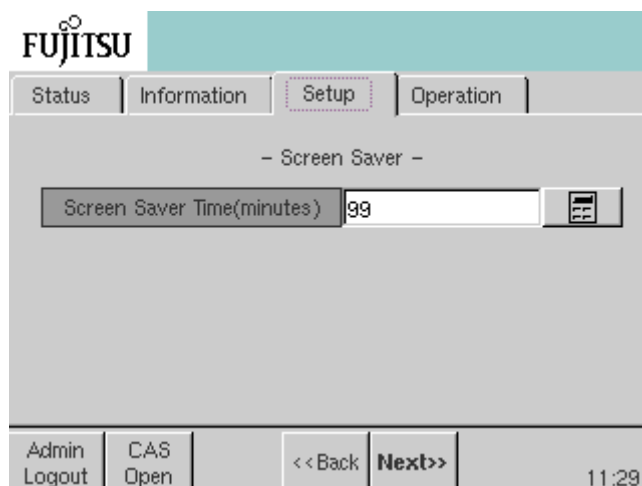
Setup メニュー
+ Screen Saver

- 2 スクリーンセーバーが起動するまでの時間（分）を、テンキーボタンを選択し、テンキーで入力します。入力が完了したら [Next] ボタンを押します。

● 備考

入力可能な時間は 1 ~ 99 分です。

図 2.27 スクリーンセーバー起動時間の設定画面



- 3 確認画面が表示されます。表示内容に問題がなければ [OK] ボタンを押します。
- 4 画面上に処理中メッセージが表示されます。設定が正常に終了すると Setup メニューに戻ります。

手順ここまで

2.7.4 パスワードの設定

管理者アカウントでログインするときのパスワードを設定します。

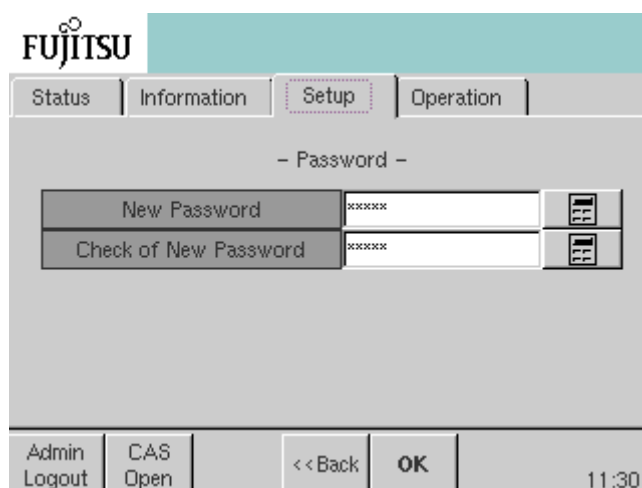
手順

- 1 Setup メニューから [Admin Password] ボタンを押します。

Setup メニュー
+ Admin Password

- 2 新しく設定するパスワードと確認用パスワードは、テンキーボタンを選択し、テンキーで入力します。入力が完了したら [OK] ボタンを押します。

図 2.28 パスワードの設定画面



- 3 設定が完了すると Setup メニューに戻ります。

● 備考

- 管理者アカウントのパスワード（初期値）は「admin」です。
- 管理者アカウントでログインすると、ログインボタンは [Admin Logout] となります。ログアウトする場合は、このボタンで行ってください。

手順ここまで

2.7.5 オペレーターパネルの明るさを設定する

オペレーターパネルの画面明るさを設定します。

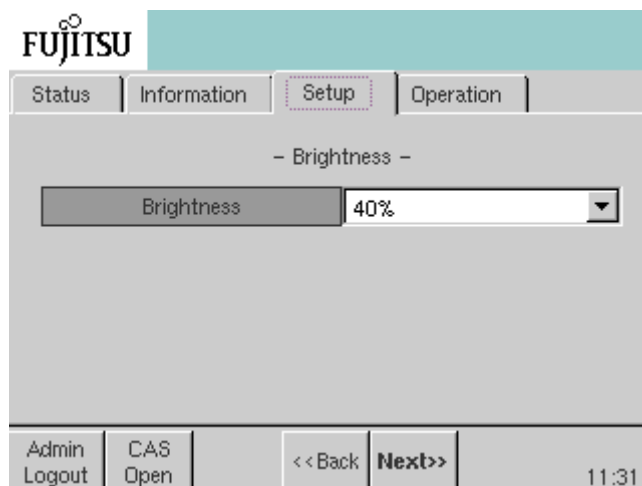
手順

- 1 Setup メニューから [Brightness] ボタンを押します。

Setup メニュー
+ Brightness

- 2 リストボタンを押し、明るさを選択します。入力が完了したら [Next] ボタンを押します。

図 2.29 画面明るさの設定画面



- 3 確認画面が表示されます。表示内容に問題がなければ [OK] ボタンを押します。
- 4 設定が完了すると Setup メニューに戻ります。

● 備考

Setup メニューの内、画面明るさのみ一般ユーザーアカウントでも設定を行うことが可能です。

手順ここまで

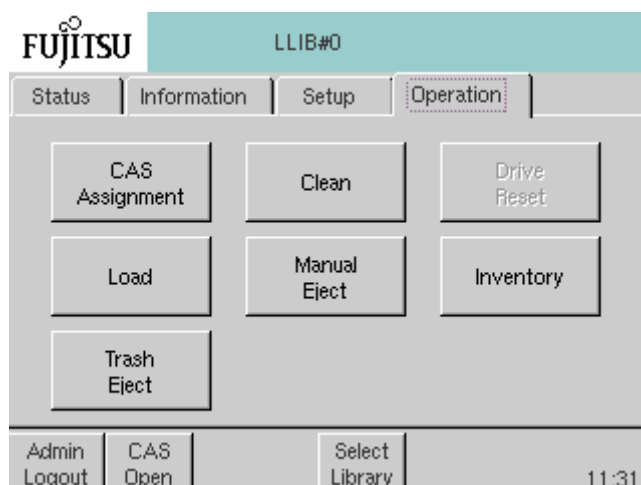
2.8 CAS 割り当ての変更

論理ライブラリを構成すると、搭載されている CAS (CAS#0/#1) を、操作中の論理ライブラリに割り当て変更することで、ホストから投入／排出口として使用できます。また、オペレーターパネルから CAS を使用する場合も同様に、CAS 割り当てを変更する必要があります。

手順

- 1 Operation メニューから [CAS Assignment] ボタンを押します。

図 2.30 Operation メニュー



- 2 確認画面が表示されます。
表示内容に問題がなければ [OK] ボタンを押します。

● 備考

すでに CAS が操作中の論理ライブラリへ割り当てられている場合は、操作は不要です。設定は変更できません。

- 3 終了メッセージが表示されると、CAS の割り当ては完了です。

手順ここまで

2.9 CAS 扉のオープン

CAS のマガジン投入口の扉は、オペレーターパネルから開けることができます。扉が開くと、CAS Opened アイコンがアイコンエリアに表示されます。マガジンを投入し扉を閉めると、ライブラリは自動的にインベントリ動作を行い、投入されたカートリッジテープのラベル情報を取り込みます。

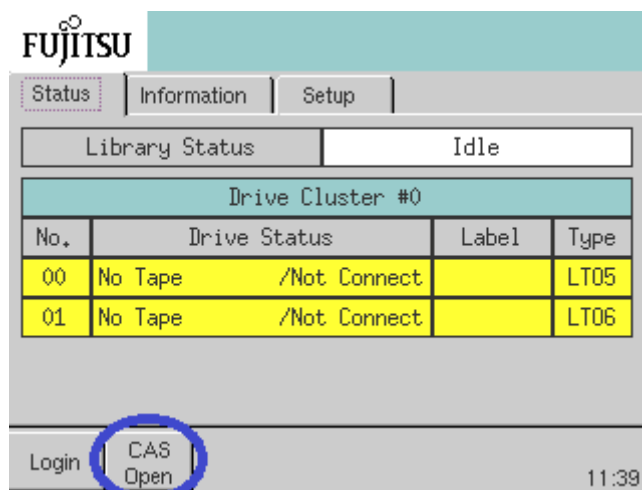
注意

バックアップソフトウェアの種類により、ソフトウェア側の制御によるロック解除が必要な場合があります。

手順

- 1 ホーム画面で共通ボタンエリアにある [CAS Open] ボタンを押します。

図 2.31 [CAS Open] ボタンの選択



- 2 開扉する CAS を、CAS 番号ボタンで選択します。

CAS Open メニュー
+ CAS#0
+ CAS#1

備考

CAS 扉を開けることができない状態では、CAS 番号ボタンはグレーアウトされています。

表 2.8 CAS の状態

状態	内容	CAS Open 可否
Closed	マガジンが装着され CAS 扉が閉じている状態	○
Magazine No Exist	マガジンが未装着で CAS 扉が閉じている状態	○
Open Error	CAS 扉が故障している状態 ● 備考 CAS 扉が開けられなかった状態ですが、再度操作することができます。	○
Opened	CAS 扉がすでに開いている状態	×
Checking Inventory	CAS セルのインベントリ動作中の状態	×
In Use	CAS のカートリッジテープがアクセス中の状態	×
Prevent	ホストから CAS が予約されている状態	×

- 3 確認画面が表示されます。
表示内容に問題がなければ [OK] ボタンを押します。
- 4 画面上に処理中メッセージが表示されます。終了すると指定された CAS の扉が開きません。

手順ここまで

2.10 カートリッジテープのロード

CAS 内のカートリッジテープをドライブにロードします。



指示



データ消失

ロード操作でドライブを使用すると、バックアップソフトウェアからはそのドライブが使用できなくなります（そのドライブは非活性状態となります）。Status メニューのドライブステータスには「Ready/Offline」が表示されています。ロード操作を行う前には、必ずそのドライブに対するバックアップソフトウェアが動作していないことを確認してください。

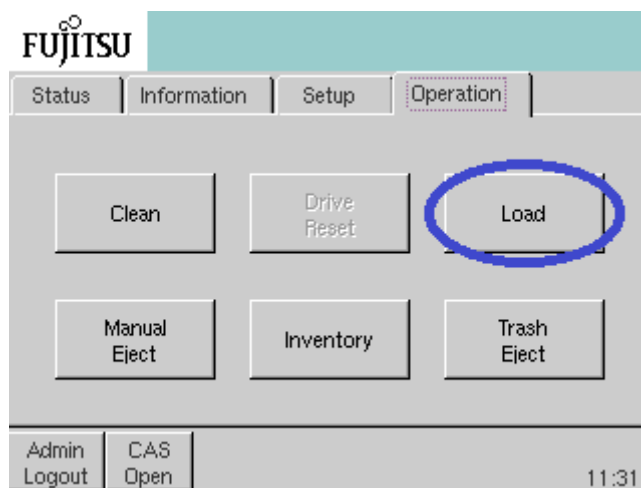
● 備考

- バックアップソフトウェアからライブラリを使用中にロード操作を行うと、ライブラリが稼働中である旨のメッセージが表示されます。ライブラリが使用されていない状態にして、再度ロード操作を行ってください。
- ロードしたカートリッジテープをアンロードする場合は、マニュアルイジェクト操作で排出してください。マニュアルイジェクトの操作方法は [「2.11 カートリッジテープのイジェクト」\(P.61\)](#) を参照してください。

手順

- 1 Operation メニューから [Load] ボタンを押します。

図 2.32 [Load] ボタンの選択



- 2 CAS を選択します。

```
Operation メニュー
- Load
+ CAS#0
+ CAS#1
```

- 3 指定されたマガジン内のカートリッジテープを CAS セル番号で指定します。

● 備考

複数のカートリッジテープを指定することもできます。

4 ロードするドライブを指定します。

● 備考

先に指定したカートリッジテープの数だけ、ドライブを指定できます。

```
Operation メニュー
- Load
  - CAS#0
    - CAS Cell#10
      + DRV#01
```

5 確認画面が表示されます。

表示内容に問題がなければ [OK] ボタンを押します。

6 画面上に処理中メッセージが表示されます。処理中メッセージ画面ではロードするドライブ数とロードが完了したドライブ数が表示されます。

7 終了メッセージが表示されると、指定されたドライブへのロードは完了です。

手順ここまで

2.11 カートリッジテープのイジェクト

ドライブにロードされているカートリッジテープをホームセルに排出（イジェクト）できます。

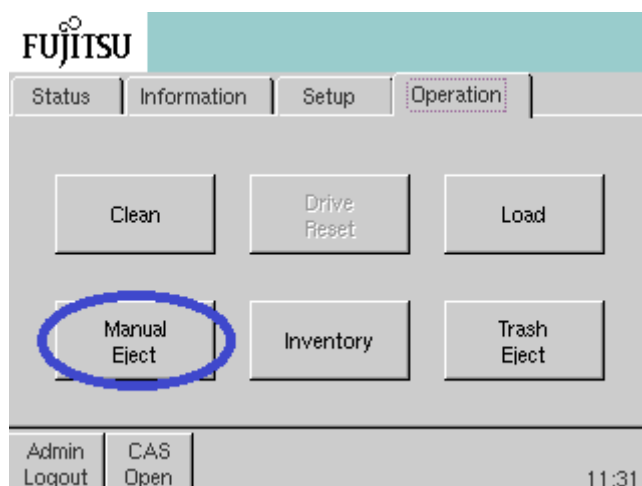
● 備考

- この操作を行うと、ドライブは一時的に非活性（Offline）状態となります。イジェクト操作が終了すると自動的に活性状態に戻ります。
- 通常データのバックアップが完了したカートリッジテープはバックアップソフトウェアがホームセルに排出します。ホストがダウンしたときなど、何らかの理由でホストから制御できなくなった場合は、本操作でカートリッジテープを排出してください。
- バックアップソフトウェアからライブラリを使用中にイジェクト操作を行うと、ライブラリが稼働中である旨のメッセージが表示されます。ライブラリが使用されていない状態で、再度操作を行ってください。
- 他キャビネットからロードされた媒体である場合、オペレーターパネルでの本操作は実行できません。リモートパネルから行ってください。

手順

- 1 Operationメニューから [Manual Eject] ボタンを押します。

図 2.33 [Manual Eject] ボタンの選択



- 2 排出するドライブを指定します。

● 備考

複数のドライブを指定できます。

```
Operationメニュー
- Manual Eject
  + DRV#01
  + DRV#02
```

- 3 確認画面が表示されます。
表示内容に問題がなければ [OK] ボタンを押します。
- 4 画面上に処理中メッセージが表示されます。処理中メッセージ画面では、排出するドライブ数と排出が完了したドライブ数が表示されます。
- 5 終了メッセージが表示されると、指定されたドライブの排出は完了です。

手順ここまで

2.12 マニュアルクリーニング

LT270 S2 には、クリーニングカートリッジを格納する専用のセルがあります。マニュアルによるドライブのクリーニングは、このクリーニングセル内のクリーニングカートリッジを用いて行われます。

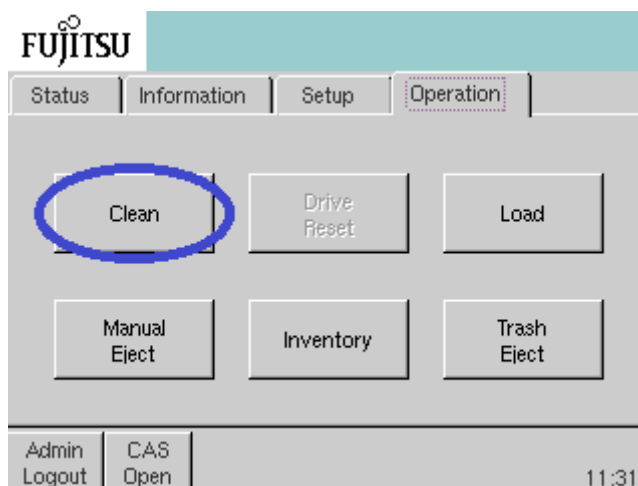
● 備考

- クリーニングしたいドライブ専用のクリーニングカートリッジがクリーニングセルにない場合、この操作は行えません。クリーニングカートリッジの投入方法については、[「2.13.1 クリーニングカートリッジの投入」 \(P.65\)](#) を参照してください。また、すべてのクリーニングカートリッジが使用限度回数に達していたり、メディアエラー状態である場合も、この操作を行うことはできません。使用できないクリーニングカートリッジは、使用可能なクリーニングカートリッジと交換してください（クリーニングカートリッジの取り出し方については [「2.13.2 クリーニングカートリッジの排出」 \(P.67\)](#) を参照してください）。
- クリーニング中のドライブは一時的に非活性（Offline）状態になります。クリーニング操作が終了すると、ドライブは自動的に活性状態になります。
- バックアップソフトウェアからライブラリを使用中にクリーニング操作を行うと、ライブラリが稼働中である旨のメッセージが表示されます。ライブラリが使用されていない状態で、再度操作を行ってください。

手順

- 1 Operation メニューから [Clean] ボタンを押します。

図 2.34 [Clean] ボタンの選択



- 2 [Manual Clean] ボタンを押します。

Operation メニュー
- Clean
+ Manual Clean

3 クリーニングするドライブを、ドライブ番号で指定します。

```
Operation メニュー
- Clean
  - Manual Clean
    + DRV#00
```

4 確認画面が表示されます。

表示内容に問題がなければ [OK] ボタンを押します。

5 画面上に処理中メッセージが表示されます。

6 終了メッセージが表示されると、指定されたドライブのクリーニングは完了です。

手順ここまで

2.13 クリーニングカートリッジの投入／排出

クリーニングカートリッジの投入／排出方法について説明します。

● 備考

- クリーニングカートリッジは、使用できる回数が制限されています。クリーニングセルにあるクリーニングカートリッジが使用回数に達した場合、そのクリーニングカートリッジは使用できなくなります。このときオペレーターパネルのアイコンエリアにアラームボタンが点灯し、Cleaning Tape Limit Alarm が表示されます。このアラームが表示された場合は、使用できないクリーニングカートリッジを排出し、新しいクリーニングカートリッジと交換してください。
- バックアップソフトウェアからライブラリを使用中に投入や排出操作を行うと、ライブラリが稼働中である旨のメッセージが表示されます。ライブラリが使用されていない状態で、再度操作を行ってください。
- クリーニングセルは、ライブラリの下口ロボット専用／上口ロボット専用エリアが分かれています。下／上エリアとも、必ず最低 1 巻以上のクリーニングカートリッジを投入してください。
- クリーニングカートリッジは、使用するライブラリ装置に固定して使用し、ほかのライブラリ装置で使用したクリーニングカートリッジを LT270 S2 で使用しないでください。

2.13.1 クリーニングカートリッジの投入

クリーニングカートリッジを、CAS からクリーニングセルに投入します。

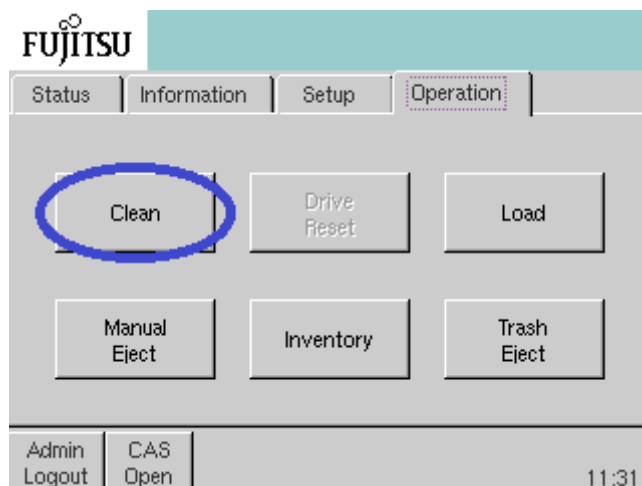
● 備考

- クリーニングセルに空きがない場合、この操作は行えません。
- 投入できないクリーニングカートリッジを検出すると、操作結果画面に Media Error が表示されます。CAS の MAP を参照し、クリーニングカートリッジの状態を確認してください。

手順

- 1 Operation メニューから [Clean] ボタンを押します。

図 2.35 [Clean] ボタンの選択



- 2 [Insert Clean Tape] ボタンを押します。

Operation メニュー
- Clean
+ Insert Clean Tape

- 3 クリーニングカートリッジの入っている CAS 番号を指定します。

Operation メニュー
- Clean
- Insert Clean Tape
+ CAS#0

- 4 クリーニングセルに投入するクリーニングカートリッジを、CAS セル番号ボタンで指定します。投入するテープの指定が完了したら [Next] ボタンを押します。

● 備考

複数のクリーニングカートリッジを指定することもできます。

```
Operation メニュー
- Clean
  - Insert Clean Tape
    - CAS#0
      + CAS Cell#00
      + CAS Cell#01
```

- 5 確認画面が表示されます。
表示内容に問題がなければ [OK] ボタンを押します。[Cancel] ボタンを押すと、クリーニングカートリッジ選択画面に戻ります。
- 6 画面上に処理中メッセージが表示されます。処理中メッセージ画面では、投入するクリーニングカートリッジ数と投入が完了したクリーニングカートリッジ数が表示されます。
- 7 終了メッセージが表示されると、クリーニングカートリッジの投入は完了です。

手順ここまで

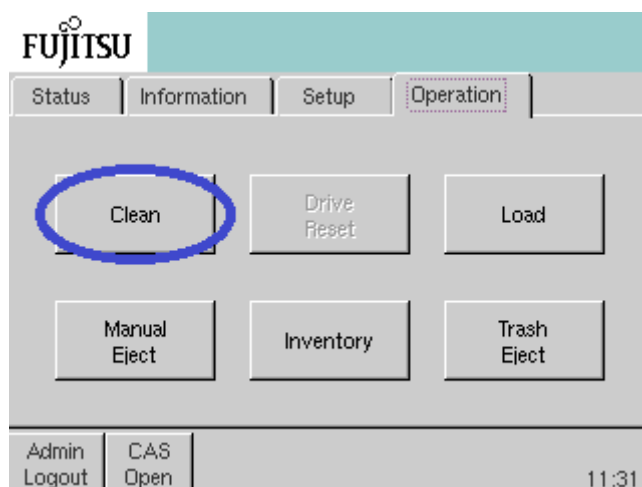
2.13.2 クリーニングカートリッジの排出

クリーニングセル内のクリーニングカートリッジを CAS に排出します。

手順

- 1 Operation メニューから [Clean] ボタンを押します。

図 2.36 [Clean] ボタンの選択



- 2 [Eject Clean Tape] ボタンを押します。

Operation メニュー
- Clean
+ Eject Clean Tape

クリーニングカートリッジのバーコードラベル名 (Barcode Label)、カートリッジテープタイプ (Type)、使用した回数／使用可能な回数 (Count)、状態 (Status) が表示されます。

- 3 取り出したいクリーニングセルのクリーニングカートリッジを指定します。クリーニングカートリッジの指定が完了したら [Next] ボタンを押します。

● 備考

複数のクリーニングカートリッジを指定することもできます。

表 2.9 クリーニングカートリッジ情報

No.	Barcode Label	Type	Count	Status
00	CLNI05L1	LTO-C	0/50	Normal
01	CLNI04L1	LTO-C	0/50	Normal
02	CLNI03L1	LTO-C	10/50	Normal

No.	Barcode Label	Type	Count	Status
03	CLNI02L1	LTO-C	50/50	Limit
04	CLNI01L1	LTO-C	40/50	Media ERR

ステータスの項目には、以下の状態があります。

表 2.10 クリーニングカートリッジの状態表示

状態	内容
Normal	使用可能な状態
Limit	クリーニングカートリッジが使用限度回数に達している状態
Media Error	メディアエラーが発生し、使用できない状態
Invalid	バーコードエラーが発生し、カートリッジテープを認識できない、または、未サポートカートリッジの状態
Cell Error	セルエラーが発生している状態
No Label	カートリッジテープにラベルが貼られていない状態
Unmatch	カートリッジラベルのテープ種と CM (Cartridge Memory) のカートリッジテープ情報に矛盾を検出している状態

● 備考

使用可能なクリーニングカートリッジは、ステータスが Normal のものだけです。Normal 以外のクリーニングカートリッジは排出してください。

- 4 確認画面が表示されます。
表示内容に問題がなければ [OK] ボタンを押します。
- 5 画面上に処理中メッセージが表示されます。処理中メッセージ画面では、排出するクリーニングカートリッジ数と排出が完了したクリーニングカートリッジ数が表示されます。
- 6 終了メッセージが表示されると、クリーニングカートリッジの排出は完了です。

手順ここまで

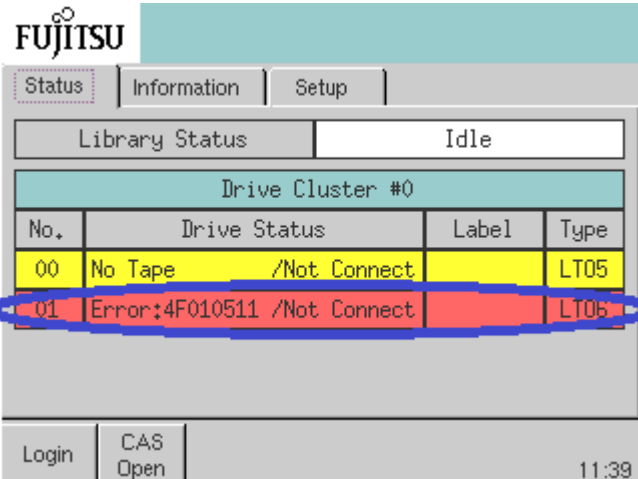
2.14 ドライブハードウェアエラーの解除

ドライブでハードウェアエラーが発生すると、Status メニューの Drive Status 欄にエラーが表示されます。ハードウェアエラーを解除する場合、このメニューから復旧操作を行います。

● 備考

- ドライブエラーの復旧中は、そのドライブだけが非活性状態となります。復旧が完了するまでバックアップソフトウェアからそのドライブを使用することはできません。完了してから使用してください。
- バックアップソフトウェアからライブラリを使用中に復旧操作を行うと、ライブラリが稼働中である旨のメッセージが表示されます。ライブラリが使用されていない状態で、再度操作を行ってください。

図 2.37 ドライブハードウェアエラー発生中のホーム画面



The screenshot shows the FUJITSU operator panel interface. At the top, there are tabs for 'Status', 'Information', and 'Setup'. Below these, there are sections for 'Library Status' (Idle) and 'Drive Cluster #0'. A table displays drive information:

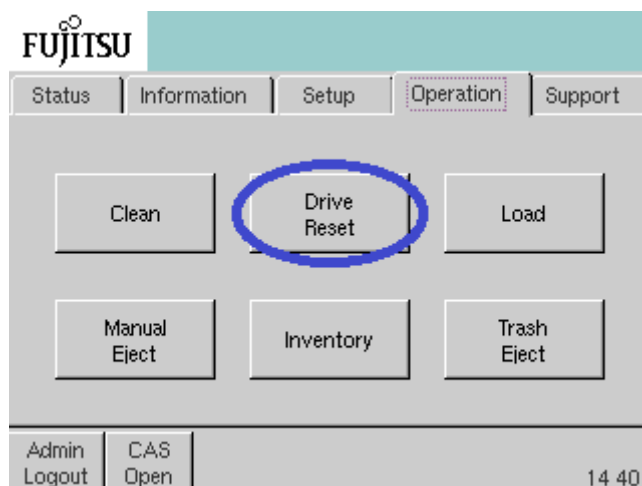
No.	Drive Status	Label	Type
00	No Tape /Not Connect		LT05
01	Error;4F010511 /Not Connect		LT05

The row for drive 01 is highlighted in red, indicating an error. At the bottom of the screen, there are 'Login' and 'CAS Open' buttons, and the time '11:39' is displayed.

手順

- 1 Operation メニューから [Drive Reset] ボタンを押します。

図 2.38 [Drive Reset] ボタンの選択



- 2 確認画面が表示されます。
表示内容に問題がなければ [OK] ボタンを押します。
- 3 処理中メッセージが表示され、発生しているすべてのエラーについて復旧を試みません。
- 4 終了メッセージが表示されると、復旧作業は完了です。

手順ここまで

2.15 インベントリ

一般セルや CAS セルのカートリッジテープ管理情報を更新します。

● 備考

- インベントリ中、ライブラリは非活性 (Offline) 状態となります。
- ライブラリの電源投入時にオートインベントリ機能が無効に設定されていると、自動インベントリは行われません。カートリッジテープの交換や位置変更を行った場合は、必ずインベントリを行い、ライブラリのカートリッジテープ管理情報を更新してください。
- バックアップソフトウェアからライブラリを使用中にインベントリ操作を行うと、ライブラリが稼働中である旨のメッセージが表示されます。ライブラリが使用されていない状態で、再度操作を行ってください。

手順

- 1 Operationメニューから [Inventory] ボタンを押します。

図 2.39 [Inventory] ボタンの選択



- 2 確認画面が表示されます。
表示内容に問題がなければ [OK] ボタンを押します。
- 3 インベントリ処理が完了すると、終了メッセージが表示され、カートリッジテープ管理情報の更新が完了します。Invalid CELL Information 画面が表示されているときは、セルに許可しないカートリッジテープが存在しています。内容を確認のうえ、指定されたカートリッジテープを取り除いてください。

● 備考

許可しないカートリッジテープについては、『FUJITSU Storage ETERNUS LT270 S2 テープライブラリ ユーザーズガイド 導入／運用編』の「3.4 カートリッジテープの投入／排出」を参照してください。

手順ここまで

2.16 トラッシュセル内カートリッジテープの排出

トラッシュセルに排出されたカートリッジテープを CAS に排出します。

● 備考

トラッシュセルにカートリッジテープが排出されていない場合はこの操作を行うことはできません。

手順

- 1 Operation メニューから [Trash Eject] ボタンを押します。

図 2.40 [Trash Eject] ボタンの選択



- 2 確認画面が表示されます。
表示内容に問題がなければ [OK] ボタンを押します。
- 3 画面上に処理中メッセージが表示されます。
- 4 終了メッセージが表示されると、カートリッジテープの排出は完了です。

手順ここまで

2.17 オペレーターアカウントの設定

オペレーターアカウントの有効/無効について設定します。

● 備考

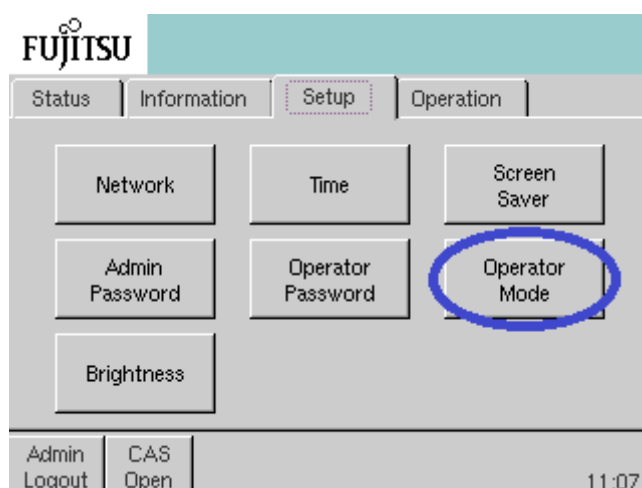
オペレーターアカウントを有効にしておくと、CAS 操作を行うときにログイン操作が必要となります。

ログインされていない状態で CAS 操作を行えることがセキュリティ上で問題になる場合は、オペレーターアカウント設定を有効にすることをお勧めします。

手順

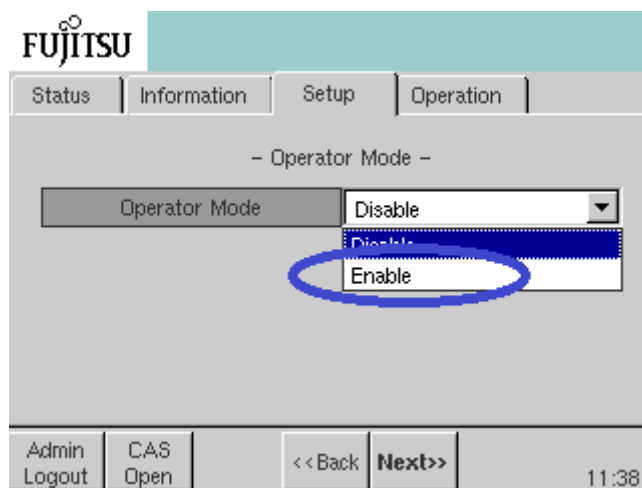
- 1 管理者アカウントでログインし、Setup メニューから [Operator Mode] ボタンを押します。

図 2.41 [Operator Mode] ボタンの選択



- 2 Operator Mode Disable (デフォルト) / Enable を選択し、[Next] ボタン、[OK] ボタンの順に選択します。

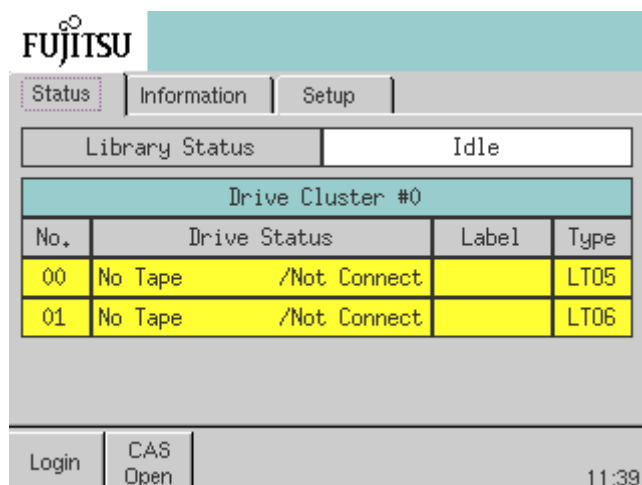
図 2.42 Operation Mode Enable の選択



オペレーターモード無効または有効の場合の表示状態を以下に示します。

- オペレーターモード無効時
一般ユーザー：[CAS Open] ボタン+情報参照系

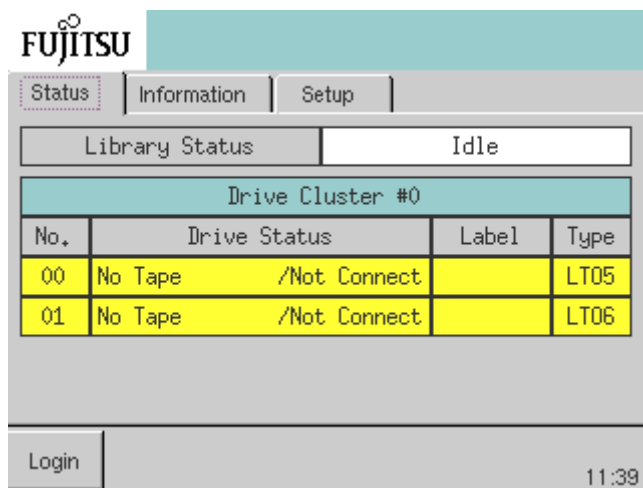
図 2.43 オペレーターモード無効時の表示



■ オペレーターモード有効時

一般ユーザー：情報参照系のみ（[CAS Open] ボタンなし）

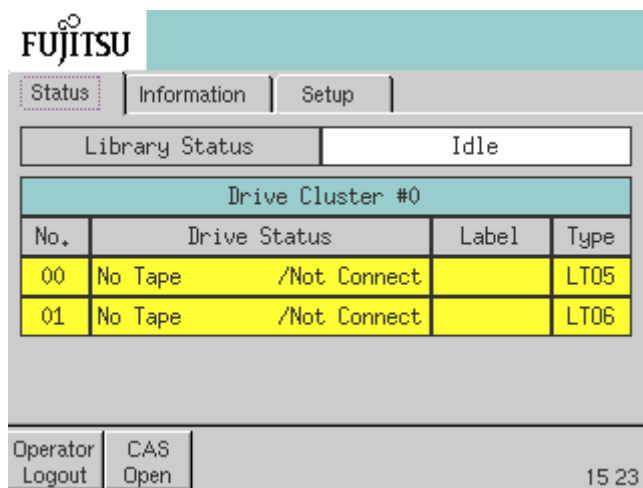
図 2.44 オペレーターモード有効時の表示



■ オペレーターログイン時

[CAS Open] ボタン+情報参照系（オペレーターモード無効時の一般ユーザーと同等）

図 2.45 オペレーターログイン時の表示



手順ここまで

第3章

リモートパネルの操作

リモートパネルを使用して行える各種操作について説明します。

3.1 ログイン

リモートパネルで操作を行う場合、LT270 S2 にログインする必要があります。ログインの手順について説明します。

手順

- 1 Web ブラウザで以下の URL を指定すると、リモートパネルのスタート画面が表示されます。

```
http:// < 装置に設定した IP アドレス >/
```

または、

```
https:// < 装置に設定した IP アドレス >/
```

● 備考

暗号鍵管理オプションを適用している装置では、https で接続できます。

IP アドレスが IPv6 で設定されている場合、IP アドレスを [] で囲んで指定する必要があります。

例：IP アドレスが 2001::1 に設定されている場合、以下のように入力します。

```
http://[2001::1]/
```

リモートパネルのスタート画面で、[Start] ボタンをクリックします。以下のログイン画面が表示されます。

図 3.1 ログイン画面



- 2 ログイン名とパスワードを入力し、[Login] ボタンをクリックします。

● 備考

ログインには、「一般ユーザー」、「管理者」の2つログインアカウントがあり、それぞれログイン名/パスワードが異なります。

ログインアカウントにより、リモートパネルの操作メニューが制限されます。

表 3.1 アカウントごとの操作メニュー（リモートパネル）

ログインアカウント	操作可能なメニュー	ログイン名/パスワード
一般ユーザー	状態参照	user / user (初期値)
管理者	状態参照/設定/操作/ダウンロード	admin / admin (初期値)

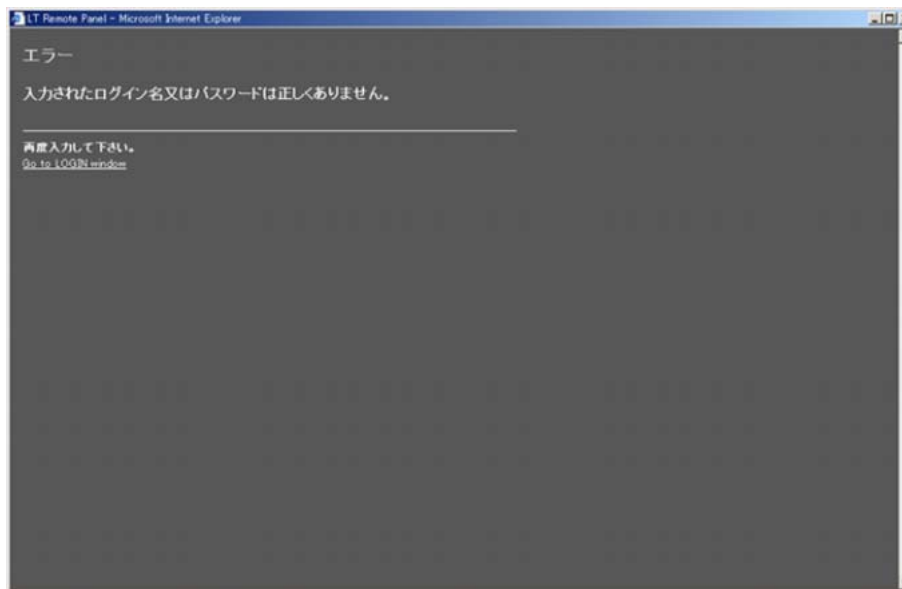
一般ユーザーアカウントでは複数の同時ログインが可能ですが、管理者アカウントによる複数の同時ログインはできません。

3 入力したログイン名およびパスワードが正しければホーム画面が表示されます。

● 備考

- ログインできなかった場合は、以下の画面が表示されます。

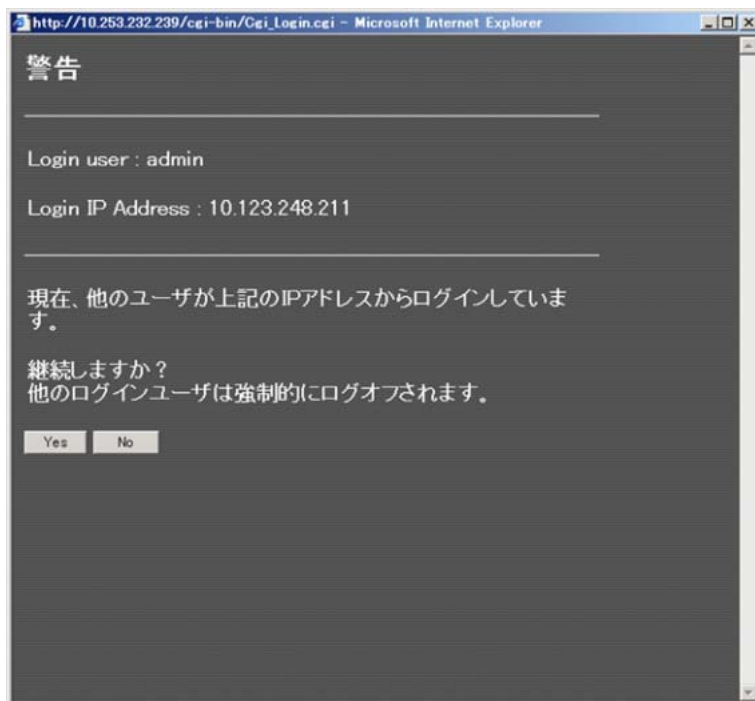
図 3.2 ログイン失敗時の画面



「Go to LOGIN window」をクリックするとログイン画面に戻ります。正しい値を入力してください。

- 管理者アカウントによるログイン中に管理者アカウントで重複ログインを行おうとした場合、および前回の使用時にログオフせずに操作を終了し再度ログインしようとした場合（Web ブラウザの異常による強制終了後の再起動も含む）、以下の画面が表示されます。

図 3.3 重複ログイン時の画面



メッセージ内容を確認後、強制的にログオフする場合は、[Yes] ボタンをクリックしてください。ログイン画面に戻ったら再度ログインを行ってください（なお、[Yes] ボタンをクリックすると、現在ログインしているリモートパネルからの操作は禁止されます）。強制ログオフを行わない場合は、[No] ボタンをクリックしてください（プロキシサーバ経由でアクセスしている場合、Login IP Address にはプロキシサーバの IP アドレスが表示されます）。

手順ここまで

3.2 ライブラリ／ドライブのステータス表示

リモートパネルのログイン画面から正常にログインすると、ホーム画面が表示され、ライブラリ、キャビネット、ドライブ、アダプターのステータスとライブラリ装置内の温度、湿度を参照できます。

● 備考

ホーム画面は 10 秒ごとに自動更新されます。

図 3.4 ライブラリ／ドライブのステータス参照画面

The screenshot shows the ETERNUS LT Remote Panel interface. The main content area is titled "Library/Drive Status" and includes the following sections:

- Library Status:** Offline
- Warning Status:** Library alarm
- Cabinet Status:** A table showing the status of three cabinets (#0, #1, #2) with green and yellow indicators.
- Adapter Status:** A table showing the status of four adapters (Adapter0-3) with green indicators and "Normal" status.
- Cabinet No.:** A table showing the status of three cabinets (Base Cabinet, Expansion Cabinet#1, Expansion Cabinet#2) with "Closed" status.
- Drive Cluster#0:** A table showing the status of four drives (Drive000-003) with "Online" status and "No_Tape" indicator.
- Temperature(degC):** 10
- Humidity(%):** 50
- Power Consumption (W):** A table showing power consumption for all drives (0 W) and the base cabinet (0 W).

At the bottom, there is a note: "* I/F (Communicate state of FC interface) Green : Normal Operation Yellow : Not Connect" and an "アップデート" button.

3.2.1 ライブラリのステータス

ライブラリのステータスには以下の種類があります。

表 3.2 ライブラリのステータス

ステータス名	説明
Initializing	ライブラリのイニシャライズ動作中であることを示します。
Idle	正常な状態で停止中であることを示します。
Moving	ロボットが動作中であることを示します。
Checking Inventory	CAS やセルのインベントリ中であることを示します。
Front Door Opened	フロント外扉が開いた状態であることを示します。
Offline	ライブラリが非活性 (Offline) 状態であることを示します。
Error	ライブラリがエラー状態であることを示します。同時にエラーコードが表示されます。
Firmware Updating	ファームウェアのアップデート中であることを示します。

リモートパネルの上部フレームに、ライブラリがエラー以外の場合は [図 3.5](#) のように表示されます。エラーの場合は、[図 3.6](#) のように表示されます。

図 3.5 ライブラリが正常な状態での上部フレーム

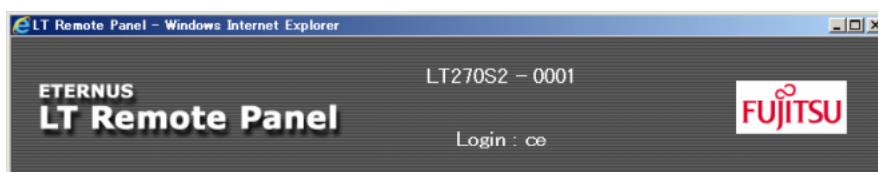






図 3.6 ライブラリがエラー状態での上部フレーム



3.2.2 キャビネットのステータス

キャビネットのステータスは以下のアイコンで表示されます。




表 3.3 キャビネットのステータス

アイコン	説明
	キャビネットが正常であることを示します。
	キャビネットがアラーム情報を持っている、またはそのキャビネットに搭載されるドライブがアラーム情報を持っていることを示します。
	キャビネットがエラー状態であることを示します。
	キャビネットが電源断状態であることを示します。

3.2.3 ドライブのステータス

ドライブのステータスは以下のアイコンで表示されます。

表 3.4 ドライブのステータス

アイコン	説明
	ドライブが正常であることを示します。
	ドライブのクリーニングが必要、ドライブの電源断状態、メディアエラー状態、またはドライブが未搭載であることを示します（いずれの状態かはアイコン横に表示される情報で確認できます）。
	ドライブがエラー状態、またはドライブの冷却 FAN が異常であることを示します（いずれの状態かはアイコン横に表示される情報で確認できます）。

3.3 ライブラリ情報の表示

ライブラリの情報を参照するには、メニューフレームの [Information] ボタンをクリックしてください。

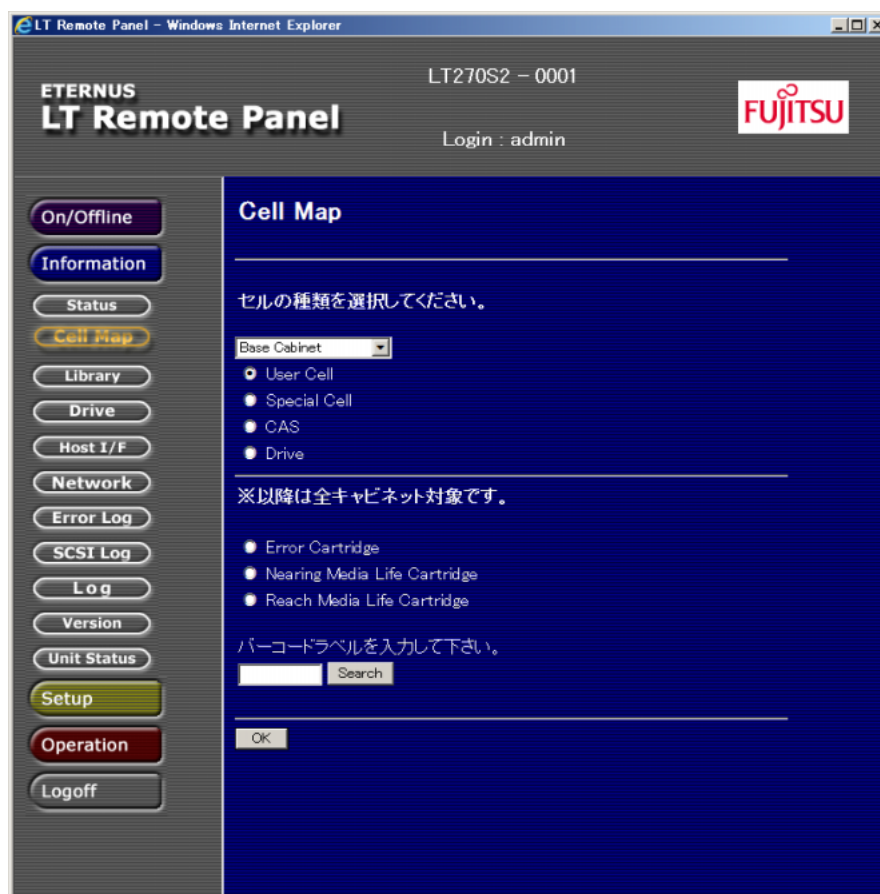
3.3.1 カートリッジテープ情報

一般セル、CAS セル、ドライブ、特殊セル（クリーニングセル、トラッシュセル、交換セル、診断セル）のセルアドレス、ラベル名、カートリッジテープタイプなどのカートリッジテープ情報が参照できます。

[Information] 配下に表示される [Cell Map] ボタンをクリックすると、セルの種類を選択する画面が表示されます。

プルダウンメニューを操作して、対象のキャビネットを選択します。

図 3.7 セルの種類を選択する画面

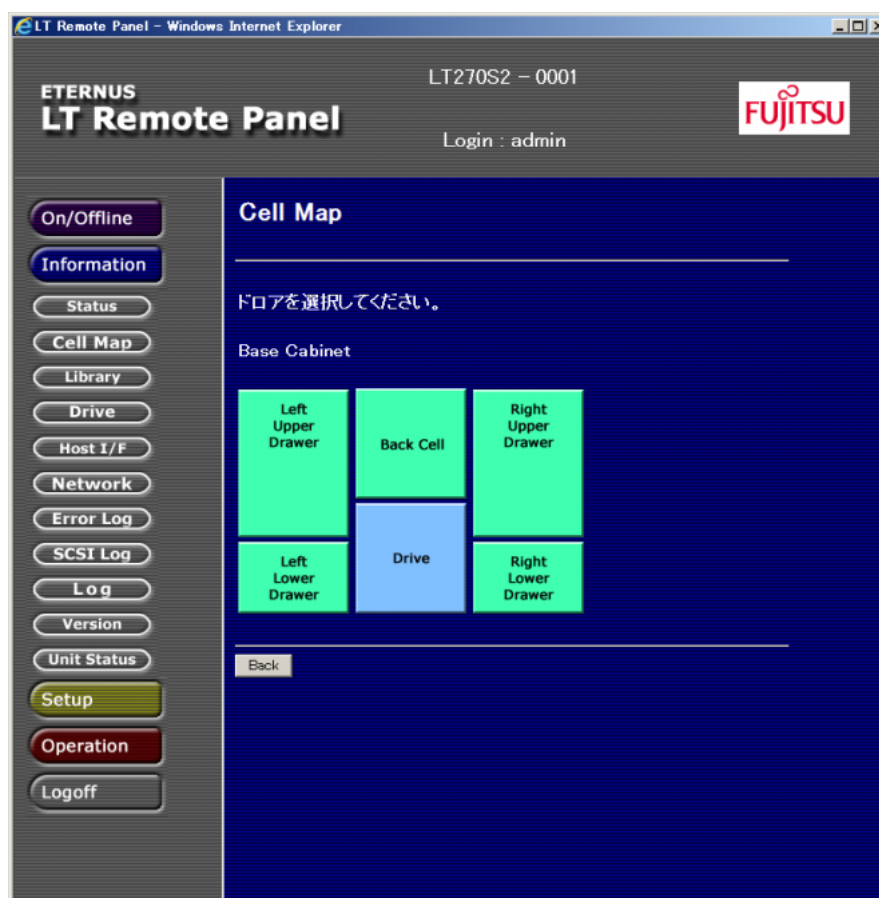


3.3.1.1 一般セルを参照する

手順

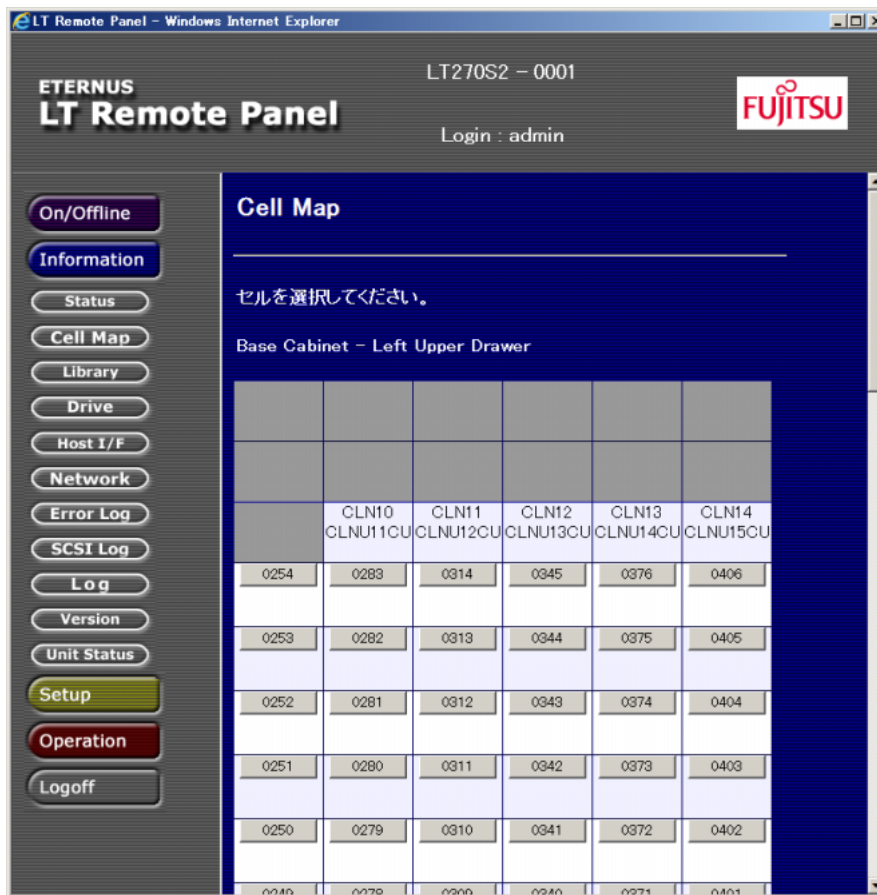
- 1 [User Cell] ボタンを選択し、[OK] ボタンをクリックするとキャビネットの構成図が表示されます。参照したいキャビネットのドロア、またはバックセルを選択してください。

図 3.8 キャビネットの構成画面



- 2 選択したキャビネットのドロア、またはバックセル中のセルが一覧表示されます。

図 3.9 キャビネットごとのセル一覧表示画面



- 3 セル番号ボタンを押すとセルのカートリッジテープの情報が表示されます。

図 3.10 一般セルのカートリッジテープ情報表示画面

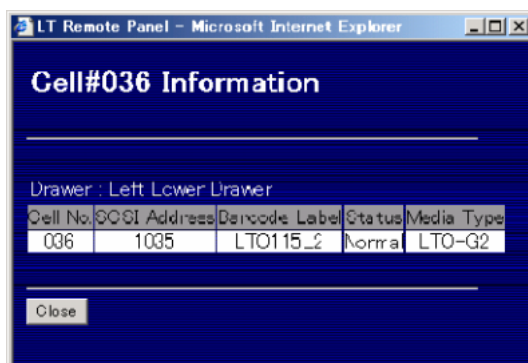


表 3.5 カートリッジテープ情報

表示項目	説明
Cell No.	物理的なセル番号を示します。
Logical Cell No.	論理ライブラリ上のアドレスを示します。(論理ライブラリ構成時のみ)
SCSI Address	SCSI 上のエレメントアドレスを示します。
Barcode Label	セル内に格納されたカートリッジテープのバーコードラベルが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • バーコードラベルが貼り付けされていなかったり、認識できない場合は「No_Label」と表示されます。 • カートリッジテープがない場合は、「No_Tape」と表示されます。この場合、「Media Type」は表示されません。
Status	下記の表 3.6 を参照してください。
Media Type	カートリッジテープのタイプを表示します。 カートリッジテープが認識できない場合は、「Unknown」と表示されます。

表 3.6 カートリッジテープの状態表示

表示項目	説明
Normal	カートリッジテープは正常であることを示します。
Forbidden	当該セルに格納されるべきでないカートリッジテープであることを示します。
Cell Error	セルの障害が発生していることを示します。
Warning	カートリッジテープが異常であることを示します
Media Error	カートリッジテープのエラーが発生し使用不可であることを示します。 新しいカートリッジテープと交換してください。
Near Media Life	カートリッジテープが交換基準の予兆に達したことを示します。
Reach Media Life	カートリッジテープが交換基準に達したことを示します。
Invalid	カートリッジテープが未サポートのテープであることを示します。
Unmatch	カートリッジテープとラベルが矛盾していることを示します。

手順ここまで

3.3.1.2 CAS セルを参照する

[CAS] ボタンを選択し、[OK] ボタンをクリックすると CAS セルのカートリッジテープの情報が表示されます。

図 3.11 CAS セルのカートリッジテープ情報表示画面

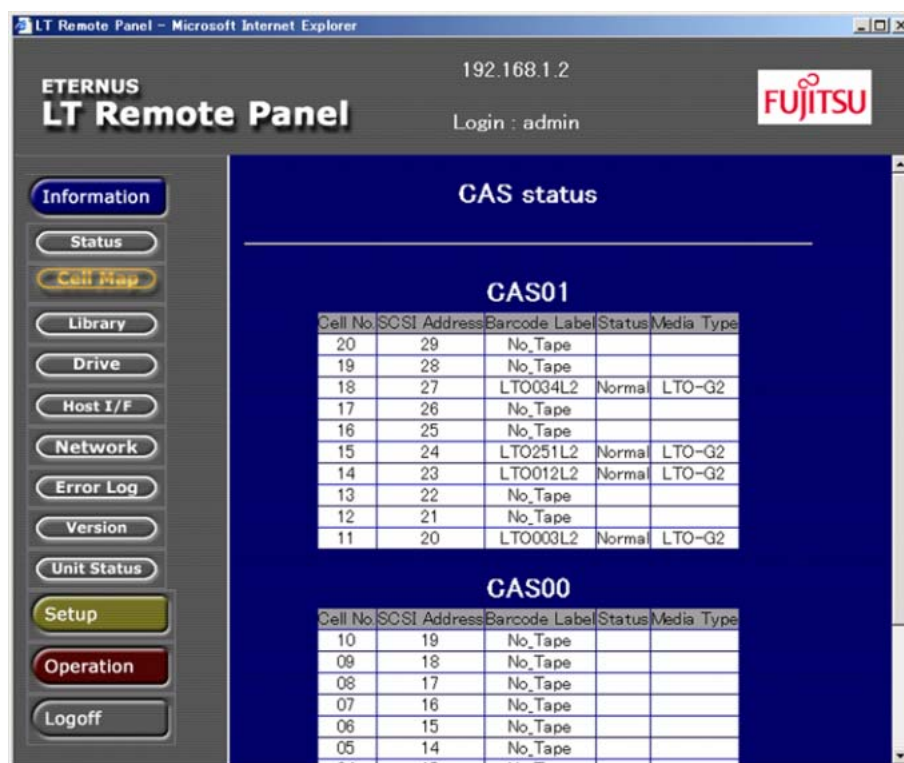


表 3.7 CAS セル情報

表示項目	説明
Cell No.	物理的な CAS セル番号を示します。
SCSI Address	SCSI で扱うエレメントアドレスを示します。
Barcode Label	セル内に格納されたカートリッジテープのバーコードラベルが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> バーコードラベルが認識できない、または貼り付けされていない場合は、「No_Label」と表示されます。 CAS にカートリッジテープがない場合は「No_Tape」と表示されます。この場合、「Media Type」は表示されません。
Status	表 3.6 を参照してください。
Media Type	カートリッジテープのタイプを表示します。 タイプが認識できない場合は、「Unknown」と表示されます。

3.3.1.3 ドライブセルを参照する

[Drive] ボタンを選択し、[OK] ボタンをクリックするとドライブのカートリッジテープの情報が表示されます。

図 3.12 ドライブセルのカートリッジテープ情報表示画面

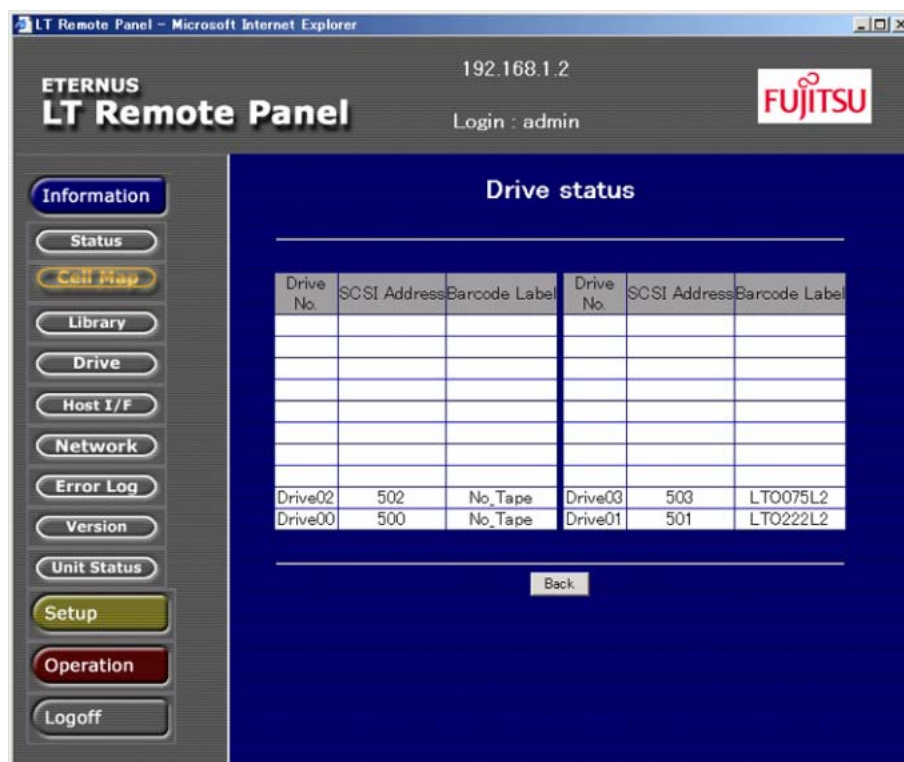


表 3.8 ドライブセル情報

表示項目	説明
Drive No.	ドライブ番号を示します。
SCSI Address	SCSI で扱うエレメントアドレスを示します。
Barcode Label	セル内に格納されたカートリッジテープのバーコードラベルが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> バーコードラベルが認識できない、または貼り付けされていない場合は、「No_Label」と表示されます。 ドライブにカートリッジテープがない場合は「No_Tape」と表示されます。
Drive Type	ドライブのタイプを表示します。 ドライブのタイプが認識できない場合は、「Unknown」と表示されます。

3.3.1.4 特殊セルを参照する

[Special Cell] ボタンを選択し、[OK] ボタンをクリックすると特殊セルのカートリッジテープの情報が表示されます。特殊セルは、以下の4つのセルを示します。

クリーニングセルにはクリーニングカートリッジ、診断セルには診断カートリッジテープが格納されています。

- クリーニングセル
- トラッシュセル
- 交換セル
- 診断セル

図 3.13 特殊セルのカートリッジテープ情報表示画面

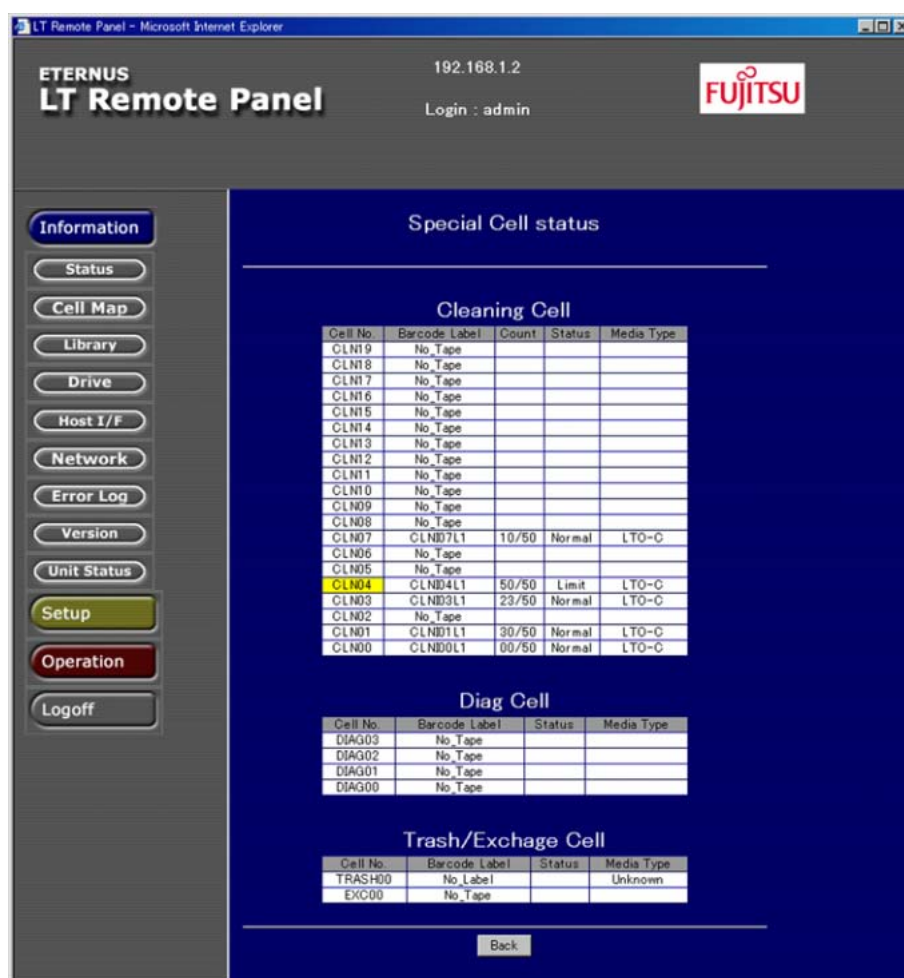


表 3.9 クリーニングセル

表示項目	説明
Cell No.	クリーニングセル番号を示します。
Barcode Label	セル内に格納されたカートリッジテープのバーコードラベルが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> バーコードラベルが認識できない、または貼り付けされていない場合は、「No_Label」と表示されます。 CASにカートリッジテープがない場合は「No_Tape」と表示されます。この場合、「Media Type」は表示されません。
Count	左側：クリーニングカートリッジを使用した回数を示します。 右側：クリーニングカートリッジの使用できる回数を示します。
Status	クリーニングカートリッジのステータスを示します。 Limit：使用回数が限界に達したため使用不可であることを示します。新しいクリーニングカートリッジに交換してください。 その他のステータスについては 表 3.6 を参照してください。
Media Type	カートリッジテープのタイプを表示します。通常 LTO-C と表示されます。タイプが認識できない場合は、「Unknown」と表示されます。

表 3.10 診断セル

表示項目	説明
Cell No.	診断セルのセル番号を示します。
Barcode Label	セル内に格納されたカートリッジテープのバーコードラベルが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> バーコードラベルが認識できない、または貼り付けされていない場合は、「No_Label」と表示されます。 CASにカートリッジテープがない場合は「No_Tape」と表示されます。
Status	表 3.6 を参照してください。
Media Type	カートリッジテープのタイプを表示します。タイプが認識できない場合は、「Unknown」と表示されます。

表 3.11 トラッシュセル／交換セル

表示項目	説明
Cell No.	トラッシュセルや交換セルのセル番号を示します。
Barcode Label	セル内に格納されたカートリッジテープのバーコードラベルが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> バーコードラベルが認識できない、または貼り付けされていない場合は、「No_Label」と表示されます。 CASにカートリッジテープがない場合は「No_Tape」と表示されます。
Status	表 3.6 を参照してください。
Media Type	カートリッジテープのタイプを表示します。タイプが認識できない場合は、「Unknown」と表示されます。

3.3.1.5 予兆カートリッジテープを参照する

[Nearing Media Life Cartridge] ボタンを選択し、[OK] ボタンをクリックすると交換基準の予兆に達したカートリッジテープの情報が一覧表示されます。

● 備考

一般ユーザーアカウントでログインした場合のみ参照可能となります。

図 3.14 予兆カートリッジテープ情報表示画面

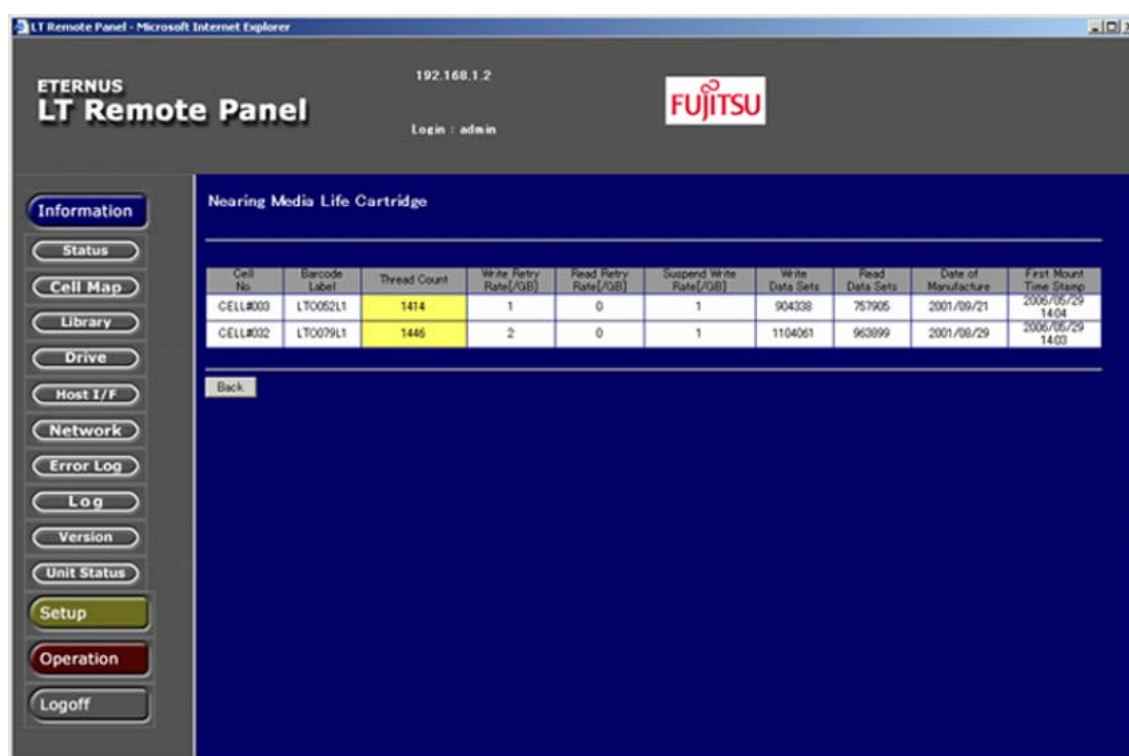


表 3.12 予兆カートリッジテープ情報

表示項目	説明
Cell No.	カートリッジテープが投入されているセル位置を示します。
Barcode Label	カートリッジテープのラベル名を示します。
Thread Count	カートリッジテープがドライブへロードされた回数を示します。
Write Retry Rate	1GB 当たりの書き込み時エラーレート回数を示します。
Read Retry Rate	1GB 当たりの読み込み時エラーレート回数を示します。
Suspend Write Rate	1GB 当たりの Suspend Write 時のエラーレート回数を示します。
Write Data Sets	書き込み時のデータ処理量を示します。
Read Data Sets	読み込み時のデータ処理量を示します。

表示項目	説明
Data of Manufacture	カートリッジテープの製造年月日を示します。
Fast Mount Time Stamp	カートリッジテープを最初にマウントした年月日を示します。

3.3.1.6 交換カートリッジテープを参照する

[Reach Media Life Cartridge] ボタンを選択し、[OK] ボタンをクリックすると交換基準に達したカートリッジテープの情報が一覧表示されます。

● 備考

一般ユーザーアカウントでログインした場合のみ参照可能となります。

図 3.15 交換カートリッジテープ情報表示画面

The screenshot shows the 'Reach Media Life Cartridge' section of the ETERNUS LT Remote Panel. It features a table with the following data:

Cell No.	Barcode Label	Thread Count	Write Retry Rate[/GB]	Read Retry Rate[/GB]	Suspend Write Rate[/GB]	Write Data Sets	Read Data Sets	Date of Manufacture	First Mount Time Stamp
CELL#003	LTO052L1	7513	1	0	1	904338	757905	2001/09/21	2006/05/29 1404
CELL#032	LTO079L1	9546	2	0	1	1104061	963899	2001/08/29	2006/05/29 1403
CELL#055	LTO031L1	10303	2	0	0	2329747	789149	2001/08/29	2006/05/29 1257
CELL#075	LTO026L1	4957	7	1	6	830659	657898	2001/08/29	2006/05/29 1406

表 3.13 交換カートリッジテープ情報

表示項目	説明
Cell No.	カートリッジテープが投入されているセル位置を示します。
Barcode Label	カートリッジテープのラベル名を示します。
Thread Count	カートリッジテープがドライブへロードされた回数を示します。
Write Retry Rate	1GB 当たりの書き込み時エラーレート回数を示します。

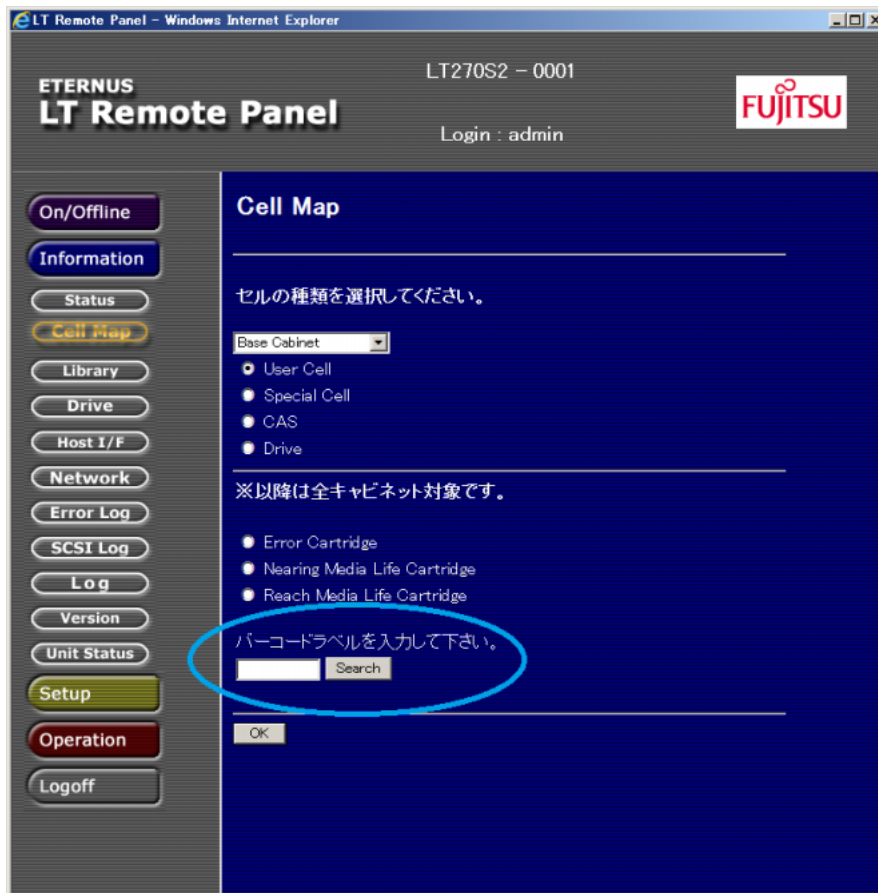
表示項目	説明
Read Retry Rate	1GB 当たりの読み込み時エラーレート回数を示します。
Suspend Write Rate	1GB 当たりの Suspend Write 時のエラーレート回数を示します。
Write Data Sets	書き込み時のデータ処理量を示します。
Read Data Sets	読み込み時のデータ処理量を示します。
Data of Manufacture	カートリッジテープの製造年月日を示します。
Fast Mount Time Stamp	カートリッジテープを最初にマウントした年月日を示します。

3.3.1.7 バーコードラベル検索する

セルマップ画面の入力ボックスに検索したいカートリッジテープのバーコードラベルを入力し、[Search] ボタンをクリックすると、当該カートリッジテープの格納されているカラム／セル番号が別画面に表示されます。

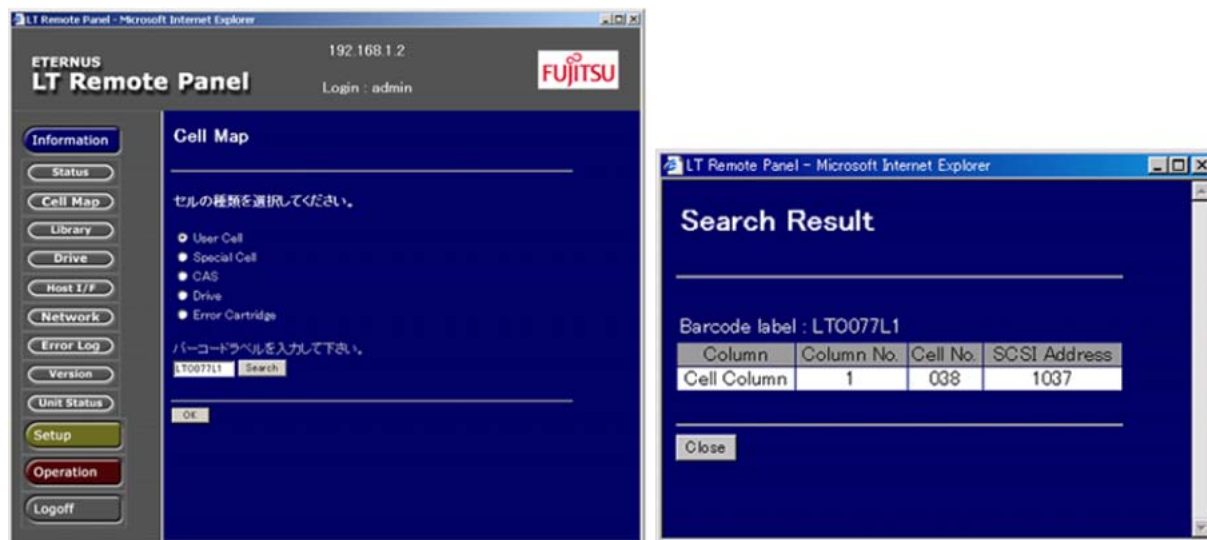
ライブラリがバーコードラベルを認識していないカートリッジテープを検索する場合は、入力ボックスに何も入力しないで [Search] ボタンをクリックしてください。

図 3.16 バーコードラベル検索画面



検索例：「LT0077L1」を検索した場合の結果表示を以下に示します。

図 3.17 バーコードラベル検索結果例



3.3.2 ホストインターフェースの設定情報

[Information] 配下に表示される [Host I/F] ボタンをクリックすると、LOOP ID、アダプターの WWPN、ホスト WWPN などのホストインターフェースの設定情報が参照できます。

● 備考

論理ライブラリが作成されている場合、ログイン時に選択した論理ライブラリに割り当てられているアダプターのみ情報が表示されます。ほかの論理ライブラリに割り当てられているアダプターは「Not Assigned」と表示されます。

図 3.18 ホストインターフェース設定情報表示画面

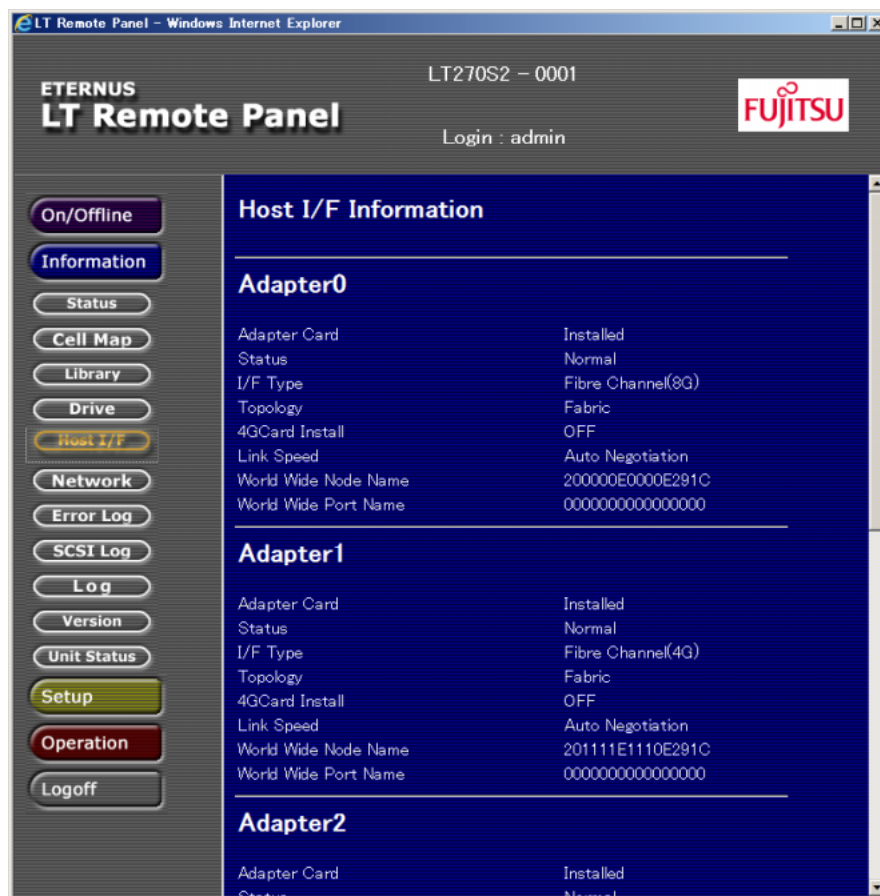


表 3.14 ホストインターフェース設定情報

表示項目	説明
Adapter Card	ホストインターフェースの装着状態を示します。 <ul style="list-style-type: none"> 装着されている場合は、「Installed」と表示されます。 装着されていない場合は、「Not Installed」と表示されます。
Status	ホストインターフェースのステータスを示します。 <ul style="list-style-type: none"> 正常に動作している場合は、「Normal」と表示されます。 FCケーブルが抜かれると「Not Connect」と表示されます。 異常な場合は、「Error」と表示されます。
I/F Type	インターフェースのタイプとカード種別が表示されます。
Topology	接続形態 Fabric または FC_AL を表示します。
Addressing Mode	アドレッシングモード (Hard または Soft) を表示します (Topology が FC_AL の場合)。
LOOP ID	LOOP ID を示します (アドレッシングモードが Hard の場合)。
Link Speed	Link Speed 設定を表示します。(Auto Negotiation)

表示項目	説明
World Wide Node Name	ホストインターフェースの WWNN を表示します。
World Wide Port Name	ホストインターフェースの WWPN を表示します。

3.3.3 ライブラリの設定情報

[Information] 配下に表示される [Library] ボタンをクリックすると、セル数、ドライブ数、マガジンエレメント数、Vendor ID、Product ID などのライブラリの設定情報が参照できます。

● 備考

表示される項目は、物理ライブラリ構成時と論理ライブラリ構成時で異なります。

図 3.19 ライブラリ設定情報表示画面

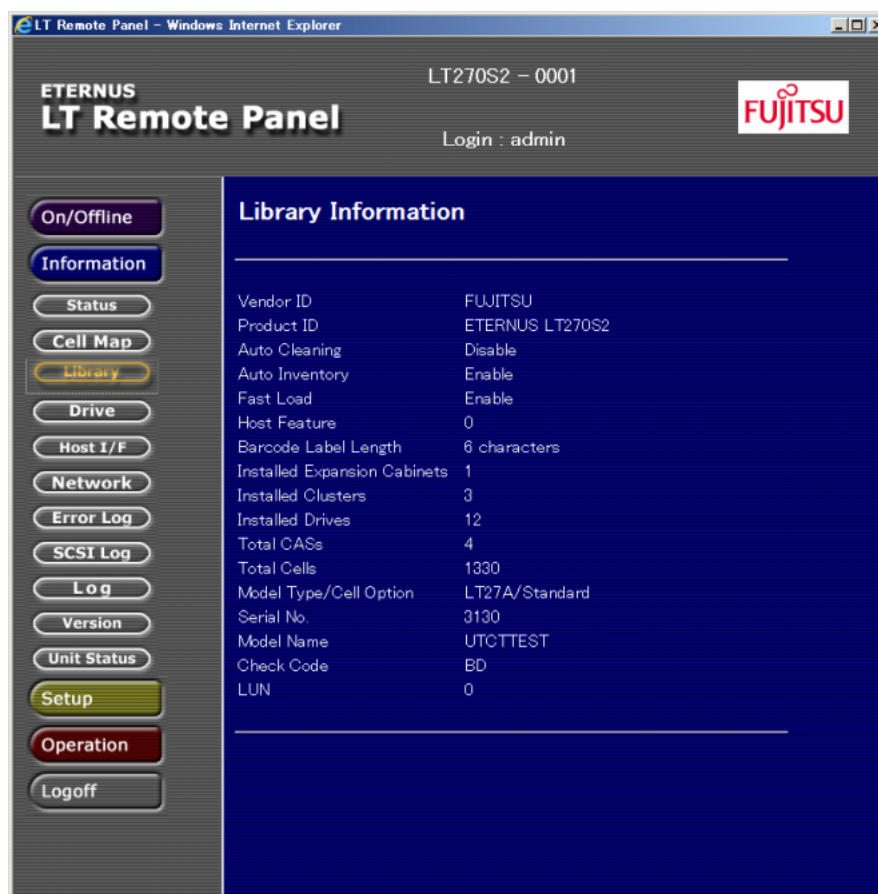


表 3.15 ライブラリ設定情報

表示項目	説明
Vendor ID	ライブラリの Vendor ID を表示します。
Product ID	ライブラリの Product ID を表示します。
Auto Cleaning	ドライブのオートクリーニング機能を示します。 <ul style="list-style-type: none"> オートクリーニング機能が有効に設定されている場合は、「Enable」と表示されます。 オートクリーニング機能が無効に設定されている場合は、「Disable」と表示されます。
Auto Inventory	自動インベントリ機能を示します。 <ul style="list-style-type: none"> 自動インベントリ機能が有効に設定されている場合は、「Enable」と表示されます。 自動インベントリ機能が無効に設定されている場合は、「Disable」と表示されます。
Fast Load	Fast Load 機能を示します。 <ul style="list-style-type: none"> Fast Load 機能が有効に設定されている場合は、「Enable」と表示されます。 Fast Load 機能が無効に設定されている場合は、「Disable」と表示されます。
Host Feature	Host Feature 設定値を表示します。
Barcode Label Length	ホストに応答するバーコードラベルの文字数を表示します。
Installed Expansion Cabinets	構成されているキャビネット数を表示します。
Installed Clusters	搭載されているクラスタ数を表示します。
Installed Drives	搭載されているドライブ数を表示します。
Total CASs	搭載されている CAS 数を表示します。
Total Cells	搭載されているユーザーセル数を表示します。
Model Type/ Cell Option	ライブラリのモデルタイプとセルオプションを表示します。
Serial No.	ライブラリのシリアル番号を表示します。
Model Name	ライブラリのモデル名を表示します。
Check Code	ライブラリのチェックコードを表示します。
LUN	LUN 番号を表示します。

3.3.4 論理ライブラリの構成情報

論理ライブラリが作成されている場合、[Information] 配下に表示される [Logical Library] ボタンをクリックすると、ログインしている論理ライブラリの構成情報が参照できます。

図 3.20 論理ライブラリ構成情報画面

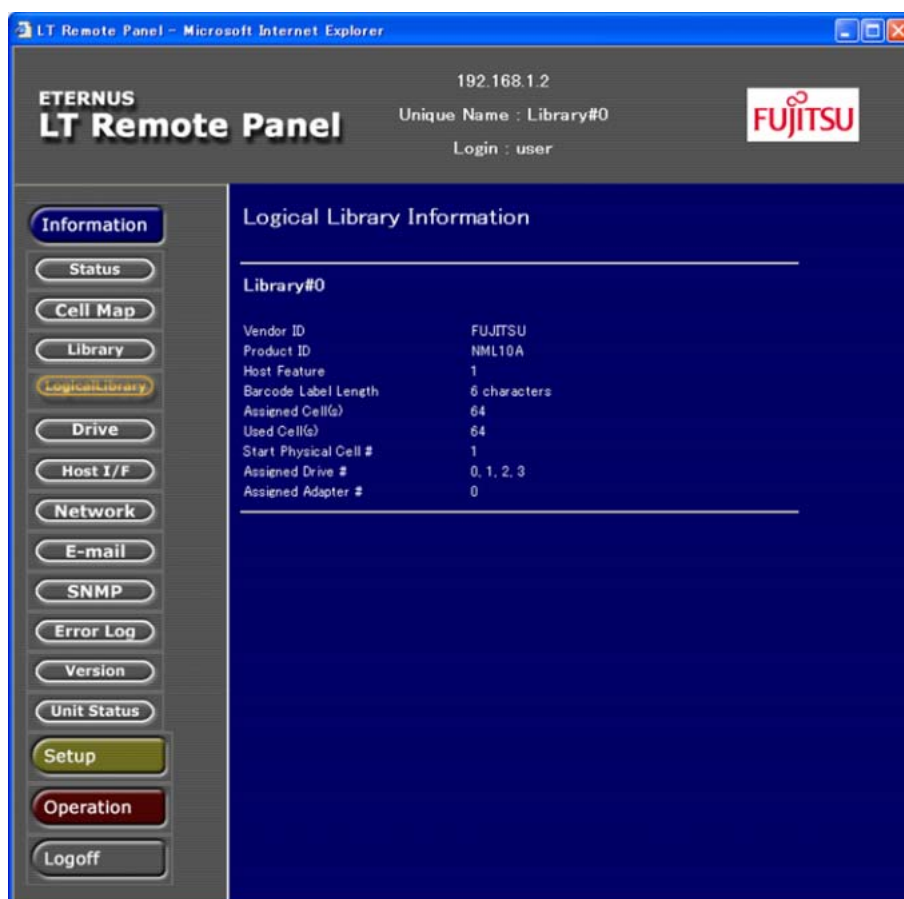


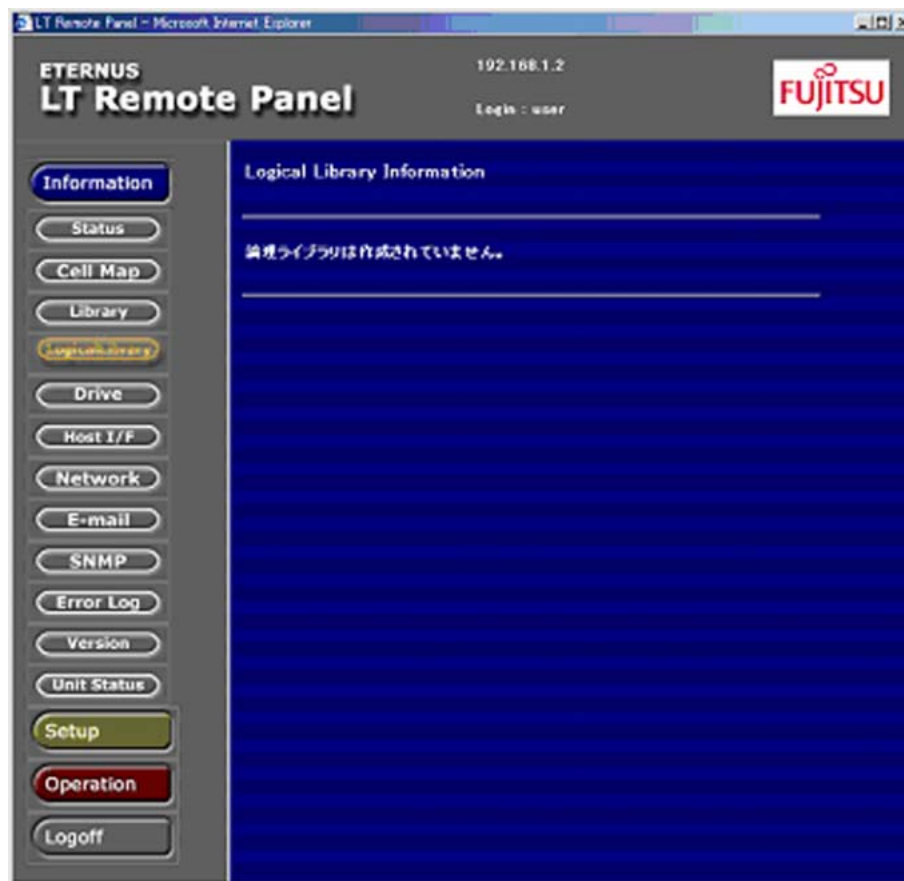
表 3.16 論理ライブラリ構成情報

表示項目	説明
Vendor ID	選択した論理ライブラリの Vendor ID を表示します。
Product ID	選択した論理ライブラリの Product ID を表示します。
Host Feature	選択した論理ライブラリの Host Feature 設定値を表示します。
Barcode Label Length	選択した論理ライブラリに設定されているバーコードラベルのキャラクター数を表示します。
Assigned Cell(s)	選択した論理ライブラリに割り当てられているセル数（リザーブセルを含む）を表示します。
Used Cell(s)	選択した論理ライブラリに割り当てられている運用セル数（リザーブセルを含まない）を表示します。
Start Physical Cell	選択した論理ライブラリの開始物理セル番号を表示します。

表示項目	説明
Assigned Drive #	選択した論理ライブラリに割り当てられているドライブ番号を表示します。
Assigned Adapter #	選択した論理ライブラリに割り当てられているアダプター番号を表示します。

論理ライブラリが構成設定が完了していない場合は、以下のエラー画面が表示されます。この場合は [Setup] 配下の [Logical Library] メニューより論理ライブラリを作成したあとに、構成情報の参照を行ってください。

図 3.21 エラー画面（物理ライブラリ構成時）



3.3.5 ドライブの設定情報

[Information] 配下に表示される [Drive] ボタンをクリックすると、ドライブの Vendor ID、Product ID、トポロジー情報などのドライブ設定情報が参照できます。

図 3.22 ドライブ設定情報表示画面

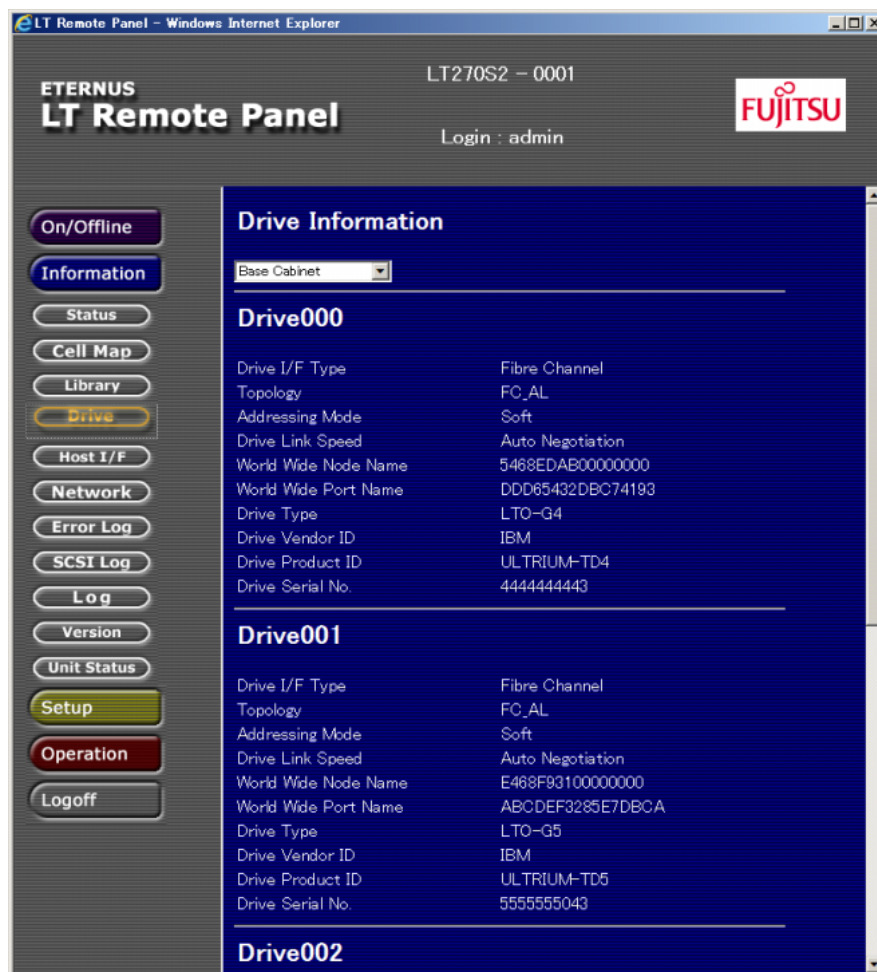


表 3.17 ドライブ設定情報

表示項目	説明
Drive I/F Type	ドライブのホストインターフェースタイプを表示します。
Topology	接続形態 Fabric または FC-AL を表示します。
Addressing Mode	アドレッシングモード (Hard または Soft) を表示します。
Drive Link Speed	ドライブの Link Speed 設定を表示します。(1Gbps、2Gbps、4Gbps、8Gbps、Auto Negotiation)
World Wide Node Name	ドライブの WWNN を表示します。
World Wide Port Name	ドライブの WWPN を表示します。
Drive Type	ドライブのホストインターフェースタイプを表示します。
Drive Vendor ID	ドライブの Vendor ID を表示します。
Drive Product ID	ドライブの Product ID を表示します。
Drive Serial No.	ドライブのシリアル番号を表示します。

3.3.6 ネットワークの設定情報

[Information] 配下に表示される [Network] ボタンをクリックすると、IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ装置名、および MAC アドレスなどのネットワークの設定情報が参照できます。

図 3.23 ネットワーク設定情報表示画面

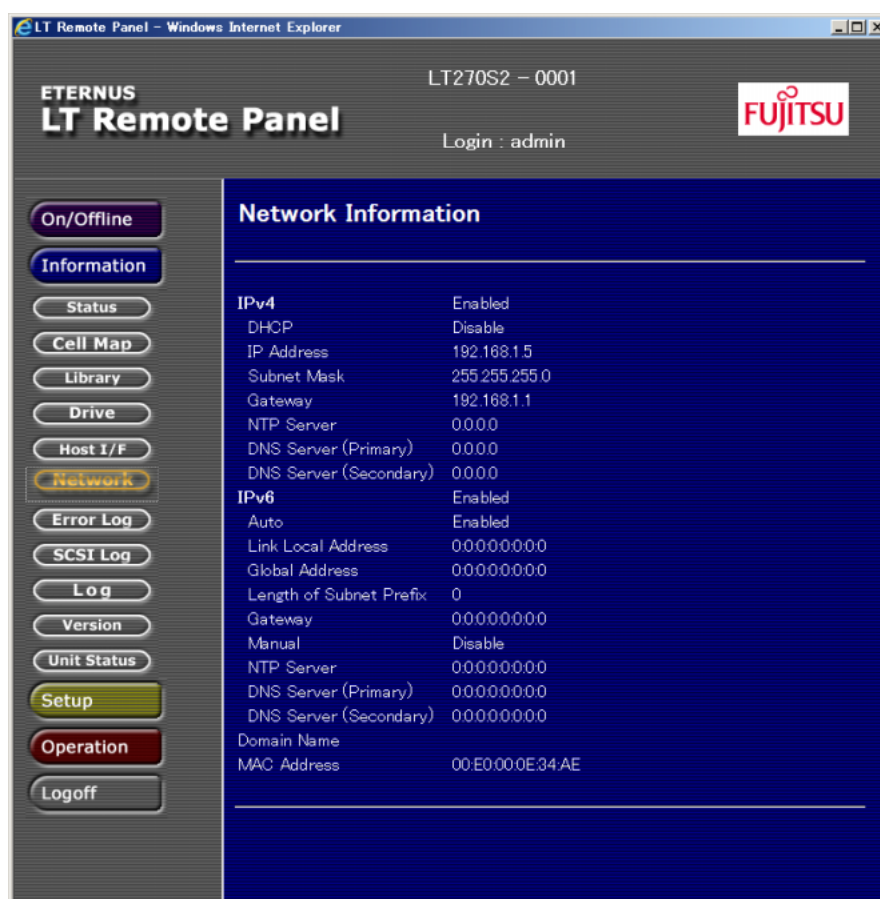


表 3.18 ネットワーク設定情報

表示項目	説明
IPv4	IPv4 の有効／無効を表示します。
DHCP	DHCP の有効／無効を表示します。
IP Address	IP アドレスを表示します。
Subnet Mask	サブネットマスクアドレスを表示します。
Gateway	ゲートウェイアドレスを表示します。
NTP Server	NTP サーバのアドレスを表示します。
DNS Server	DNS サーバのアドレスを表示します。
IPv6	IPv6 の有効／無効を表示します。
Auto	ネットワーク自動構成の有効／無効を表示します。
Link Local Address	リンクローカルアドレスを表示します。

表示項目	説明
Global Address	グローバルアドレスを表示します。
Gateway	IPv6 設定のゲートウェイアドレスを表示します。
NTP Server	NTP サーバの IPv6 アドレスを表示します。
DNS Server	DNS サーバの IPv6 アドレスを表示します。
Domain Name	ドメイン名を表示します。
MAC Address	MAC アドレスを表示します。

3.4 エラー履歴の表示

[Information] 配下に表示される [Error Log] ボタンをクリックすると、過去に発生したライブラリ / ドライブのハードウェアエラーの履歴が参照できます。[more] ボタンをクリックして追加情報を参照することもできます (過去最新 20 件の情報が表示されます。Entry1 が最新のエラーを示します)。エラー履歴が登録されていない状態では「No entries in library/drive history」と表示されます。

図 3.24 エラー履歴表示画面

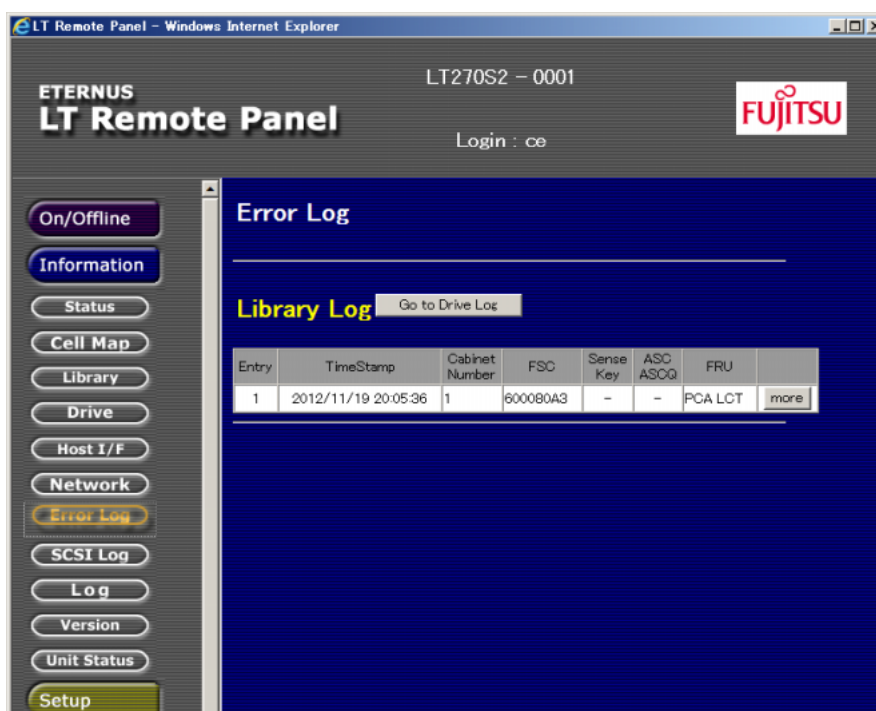


表 3.19 エラー履歴情報

表示項目	説明
Library Log	ライブラリのエラー履歴を示します。
Drive Log	ドライブのエラー履歴を示します。

表示項目	説明
Timestamp	エラーした時間を表示します。
Cabinet Number	エラーしたキャビネットの番号を表示します。
FSC	詳細エラーコードを表示します。
Sense Key	SCSI の Sense Key を表示します。
ASC/ASCQ	SCSI の ASC/ASCQ を表示します。
FRU	エラーした Unit 名を表示します。
Host ID	エラーした Host の LOOP ID を表示します。
Target ID	エラーしたライブラリの LOOP ID を表示します。
Command Code	エラーした SCSI コマンドコードを表示します。
Source Address	SCSI からのカートリッジテープ移動要求時にエラーした場合、移動元のアドレスが表示されます。
Destination Address	SCSI からのカートリッジテープ移動要求時にエラーした場合、移動先アドレスが表示されます。
Exchange Address	SCSI からのカートリッジテープ交換要求時にエラーした場合、交換用のセルアドレスが表示されます。
Barcode Label	使用したカートリッジテープのバーコードラベルを表示します。

3.5 統計情報の表示

ライブラリ装置内のカートリッジテープ／ロボットの各機構部／搭載ドライブについて、統計情報を参照できます。

● 備考

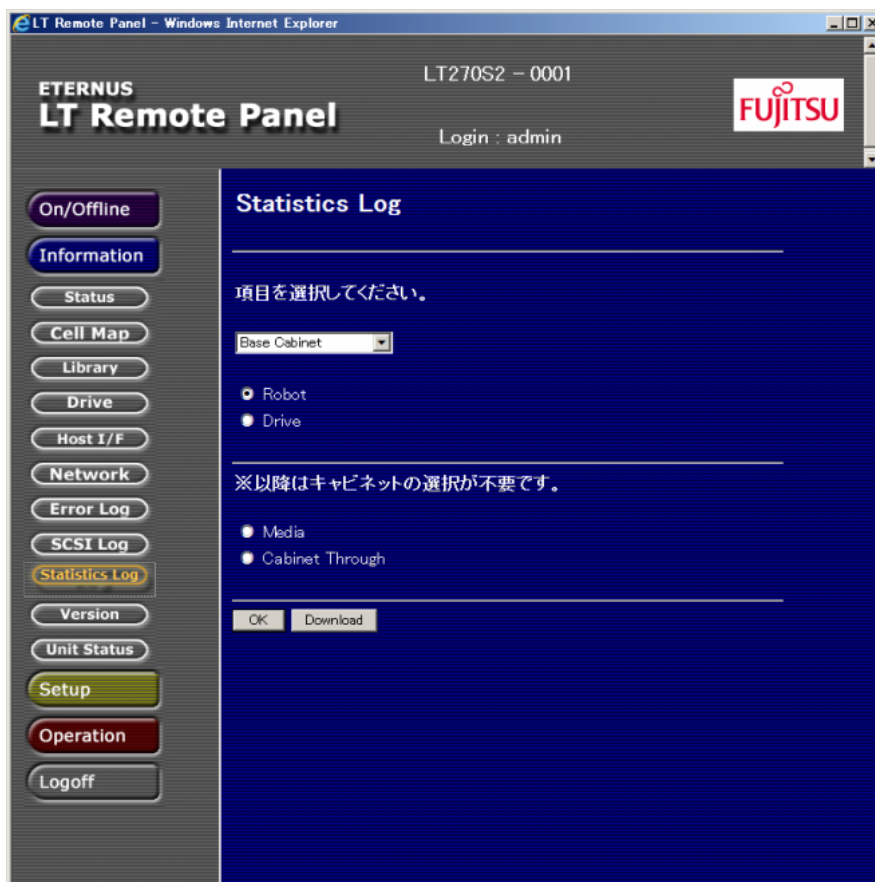
一般ユーザーアカウントでログインした場合のみ参照可能となります。

[Information] 配下に表示される [Statistics Log] ボタンをクリックすると、各統計値を参照できます。プルダウンメニューを操作して、対象のキャビネットを選択します。

▶ 注意

基本キャビネットのみの構成の場合、プルダウンメニューは表示されません。

図 3.25 統計情報表示画面



3.5.1 カートリッジテープの統計情報

[Media] ボタンをクリックすると装置内の CAS / セルにある各カートリッジテープの統計情報が表示されます。

● 備考

- カートリッジテープの統計情報は、スレッドカウント数の多い順に Top30 項目を表示します。
- 交換基準の予兆、または交換基準に達している場合、スレッドカウント数のセルが黄色になります。また予兆と交換要求では黄色の濃さが異なり、予兆（薄い黄色）、交換要求（濃い黄色）のように表示されます。

図 3.26 カートリッジテープ統計値表示画面

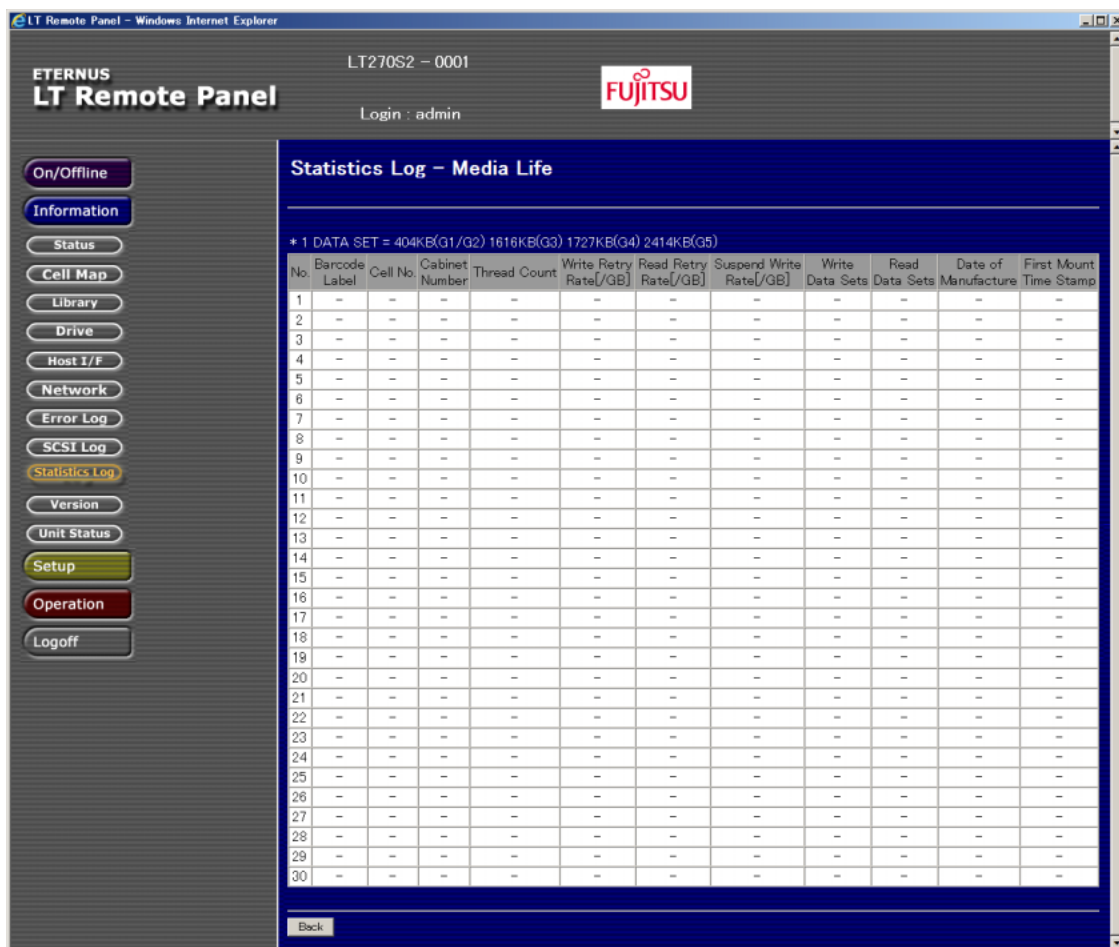


表 3.20 カートリッジテープ統計値

表示項目	説明
Barcode Label	カートリッジテープのラベル名を示します。
Cell No.	カートリッジテープが投入されているセル位置を示します。
Thread Count	カートリッジテープがドライブへロードされた回数を示します。
Write Retry Rate	1GB 当たりの書き込み時エラーレート回数を示します。
Read Retry Rate	1GB 当たりの読み込み時エラーレート回数を示します。
Suspend Write Rate	1GB 当たりの Suspend Write 時のエラーレート回数を示します。
Write Data Sets	書き込み時のデータ処理量を示します。
Read Data Sets	読み込み時のデータ処理量を示します。
Data of Manufacture	カートリッジテープの製造年月日を示します。
Fast Mount Time Stamp	カートリッジテープを最初にマウントした年月日を示します。

3.5.2 ロボットの統計情報

[Robot] ボタンをクリックすると、ロボット各機構部の Move 回数に関する統計情報が表示されます。

図 3.27 ロボット統計値表示画面

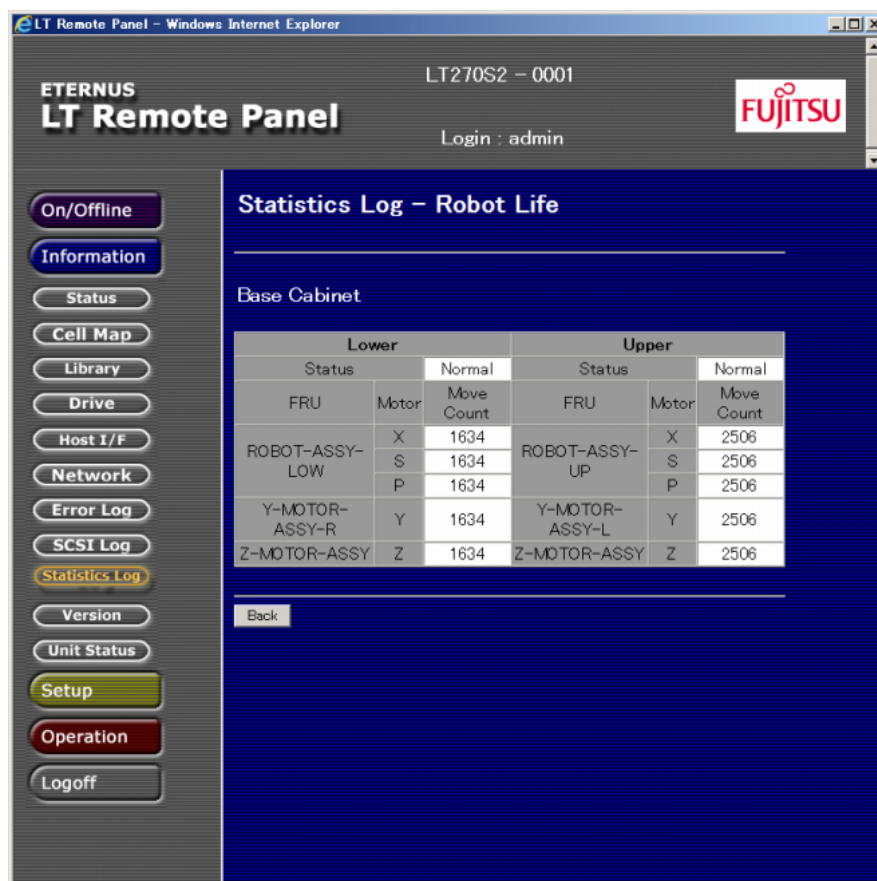


表 3.21 ロボット統計値

表示項目	説明
Status	<p>ロボットごとの Move 回数による予兆／交換要求状態を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Normal：交換基準に達していない正常な状態 • Near：交換基準の予兆に達した状態 • Reach：交換基準に達した状態
X-Motor Move Count	X 方向動作の Move 回数を示します。
S-Motor Move Count	Swivel 動作の Move 回数を示します。
P-Motor Move Count	Picker 動作の Move 回数を示します。
Y-Motor Move Count	Y 方向動作の Move 回数を示します。
Z-Motor Move Count	Z 方向動作の Move 回数を示します。

3.5.3 ドライブの統計情報

[Drive] ボタンをクリックすると、搭載ドライブの統計情報が表示されます。

● 備考

ドライブが交換基準の予兆、または交換基準に達している場合、スレッドカウント数のセルが黄色になります。また予兆と交換要求では黄色の濃さが異なり、予兆（薄い黄色）、交換要求（濃い黄色）のように表示されます。

図 3.28 ドライブ統計値表示画面

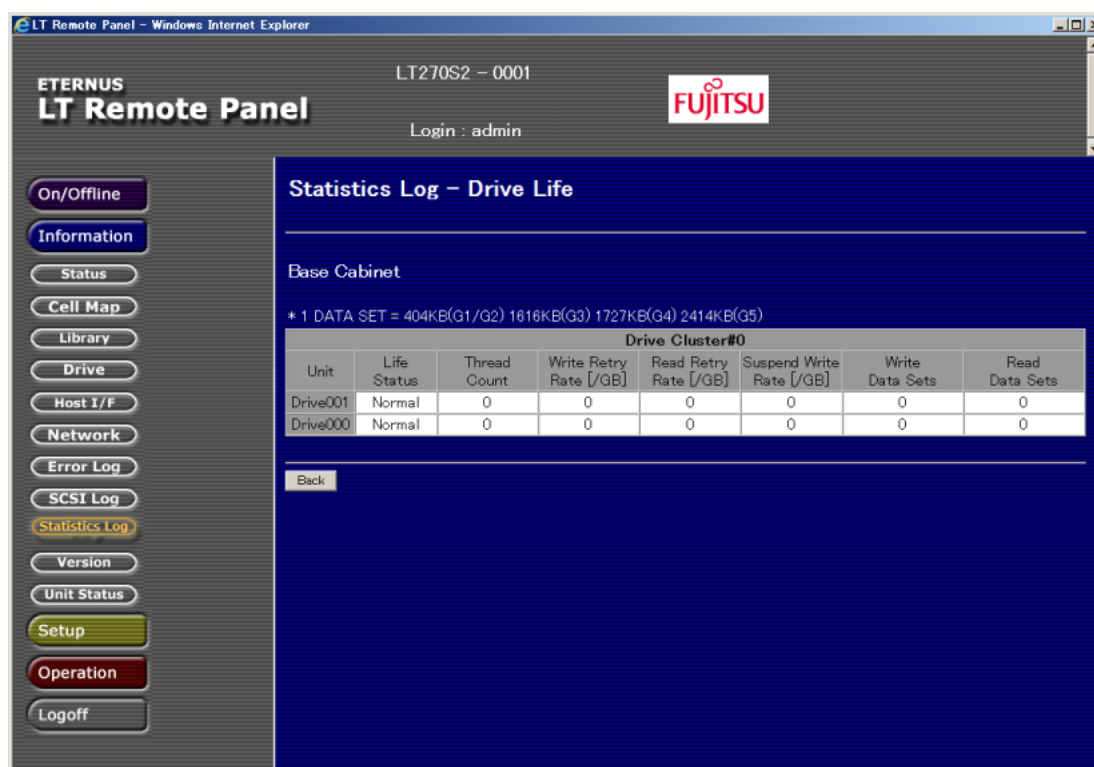


表 3.22 ドライブ統計値

表示項目	説明
Unit	ドライブの搭載位置を示します。
Life Status	ドライブの Move 回数による予兆／交換要求状態を示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Normal：交換基準に達していない正常な状態 • Near：交換基準の予兆に達した状態 • Reach：交換基準に達した状態
Thread Count	カートリッジテープがドライブへロードされた回数を示します。
Write Retry Rate	1GB 当たりの書き込み時エラーレート回数を示します。
Read Retry Rate	1GB 当たりの読み込み時エラーレート回数を示します。
Suspend Write Rate	1GB 当たりの Suspend Write 時のエラーレート回数を示します。

表示項目	説明
Write Data Sets	書き込み時のデータ処理量を示します。
Read Data Sets	読み込み時のデータ処理量を示します。

3.6 ライブラリ／ドライブの版数の表示

[Information] 配下に表示される [Version] ボタンをクリックすると、ライブラリおよびドライブのファームウェア版数を参照できます。

図 3.29 ファームウェア版数表示画面

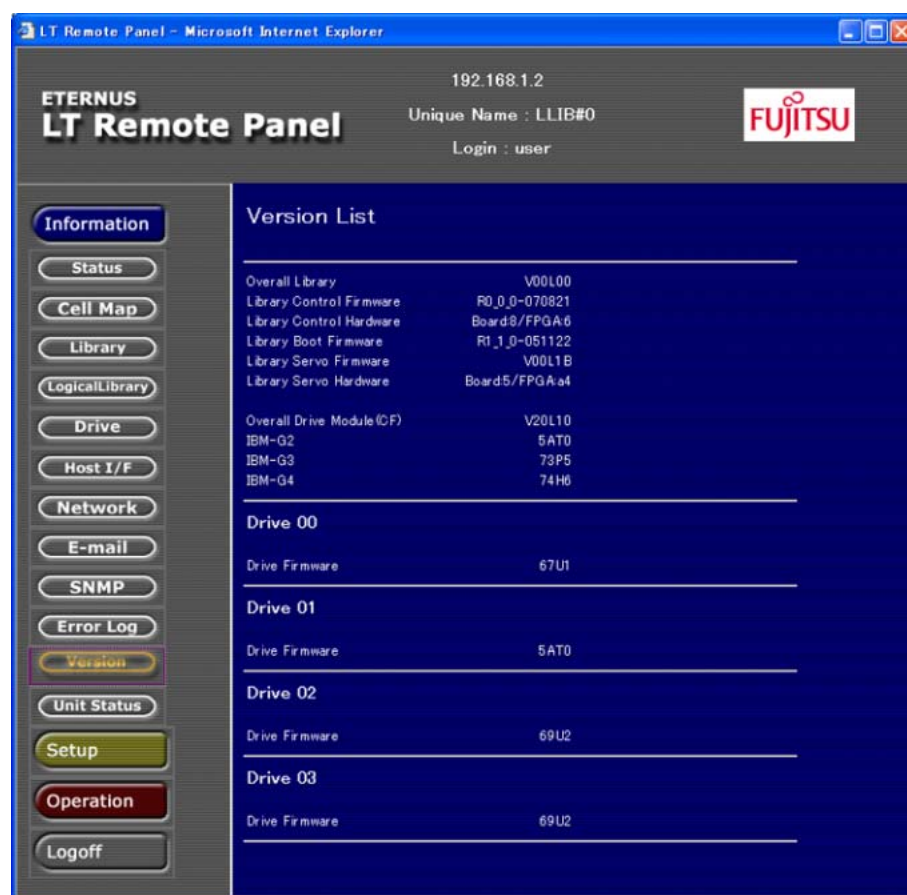


表 3.23 ファームウェア版数情報

表示項目	説明
Overall Library	ライブラリファームウェアの全体版数を表示します。
Library Control Firmware	ライブラリファームウェアの版数を表示します。
Library Control Hardware	ライブラリハードウェアの版数を表示します。
Library Boot Firmware	ブートルoaderの版数を表示します。

表示項目	説明
Library Servo Firmware	Servo ファームウェアの版数を表示します。
Library Servo Hardware	Servo ハードウェアの版数を表示します。
Overall Drive Module (CF)	CF 内に保存されているドライブモジュールの全体版数を表示し、ドライブモジュール各種のバージョンを表示します。
Drive Firmware	搭載されている個々のドライブのファームウェア版数を示します。

3.7 E-mail 設定情報の表示

[Information] 配下に表示される [E-mail] ボタンをクリックすると、送信元 E-mail アドレス、送信先 E-mail アドレス、SMTP サーバアドレスなどの E-mail の設定情報を参照できます。

図 3.30 E-mail 設定情報表示画面

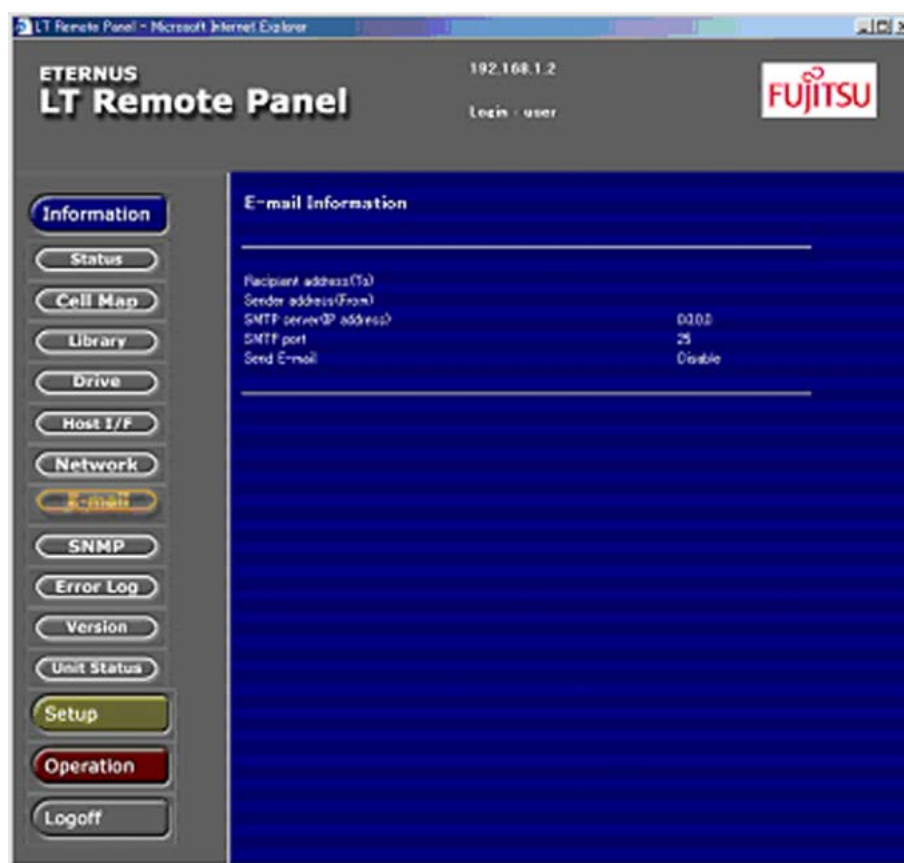


表 3.24 E-mail 設定情報

表示項目	説明
Recipient address (To)	送信先のアドレスを表示します (最大 5 個)。
Sender address (From)	送信元のアドレスを表示します。
SMTP server (IP address)	SMTP サーバの IP アドレスを表示します。
SMTP port	SMTP サーバのポート番号を表示します。
Send E-mail	E-mail を送信する／しないの設定を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Enable : E-mail を送信します。 • Disable : E-mail を送信しません。

ライブラリハードウェアエラー発生時のメール送信内容を以下に例示します。

表 3.25 メール送信内容 (ライブラリハードウェアエラー発生時)

The Library error occurred.	説明
Timestamp : 2004/8/1 12:00:00	エラー発生時間を示します。
IP Address : 192.168.1.2	IP アドレスを示します (装置名を設定した場合は装置名が表示されます)。
FSC : 20001001	Fault Symptom Code を示します。
FRU : PCA LCNT UNIT	交換部品を示します。
Sense Key : 04	Sense Key を示します。
ASC/ASCQ : 4400	ASC/ASCQ を示します。
Barcode Label : LT0281L1	エラー発生時に使用したバーコードラベル名を示します。
Host ID : 01	ホストまたは switch の LOOP ID を示します。
Target ID : 125	ライブラリの LOOP ID を示します。
Logical Unit Number : 00	ライブラリの Logical Unit 番号を示します。
Command code : a5	エラー発生時の SCSI コマンドを示します。
Source Address : 1000	移動元セルアドレスを示します。
Destination Address : 500	移動先セルアドレスを示します。
Library Serial Number : 0001	ライブラリのシリアル番号を示します。
Overall Library : 01-01	コントロール部の全体版数を示します。
Boot Loader Version : R1_1_0-050701	ブートローダ部の F/W 版数を示します。
Library Control Firmware : R1_1_0-050701	コントロール部の F/W 版数を示します。
Library Control Hardware : Board:0/FPGA:4	コントロール部の H/W 版数を示します。
Library Servo Firmware : V00L05	サーボ部の F/W 版数を示します。
Library Servo Hardware : Board:0/FPGA:1	サーボ部の H/W 版数を示します。
Overall Drive Module 00 : 01-01	ドライブモジュール 00 の全体版数を示します。
Drive 00 Firmware : 53Y2	ドライブ 00 の F/W 版数を示します。
Overall Drive Module 01 : 01-01	ドライブモジュール 01 の全体版数を示します。
Drive 01 Firmware : 53Y2	ドライブ 01 の F/W 版数を示します。

ドライブのハードウェアエラー発生時のメール送信内容を以下に例示します。

表 3.26 メール送信内容（ドライブハードウェアエラー発生時）

The drive error occurred.	説明
Timestamp : 2004/1/1 12:00:00	エラー発生時間を示します。
IP Address : 192.168.1.2	IP アドレスを示します（装置名を設定した場合は装置名が表示されます）。
FSC : 48001001	Fault Symptom Code を示します。
FRU : DRV UNIT0	交換部品を示します。
Sense Key : 04	Sense Key を示します。
ASC/ASCQ : 4400	ASC/ASCQ を示します。
Barcode Label : LT0281L1	エラー発生時に使用したバーコードラベル名を示します。
Library Serial Number : 0001	ライブラリのシリアル番号を示します。
Overall Library : 01-01	コントロール部の全体版数を示します。
Boot Loader Version : R1_1_0-050701	ブートローダ部の F/W 版数を示します。
Library Control Firmware : R1_1_0-050701	コントロール部の F/W 版数を示します。
Library Control Hardware : Board:0/FPGA:4	コントロール部の H/W 版数を示します。
Library Servo Firmware : V00L05	サーボ部の F/W 版数を示します。
Library Servo Hardware : Board:0/FPGA:1	サーボ部の H/W 版数を示します。
Overall Drive Module 00 : 01-01	ドライブモジュール 00 の全体版数を示します。
Drive 00 Firmware : 53Y2	ドライブ 00 の F/W 版数を示します。
Overall Drive Module 01 : 01-01	ドライブモジュール 01 の全体版数を示します。
Drive 01 Firmware : 53Y2	ドライブ 01 の F/W 版数を示します。

3.8 SNMP 設定情報の表示

[Information] 配下に表示される [SNMP] ボタンをクリックすると、コミュニティー、トラップ送信先アドレス、トラップ送信機能などの SNMP 設定情報を参照できます。

図 3.31 SNMP 設定情報表示画面

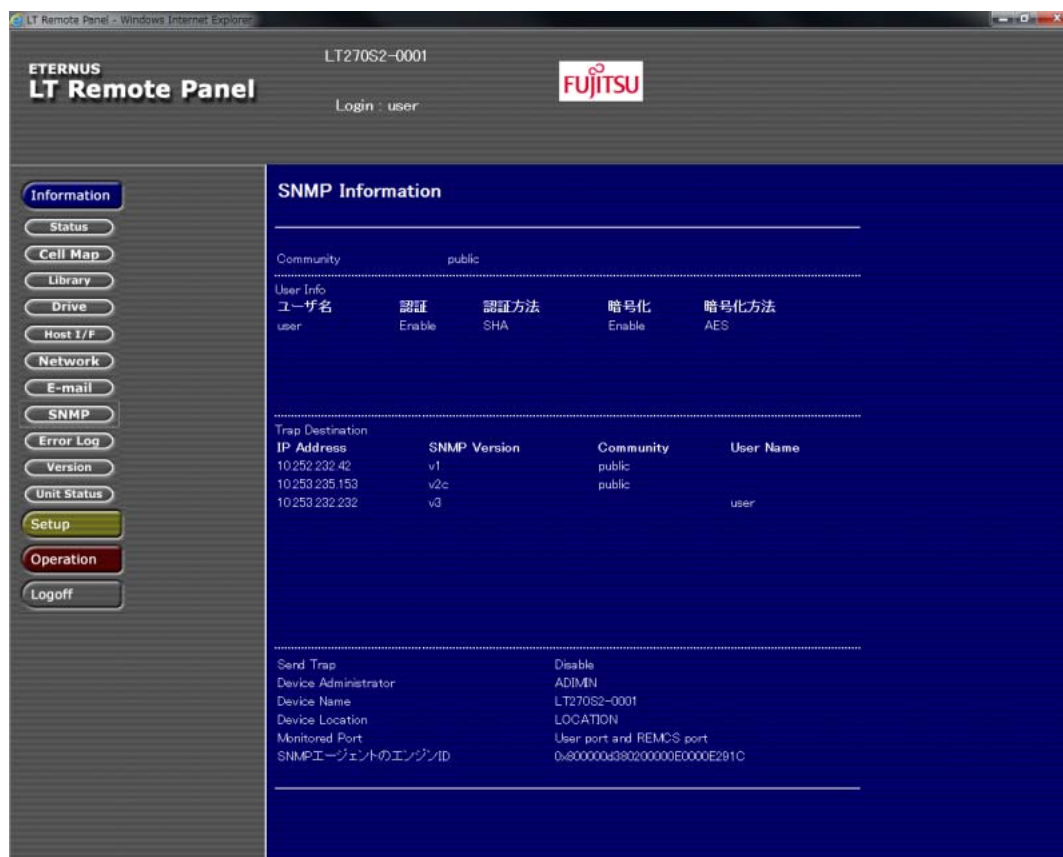


表 3.27 SNMP 設定情報

表示項目	説明
Community	コミュニティーを表示します（最大 5 個）。
User Info	以下のユーザー情報を表示します（最大 5 個）。 ユーザー名、認証、認証方法、暗号化、暗号化方法
Trap Destination Address	Trap 送信先の IP アドレスを表示します（最大 10 個）。 また、送信する Trap の SNMP Version、Community、User Name を表示します。
Send Trap	Trap を送信する／しないの設定を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Enable : Trap を送信します。 • Disable : Trap を送信しません。
Device Administrator	装置の管理者名を表示します。

表示項目	説明
Device Name	装置名を表示します。
Device Location	装置設置場所を表示します。
Monitored Port	監視対象 Port を表示します。
SNMP エージェントの エンジン ID	SNMP エージェントのエンジン ID を表示します。

3.9 各種ユニット情報の表示

[Information] 配下に表示される [Unit Status] ボタンをクリックすると、各ユニットの状態を参照できます。

● 備考

論理ライブラリが作成されている場合、ログイン時に選択した論理ライブラリに割り当てられているクラスタ、DCI の情報のみ表示されます。

図 3.32 各種ユニット情報表示画面

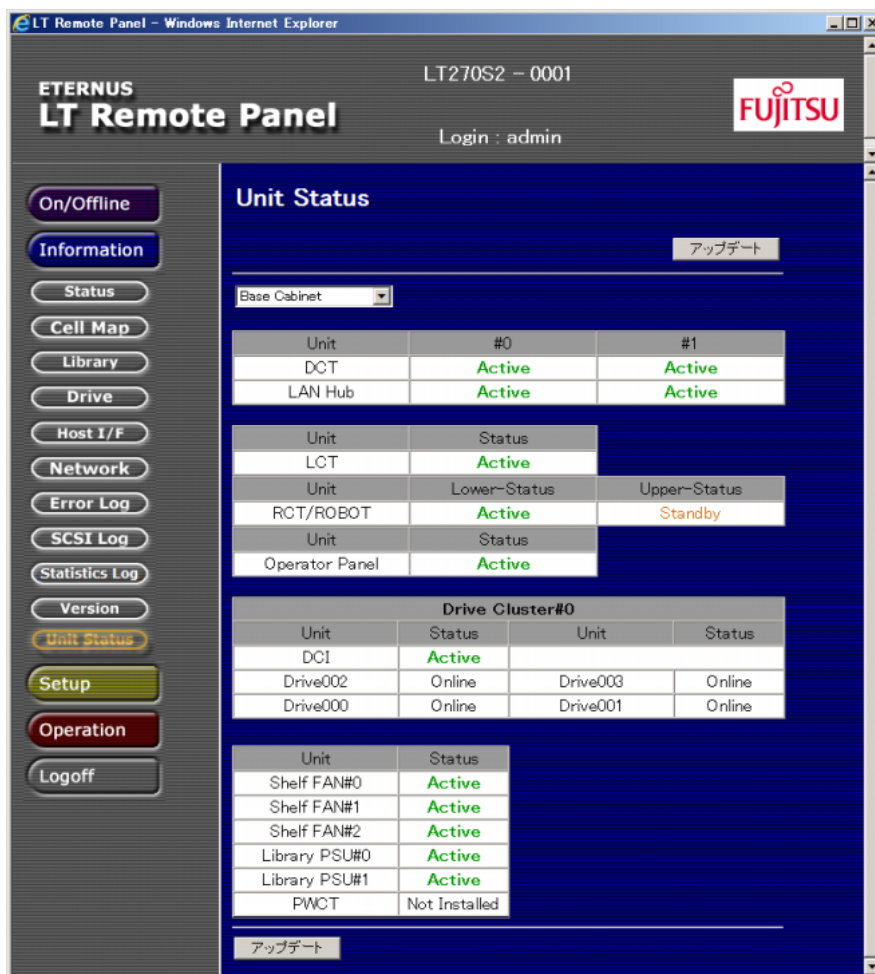


表 3.28 各種ユニットの状態表示

ユニット名	状態	
DCT	Active	稼働状態
	Standby	退避状態
	Power Off	電源 OFF 状態
	Error	エラー状態
LAN Hub	Active	稼働状態
	Power Off	電源 OFF 状態
	Error	エラー状態
LCT	Active	稼働状態
	Standby	退避状態
	Power Off	電源 OFF 状態
	Error	エラー状態
RCT / ROBOT (Lower / Upper)	Active	稼働状態
	Standby	退避状態
	Power Off	電源 OFF 状態
	Error	エラー状態
Operator Panel	Active	稼働状態
	Operating	オペレーターパネルよりライブラリ操作中の状態
	Calibration	キャリブレーション操作中の状態
	Power Off	電源 OFF 状態
	Not Installed	未装着状態
Drive Cluster#n DCS	Active	稼働状態
	Error	エラー状態
	Power Off	電源 OFF 状態
	Not Installed	未装着状態
Shelf FAN #0/#1/#2	Active	稼働状態
	FAN Alarm	FAN エラーが発生した状態
	Not Installed	未装着状態
Library PSU#0#1	Active	稼働状態
	Error	エラー状態
	FAN Alarm	FAN エラーが発生した状態
	Power Off	電源 OFF 状態
	Not Installed	未装着状態
PWCT	Active	稼働状態
	Error	エラー状態
	Power Off	電源 OFF 状態

3.10 ドライブの設定

ドライブをホストに接続するときのインターフェースに関する設定方法について説明します。

手順

- 1 [Setup] 配下に表示される [Drive] ボタンをクリックすると、ドライブ設定の画面が表示されます。すでに設定されている場合は、設定値が表示されます。

図 3.33 ドライブセットアップ画面



備考

- ドライブ内にカートリッジテープがあり、かつ1つも設定可能なドライブがない場合は「設定できるドライブはありません」とのメッセージが表示されます。
- 画面には、設定可能なドライブだけが表示されます。設定できないドライブについては、カレント値が表示されます。

2 各項目を設定します。

表 3.29 ドライブ情報設定項目

設定項目	説明
Topology	「Fabric」または「FC_AL」を選択してください。
Addressing Mode	Topology を「FC_AL」に設定した場合に有効となります。 「Hard」または「Soft」を選択してください。
LOOP ID	アドレッシングモードを「Hard」に設定した場合に指定が必要となります。 LOOP ID を選択してください。
Drive Link Speed	ドライブの Link Speed を「1Gbps」、「2Gbps」、「4Gbps」、「8Gbps」、「Auto (自動設定)」から選択します。

- 3 すべての設定が終わったら、[OK] ボタンをクリックします。入力前の状態に戻す場合は、[Reset] ボタンをクリックしてください。
- 4 [OK] ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。
表示内容に問題がなければ [OK] ボタンをクリックします。再度入力を行う場合は、[Back] ボタンをクリックしてください。
- 5 処理が完了すると、処理結果の画面が表示されます。

手順ここまで

3.11 ライブラリ情報の設定

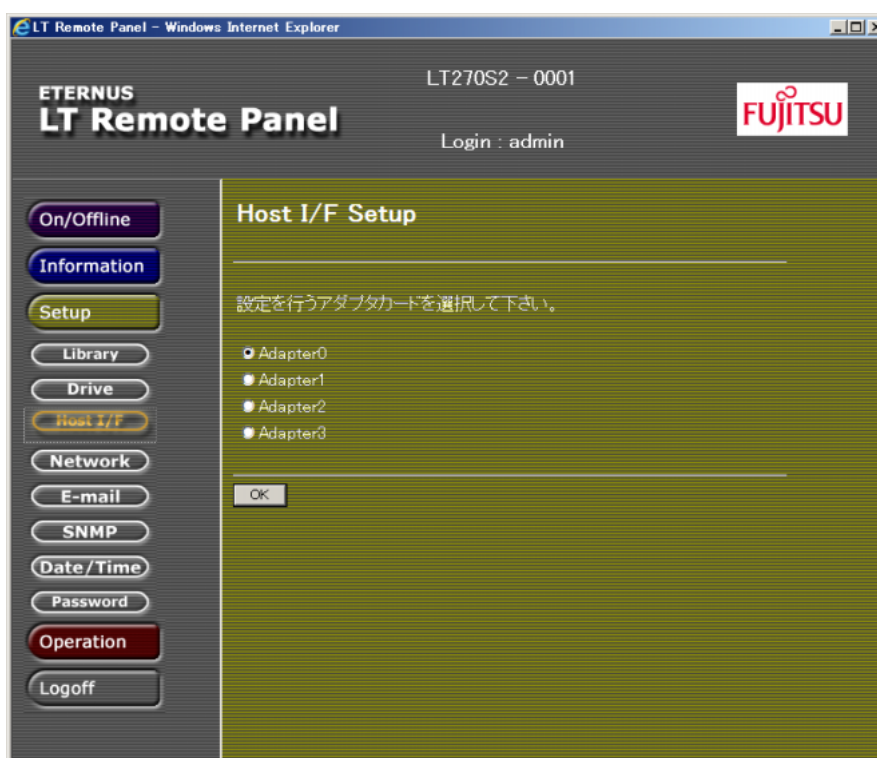
3.11.1 ホストインターフェースの設定

LT270 S2 をホストに接続するときのインターフェースの Target ID およびセキュリティを設定する方法について説明します。

手順

- 1 [Setup] 配下に表示される [Host I/F] ボタンをクリックすると、アダプターの選択画面が表示されます。設定を行うアダプターを選択して、[OK] ボタンをクリックします。

図 3.34 アダプター選択画面

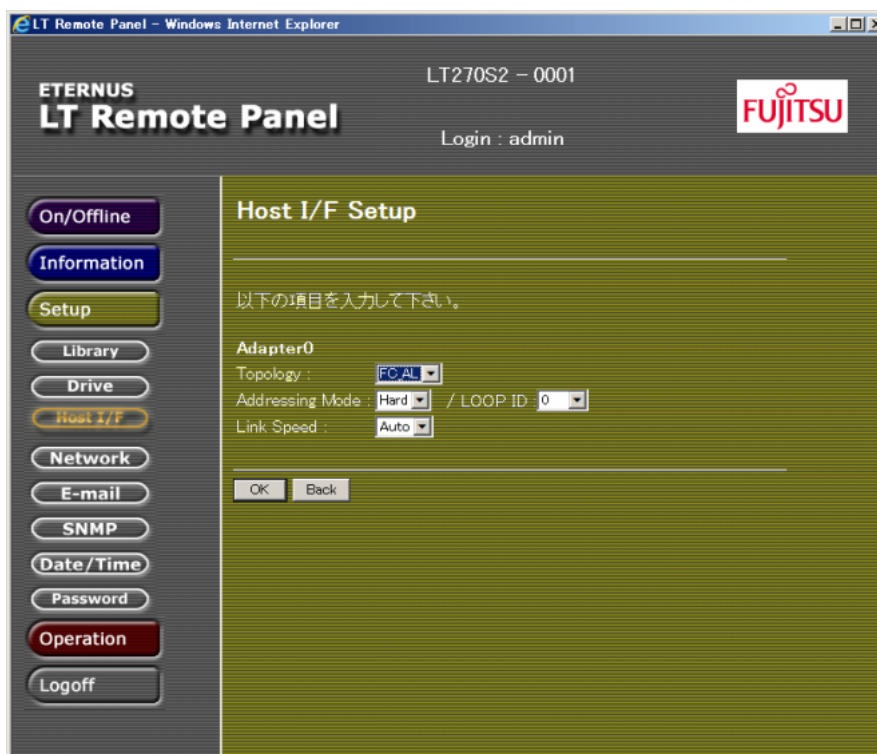


● 備考

- アダプターのエラーなどにより設定可能なアダプターがない場合、「設定できるアダプターはありません」とのメッセージが表示されます。
- 画面には設定可能なアダプターだけが表示されます。

- 2 選択されたアダプターの設定画面が表示されます。この画面では、アドレッシングモード、LOOP ID を設定できます。

図 3.35 ホストインターフェース設定画面



- 3 各項目を設定します。

表 3.30 ホストインターフェース設定項目

設定項目	説明
Topology	「Fabric」または「FC_AL」を選択してください。
Addressing Mode	Topology を「FC_AL」に設定した場合に有効となります。「Hard」または「Soft」を選択してください。
LOOP ID	アドレッシングモードを「Hard」に設定した場合に指定が必要となります。
Link Speed	Link Speed は「Auto」固定で変更できません。

- 4 すべての設定が終わったら、[OK] ボタンをクリックします。入力前の状態に戻す場合は、[Reset] ボタンをクリックしてください。
- 5 [OK] ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。表示内容に問題がなければ [OK] ボタンをクリックします。再度入力を行う場合は、[Back] ボタンをクリックしてください。
- 6 処理が完了すると、処理結果の画面が表示されます。これで設定の完了です。ホストインターフェースの設定を引き続き行う場合は、[手順 1](#) からの操作を繰り返してください。

7 設定が終了し、装置を再起動すると、設定した値が有効となります。

手順ここまで

3.11.2 ライブラリの設定

オートクリーニングモード、自動インベントリ機能、ファーストロード機能、運用セル数などを設定する方法について説明します。

手順

- 1 [Setup] 配下に表示される [Library] ボタンをクリックすると、ライブラリ設定の画面が表示されます。すでに設定されている場合は、設定値が表示されます。

図 3.36 ライブラリ情報設定画面

ETERNUS LT Remote Panel

LT270S2 - 0001

Login : admin

FUJITSU

Library Setup

以下の項目を入力して下さい。

Auto Cleaning Enable Disable

Auto Inventory Enable Disable

Fast Load Enable Disable

Host Feature 1

Barcode Label Length 8 characters

Usable Cells 924 (1-924)

Application Mode LT270 S2

Drive Power Saving Enable Disable

Use Protocol HTTP HTTPS

CAS/User Cell setting

Cabinet	Current	Changed	CAS#0	CAS#1
Base Cabinet	CAS		Closed	Closed
Expansion Cabinet#1	User Cell	->	User Cell	Closed

OK Reset

2 以下の項目を設定します。

表 3.31 ライブラリ情報設定項目

設定項目	説明
Auto Cleaning	ドライブの自動クリーニング機能を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • Enable : 有効にします。(デフォルト) • Disable : 無効にします。
Auto Inventory	装置電源が投入されたときの自動インベントリを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • Enable : 有効にします。(デフォルト) • Disable : 無効にします。
Fast Load	Fast Load 機能を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • Enable : 有効にします。(デフォルト) • Disable : 無効にします。
Host Feature	Host Feature を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 : デフォルト • 1 : LMF 接続時 • 2 : Net Vault 接続時 • 3 : IBM Tivoli Storage Manager Extended Edition/ETERNUS SF TSM EE 5.x 接続時
Barcode Label Length	ホストに応答するバーコードラベルの文字数を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 6 characters : 6 文字にします。(デフォルト) • 8 characters : 8 文字にします。 <p>● 備考</p> <p>論理ライブラリを構成すると、バーコードラベル文字は論理ライブラリごとの設定となります。</p>
Usable Cells	ライブラリのセルで運用セル数を制限する場合に、そのセル数を設定します。 <p>▶ 注意</p> <p>バックアップソフトウェアによってライブラリのセル数を制限する必要がある場合のみの設定となります。通常は設定の必要はありません。</p>
Application Mode	LT270 エミュレーションモードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> • LT270 S2 : LT270 S2 として動作します。(デフォルト) • LT270 Emulation : ホストへの応答を LT270 互換にします。 バックアップソフトウェアによって装置を LT270 として使用する必要がある場合に設定します。
Drive Power Saving	ドライブの省電力モードの有無を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • Enable : ドライブを省電力モードありで起動します。(デフォルト) • Disable : ドライブを省電力モードなしで起動します。

設定項目	説明
Use Protocol	LT Remote Panel へのアクセスプロトコルを設定します。 <ul style="list-style-type: none">• HTTP : LT Remote Panel へ http で接続します。(デフォルト)• HTTPS : LT Remote Panel へ https で接続します。 <p>注意</p> <p>暗号鍵管理オプションを適用している場合のみ設定が可能です。 設定に関する詳細は、『FUJITSU Storage ETERNUS LT250/LT270/LT270 S2 テーブライブラリ用 暗号鍵管理オプション ユーザーズガイド』の「2.2 ネットワーク・セキュリティの設定」を参照してください。</p>
CAS/User Cell setting	拡張キャビネットの CAS を有効にするための設定です。 拡張キャビネットごとに設定が可能です。 <ul style="list-style-type: none">• User Cell : CAS は使用できず User Cell として使われます。(デフォルト)• CAS : 拡張キャビネットの CAS が使用可能になります。 <p>注意</p> <p>基本キャビネットのみの構成では、設定項目が表示されません。</p>

- 3 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックします。入力前の状態に戻す場合は、[Reset] ボタンをクリックしてください。
- 4 [OK] ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。
表示内容に問題がなければ [OK] ボタンをクリックします。再度入力を行う場合は、[Back] ボタンをクリックしてください。
- 5 処理が完了すると、処理結果の画面が表示されます。

手順ここまで

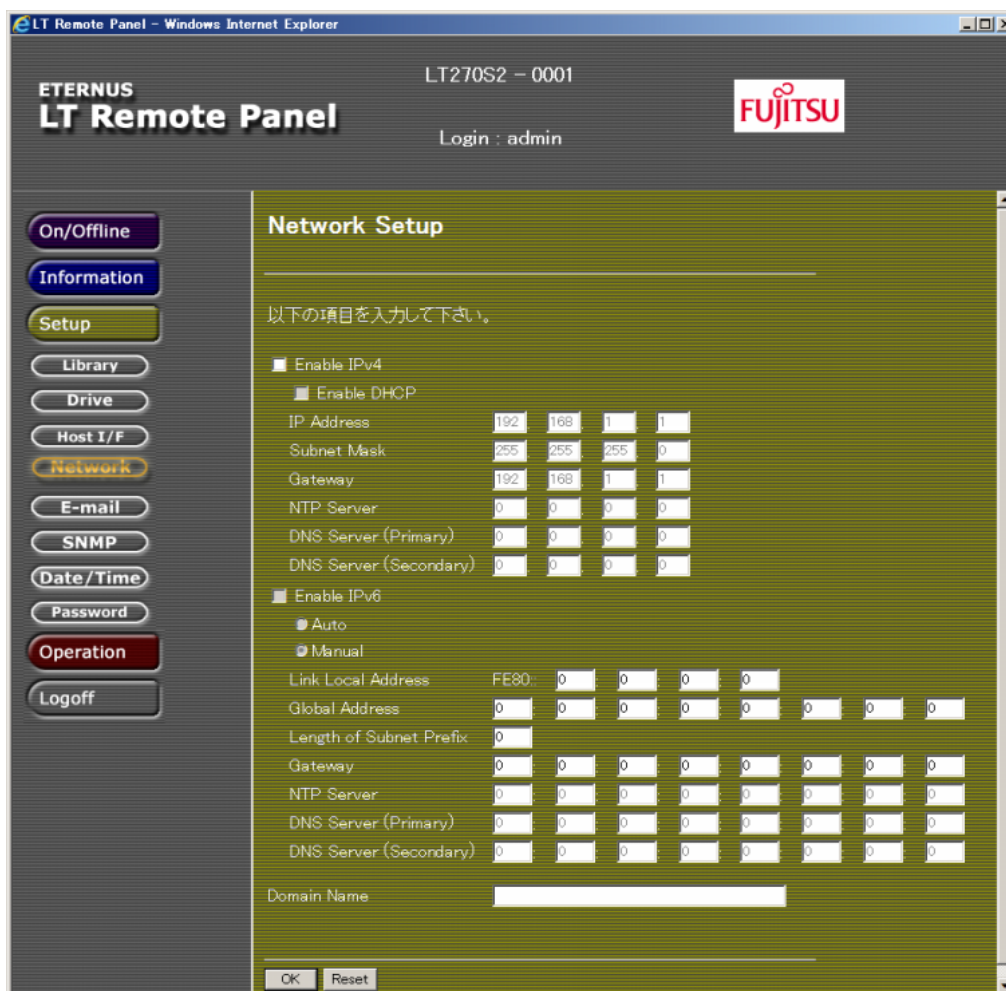
3.11.3 ネットワークの設定

ネットワーク情報の設定方法について説明します。
IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイの設定を行えます。

手順

- 1 [Setup] 配下に表示される [Network] ボタンをクリックすると、ネットワーク設定の画面が表示されます。すでに設定されている場合は、設定値が表示されます。

図 3.37 ネットワーク情報設定画面（DHCP 無効）



2 各項目を設定します。

表 3.32 ネットワーク情報設定項目

設定項目	説明
Enable IPv4	IPv4 設定の IP アドレスの有効／無効を指定します。 少なくとも IPv4 と IPv6 どちらかの設定が有効である必要があります。 無効時は IPv4 に関連する設定が無効化されます。
Enable DHCP	DHCP の有効／無効を指定します。 有効時は NTP Server 以外の設定が自動で行われ、入力できなくなります。
IP Address	LT270 S2 の IP アドレスを IPv4 指定で入力します。 入力可能文字は、半角数字だけです。
Subnet Mask	LT270 S2 のサブネットマスクを入力します。 入力可能文字は、半角数字だけです。
Gateway	サブネット外からアクセスする場合、およびサブネット内でも Web ブラウザがプロキシ経由でアクセスする場合に、設定が必要です。 入力可能文字は、半角数字だけです。

設定項目	説明
NTP Server	NTP Server から時計を設定するときに必要な、NTP Server の IP アドレスを IPv4 指定で入力します。 入力可能文字は、半角数字だけです。
DNS Server (Primary)	ドメインの名前解決を利用するときに必要な、DNS Server の IP アドレスを IPv4 指定で入力します。Primary は優先 DNS Server を指定します。 入力可能文字は、半角数字だけです。
DNS Server (Secondary)	ドメインの名前解決を利用するときに必要な、DNS Server の IP アドレスを IPv4 指定で入力します。Secondary は代替 DNS Server を指定します。 入力可能文字は、半角数字だけです。
Enable IPv6	IPv6 設定の IP アドレスの有効／無効を指定します。 少なくとも IPv4 と IPv6 どちらかの設定が有効である必要があります。 無効時は IPv6 に関連する設定が無効化されます。
Auto/Manual	IPv6 ネットワークの自動構成設定を指定します。 Auto 選択時は NTP Server、DNS Server 以外の設定が自動で行われ、入力できなくなります。
Link Local Address	LT270 S2 のリンクローカルアドレスを入力します。 冒頭の 4bit 分は FE80 で固定となります。
Global Address	LT270 S2 のグローバルアドレスを入力します。
Length of Subnet Prefix	プレフィックス長を入力します。 通常は 64 とします。
NTP Server	NTP Server から時計を設定するときに必要な、NTP Server の IP アドレスを IPv6 指定で入力します。 入力可能文字は、半角数字だけです。
DNS Server (Primary)	ドメインの名前解決を利用するときに必要な、DNS Server の IP アドレスを IPv6 指定で入力します。Primary は優先 DNS Server を指定します。 入力可能文字は、半角数字だけです。
DNS Server (Secondary)	ドメインの名前解決を利用するときに必要な、DNS Server の IP アドレスを IPv6 指定で入力します。Secondary は代替 DNS Server を指定します。入力可能文字は、半角数字だけです。

● 備考

- 入力可能文字以外を入力すると、入力エラーのメッセージが表示されます。
- ネットワークの設定を変更した場合は、リモートパネルの接続が切断されますので、再度接続を行ってください。

手順ここまで

3.11.4 時計の設定

LT270 S2 に内蔵されている日付時刻の設定方法について説明します。

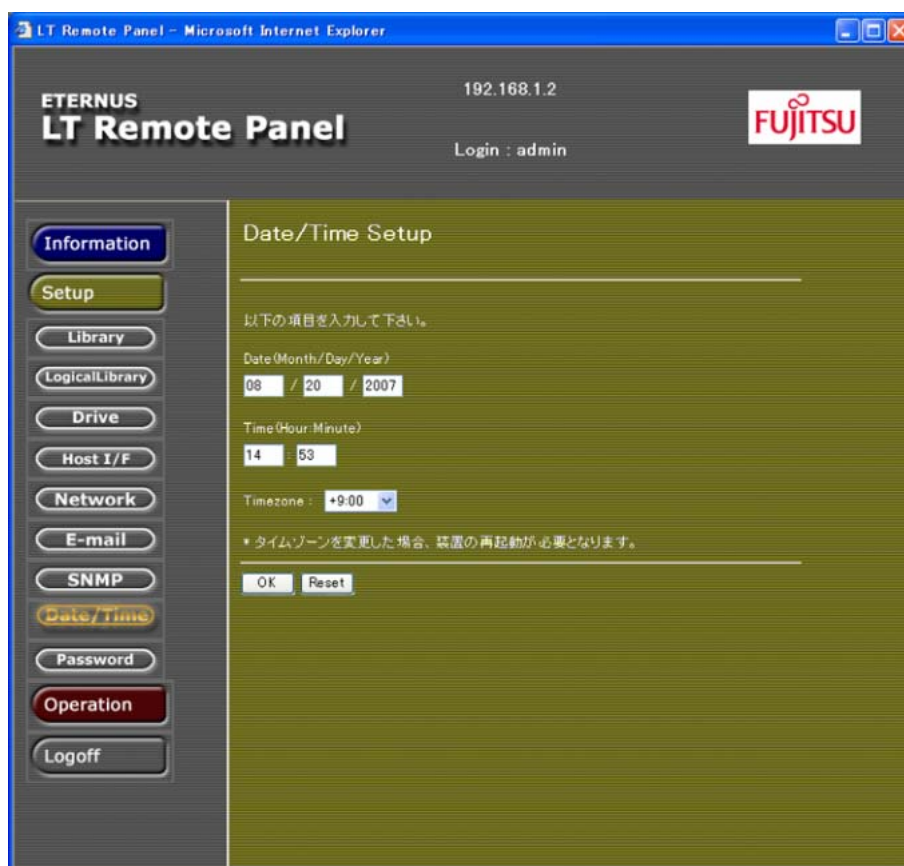
▶ 注意

Time Zone を変更すると、ライブラリのリブートが必要となります。リブートできない場合は [Back] ボタンでキャンセルし、リブートができる状態で再度設定してください。

手順

- 1 [Setup] 配下に表示される [Date/Time] をクリックすると、日付時刻設定の画面が表示されます。すでに設定されている場合は、設定値が表示されます。

図 3.38 日付時刻設定画面



2 各項目を設定します。

表 3.33 日付時刻設定項目

設定項目	説明
Date (Month/Day/Year) <入力必須>	日付を入力します。入力可能文字は半角数字だけです。入力範囲は Month (1-12) /Day (1-31) /Year (2002-2037) です。
Time (Hour/Minute) <入力必須>	時刻を入力します。入力可能文字は半角数字だけです。入力範囲は Hour (0-23) /Minute (0-59) です。
Timezone	時間帯を設定します。

● 備考

- 入力可能文字、または入力範囲以外を入力すると、入力エラーのメッセージが表示されません。
- Timezone の設定については [「2.7.2 時計の設定」\(P.52\)](#) の表 2.7 を参照してください。

- 3 すべての設定が終わったら、[OK] ボタンをクリックします。入力前の状態に戻す場合は、[Reset] ボタンをクリックしてください。
- 4 [OK] ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。表示内容に問題がなければ [OK] ボタンをクリックします。再度入力を行う場合は、[Back] ボタンをクリックしてください。
- 5 処理が完了すると、処理結果の画面が表示されます。

手順ここまで

3.11.5 E-mail 機能の設定

E-mail 機能の設定方法について説明します。

E-mail 機能とは、装置からのエラー情報などの通知を E-mail で受信できるようにする機能のことです。E-mail 機能を使用する場合は、送信元 E-mail アドレス、送信先 E-mail アドレス、および SMTP サーバアドレスを設定する必要があります。

手順

- 1 [Setup] 配下に表示される [E-mail] ボタンをクリックすると、E-mail 機能設定の画面が表示されます。すでに設定されている場合は、設定値が表示されます。

図 3.39 E-mail 機能設定画面

The screenshot shows the 'E-mail Setup' page within the 'ETERNUS LT Remote Panel'. The page title is 'LT270S2 - 0001' and the user is logged in as 'admin'. The left sidebar contains navigation buttons: On/Offline, Information, Setup (highlighted), Library, Drive, Host I/F, Network, E-mail (highlighted), SNMP, Date/Time, Password, Operation, and Logoff. The main content area is titled 'E-mail Setup' and contains the following text and fields:

以下の項目を入力して下さい。

Recipient address(To)
[Text Input Field]
[Text Input Field]
[Text Input Field]
[Text Input Field]

Sender address(From)
[Text Input Field]

SMTP server(IP address or Domain Name)
[Text Input Field]

SMTP port
25 [Text Input Field]

Enable Send E-mail

* "Email Test"を行う場合、設定を確定させる必要があります。

[OK] [Reset] [Email Test]

2 各項目を設定します。

表 3.34 E-mail 設定項目

設定項目	説明
Recipient Address (To)	通知を受け取りたいメールアドレスを最大5つまで登録できます。テキストエリアには、最大64文字まで入力可能ですが、1つのテキストエリアに設定できるのは、1つのメールアドレスです。入力可能文字は、半角英数字および半角記号(-_@)です。設定されているメールアドレスを送信先から外したい場合は、該当するメールアドレスを削除してください。
Sender Address (From)	送信元メールアドレスとして、次項目で設定するSMTPサーバのIPアドレスに登録されているアドレスを設定してください。テキストエリアには最大64文字まで入力可能です。入力可能文字は、半角英数字および半角記号(-_@)です。
SMTP Server	メールの送信に利用するSMTPサーバのIPアドレスを設定します。IPv4アドレス、IPv6アドレス、ドメイン名が指定可能です。
SMTP Port	メールの送信に使用するメールサーバのポートを設定します（通常は25です）。テキストエリアには最大5文字まで入力可能です。1つのテキストエリアに入力できるのは、1から65535までの半角数字だけです。
Enable Send E-mail	エラー発生時に上記に設定したアドレスに対してE-mail送信をするかどうかを指定します。送信を許可する場合はチェックをしてください。送信を行いたくない場合はチェックをしないでください。

● 備考

入力可能文字以外を入力すると、入力エラーのメッセージが表示されます。

- 3 すべての設定が終わったら、[OK] ボタンをクリックします。入力前の状態に戻す場合は、[Reset] ボタンをクリックしてください。
- 4 [OK] ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。表示内容に問題がなければ [OK] ボタンをクリックします。再度入力を行う場合は、[Back] ボタンをクリックしてください。
- 5 処理が完了すると、処理結果の画面が表示されます。

手順ここまで

3.11.6 E-mail の送信テスト

Setup で E-mail の設定を行った場合、設定されたメールアドレスに対して E-mail が送信されるかテストできます。

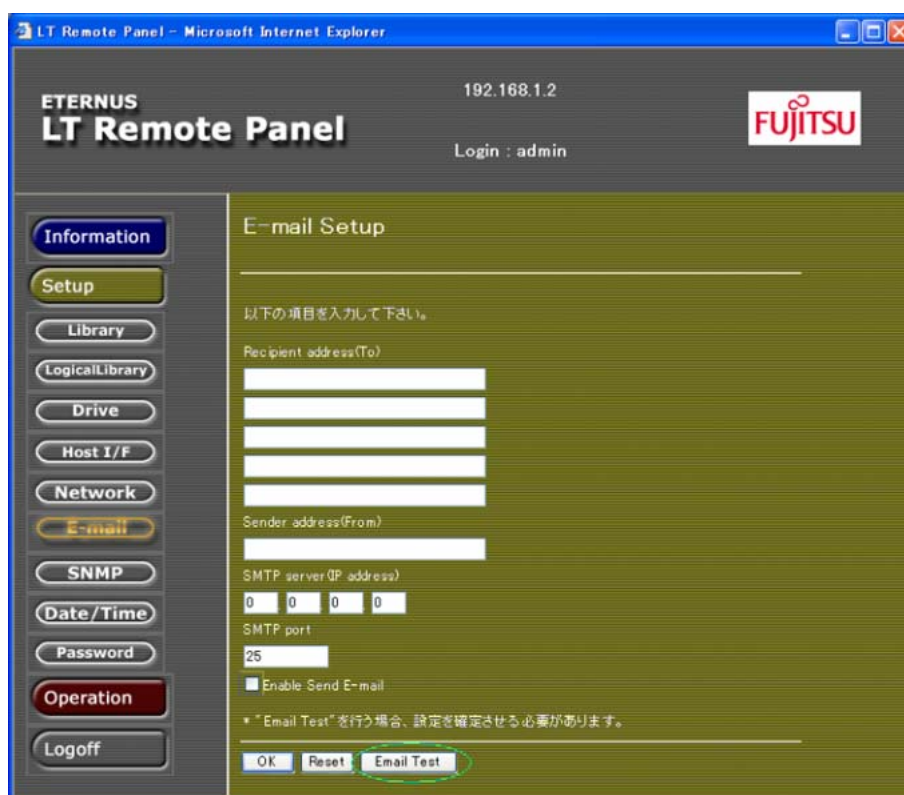
注意

テストを実施する前に、設定を完了させる必要があります。

手順

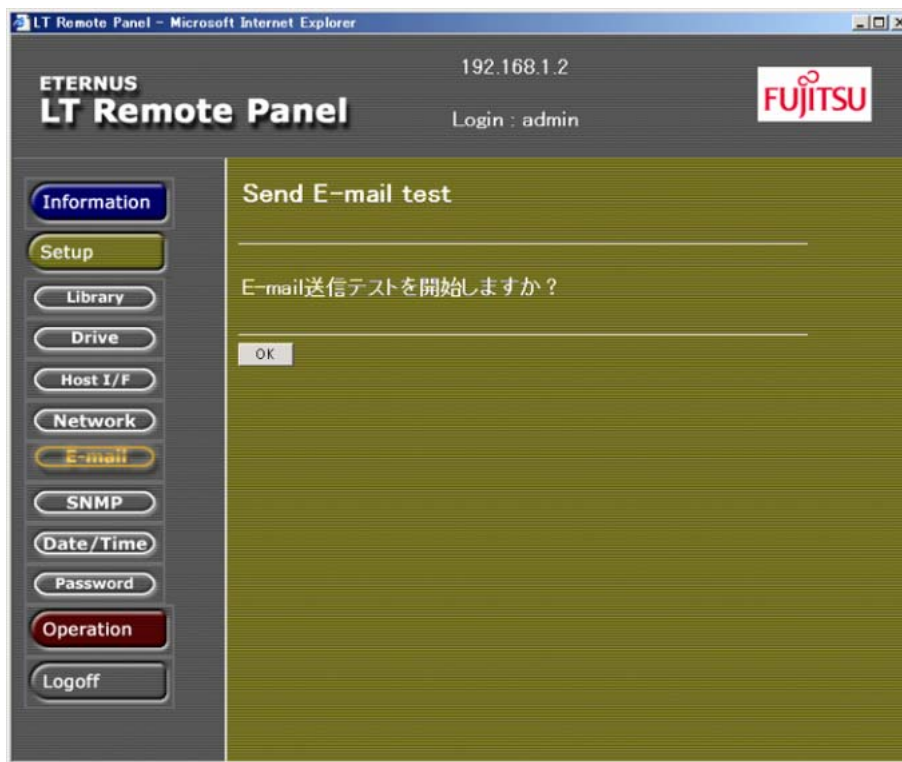
- 1 [Setup] 配下に表示される [E-mail] をクリックすると、以下の画面が表示されます。

図 3.40 E-mail 機能設定画面 (送信テスト)



- 2 [Email Test] ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。

図 3.41 E-mail 送信テスト開始画面



- 3 送信を行う場合、[OK] ボタンをクリックします。
- 4 送信が完了した場合、以下の画面が表示されます。送信先メールアドレスにテストメールが送信されているか確認してください。

図 3.42 E-mail 送信テスト結果画面



手順ここまで

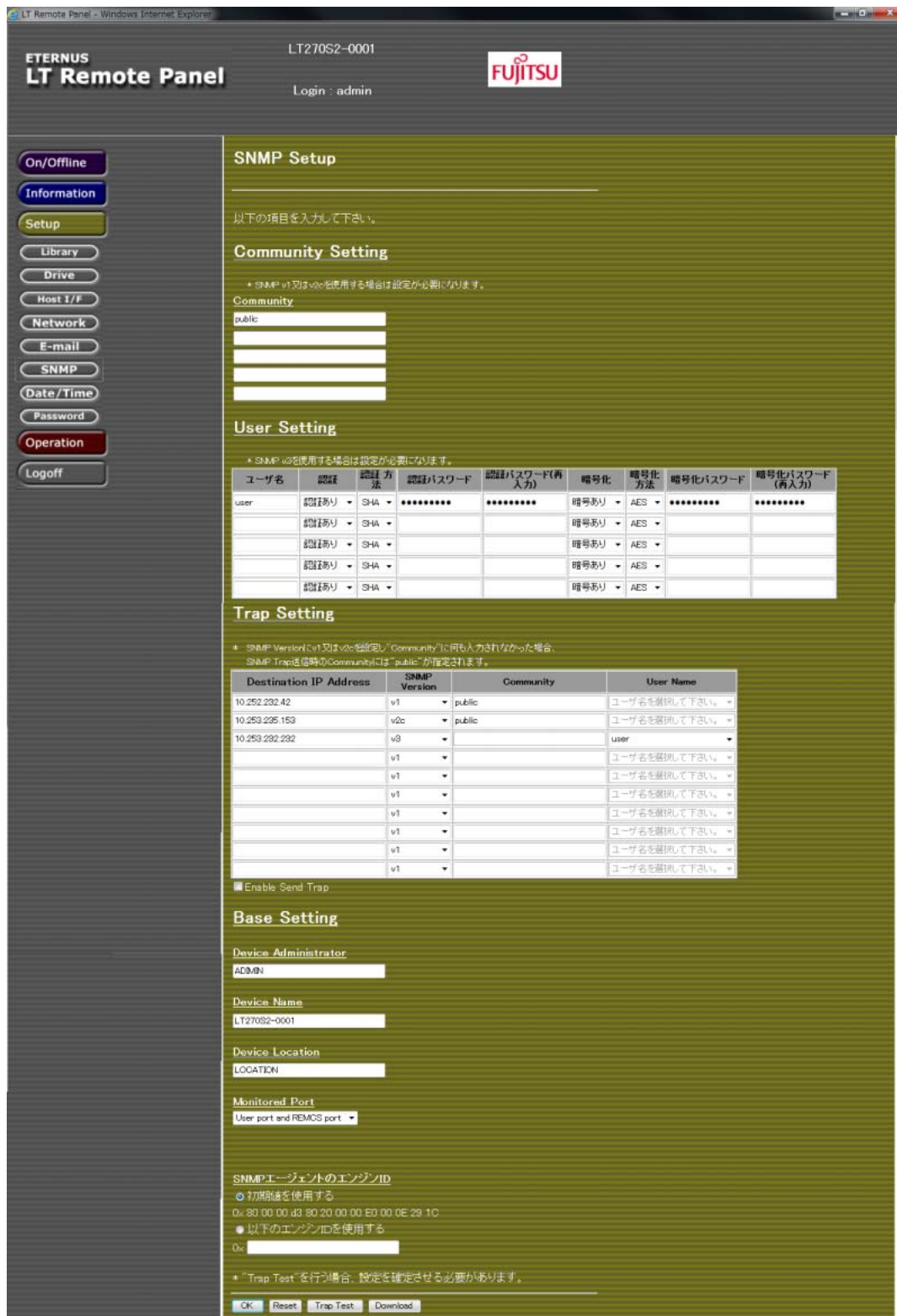
3.11.7 SNMP エージェントの設定

SNMP マネージャーとの通信を行うときに必要となる SNMP エージェントの設定方法について説明します。
SNMP サーバアドレスを設定する必要があります。

手順

- 1 [Setup] 配下に表示される [SNMP] ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。すでに設定されている場合は設定値が表示されます。

図 3.43 SNMP エージェント設定画面



2 各項目を設定します。

表 3.35 SNMP エージェント設定項目

設定項目	説明
Community	SNMP マネージャーで設定されている Community を最大 5 つまで登録できます。各テキストエリアには最大 64 文字まで入力可能ですが、1 つのテキストエリアに設定できるのは 1 つの Community です。入力可能文字は、半角英数字および半角記号 (!"#\$%&'()*+,-./:;<=>@[¥]^_`{ }) です。設定されている Community を削除したいときは、該当する Community を削除してください。
ユーザー名	SNMP マネージャーで設定されているユーザー名を最大 5 つまで登録できます。各テキストエリアには最大 64 文字まで入力可能ですが、1 つのテキストエリアに設定できるのは 1 つのユーザー名です。入力可能文字は、半角英数字および半角記号 (!"#\$%&'()*+,-./:;<=>@[¥]^_`{ }) です。設定されているユーザー名を削除したいときは、該当するユーザー名を削除してください。本設定は SNMPVersion が v3 の場合に有効です。
認証	認証の認証あり／認証なしを指定します。 認証ありの場合、指定した認証方法とパスワード以外では SNMP にアクセスできません。
認証方法	認証方法を指定します。 指定できる認証方法は「SHA」と「MD5」です。
認証パスワード	認証に使用するパスワードを登録します。 入力可能文字数は 8 ～ 32 文字です。 入力可能文字は、半角英数字および半角記号 (!"#\$%&'()*+,-./:;<=>@[¥]^_`{ }) です。
認証パスワード (再入力)	認証パスワードに入力したものを再度入力します。 入力可能文字数：は 8 文字以上 32 文字以内です。 入力可能文字は、半角英数字および半角記号 (!"#\$%&'()*+,-./:;<=>@[¥]^_`{ }) です。
暗号化	暗号化の暗号あり／暗号なしを指定します。 暗号あり時は指定した暗号化方法およびパスワードでデータを暗号化します。
暗号化方法	暗号化方法を指定します。 指定できる暗号化方法は「AES」と「DES」です。
暗号化パスワード	暗号化に使用するパスワードを登録します。 入力可能文字数は 8 ～ 32 文字です。 入力可能文字は、半角英数字および半角記号 (!"#\$%&'()*+,-./:;<=>@[¥]^_`{ }) です。
暗号化パスワード (再入力)	暗号化パスワードに入力したものを再度入力します。 入力可能文字数は 8 文字以上 32 文字以内です。 入力可能文字は、半角英数字および半角記号 (!"#\$%&'()*+,-./:;<=>@[¥]^_`{ }) です。

設定項目	説明
Trap Destination IP Address	<p>ここで指定した IP アドレスに対して Trap が送信されます。 テキストエリアには IPv4, IPv6, DNS の 3 形式で入力が可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IPv4 形式 入力可能文字は、0 から 255 までの半角数字です。 • IPv6 形式 入力可能文字は、半角英数字です。 • DNS 形式 入力可能文字は、半角英数字および半角記号 (!"#\$%&'()*+,-./ :;<=>@[¥]^_`{ }) です。
SNMP Version	<p>Trap を送信する SNMP のプロトコルを指定します。 指定できるプロトコルは「v1」、「v2c」、「v3」です。</p>
Community (Trap Setting)	<p>SNMP Trap 送信時のコミュニティ名を送信先ごとに設定します。本情報が未設定の場合は Community 名として public が自動設定されます。 入力可能文字は、半角英数字です。 本情報は SNMPVersion で「v1」または「v2c」を指定した場合に有効です。</p>
User Name	<p>SNMP Trap 送信時のユーザー名を送信先ごとに指定します。本情報は UserSetting で登録したユーザー名が選択可能です。 本情報は SNMPVersion で「v3」を指定した場合有効です。</p>
Monitored Port	<p>SNMP 監視対象を USER Port のみ、または USER Port および REMCS Port に設定します。 SNMP 監視対象を USER Port および REMCS Port に設定した場合、Systemwalker Centric Manager 上の Node 監視で LT270 S2 の Node が青色状態となる場合があります。Systemwalker Centric Manager における確かな監視を行いたい場合には SNMP 監視対象を USER Port Only に設定することを推奨します。</p>
Enable Send Trap	<p>ここにチェックすると、エラー発生時、Trap Destination IP Address で指定した IP アドレスに Trap が送信されるようになります。</p>
Device Administrator	<p>LT270 S2 の管理者名を入力します。テキストエリアには最大 20 文字まで入力可能です。入力可能文字は、半角英数字および半角記号 (!"#\$%&'()*+,-./ :;<=>@[¥]^_`{ }) です。ここに入力された情報は、MIB 情報の SysContact で報告されます。</p>
Device Name	<p>ユニークなライブラリ装置名を入力します。テキストエリアには最大 20 文字まで入力可能です。入力可能文字は、半角英数字および半角記号 (!"#\$%&'()*+,-./ :;<=>@[¥]^_`{ }) です。ここに入力された情報は、MIB 情報の SysName で報告されます。</p>
Device Location	<p>LT270 S2 の設置場所を入力します。テキストエリアには最大 20 文字まで入力可能です。入力可能文字は、半角英数字および半角記号 (!"#\$%&'()*+,-./ :;<=>@[¥]^_`{ }) です。ここに入力された情報は、MIB 情報の SysLocation で報告されます。</p>
SNMP エージェント のエンジン ID	<p>SNMP エージェントのエンジン ID を設定します。 「以下のエンジン ID を使用する」を選択した場合は手動で入力します。 入力可能文字数は 10 文字以上 64 文字以内の偶数です。 入力可能文字は半角英数字です。</p>

● 備考

入力可能文字以外を入力すると、入力エラーのメッセージが表示されます。

- 3 すべての設定が終わったら、[OK] ボタンをクリックします。入力前の状態に戻す場合は、[Reset] ボタンをクリックしてください。
- 4 確認画面が表示されます。
表示内容に問題がなければ [OK] ボタンをクリックします。再度入力を行う場合は、[Back] ボタンをクリックしてください。
- 5 処理が完了すると、処理結果の画面が表示されます。
- 6 設定が完了すると、SNMP エージェントを再起動（自動）されます。

手順ここまで

3.11.8 SNMP トラップの送信テスト

Setup で SNMP 設定を行った場合、設定された IP アドレスの装置に対してトラップが送信されるかテストできます。

● 備考

テスト送信されるトラップ内容は、以下になります。
「テスト用トラップ」

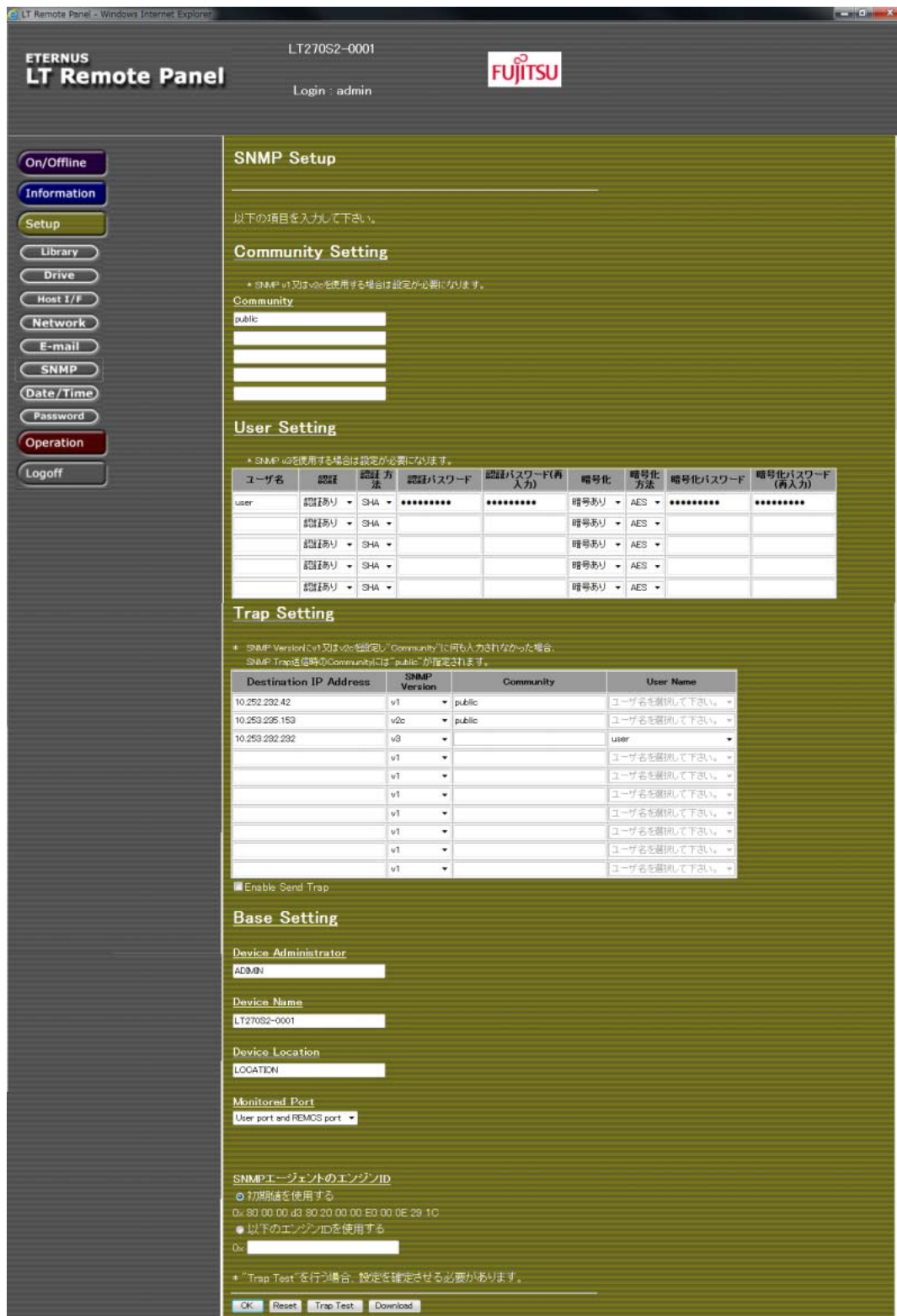
▶ 注意

テストを実施する前に、設定を完了させる必要があります。

手順

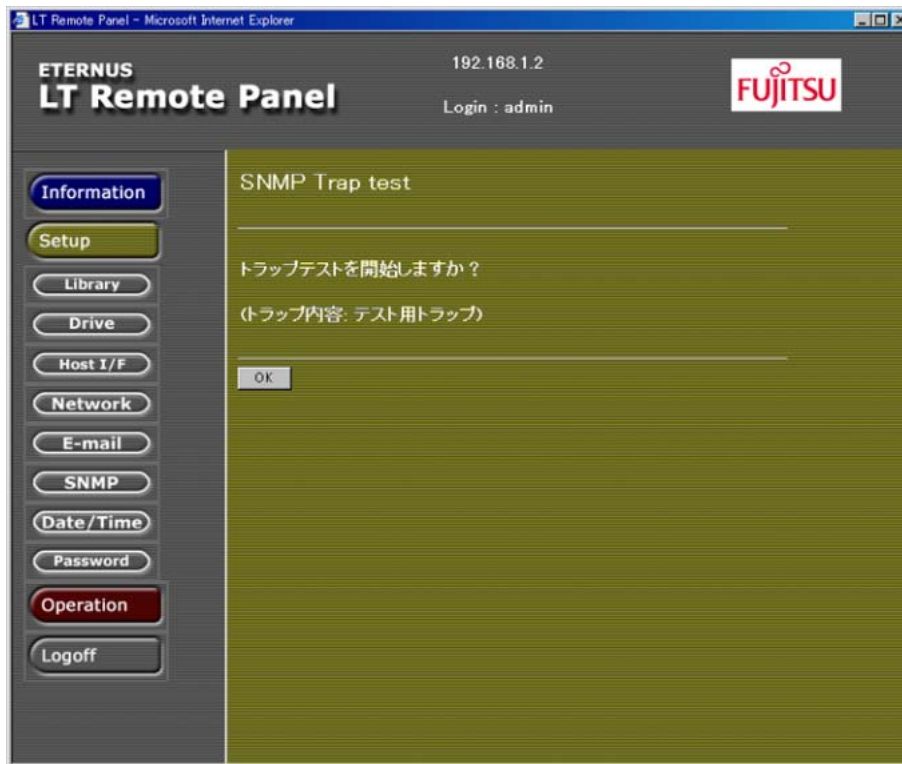
- 1 [Setup] 配下に表示される [SNMP] をクリックすると、以下の画面が表示されません。

図 3.44 SNMP エージェント設定画面（送信テスト）



- 2 [Trap Test] ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。

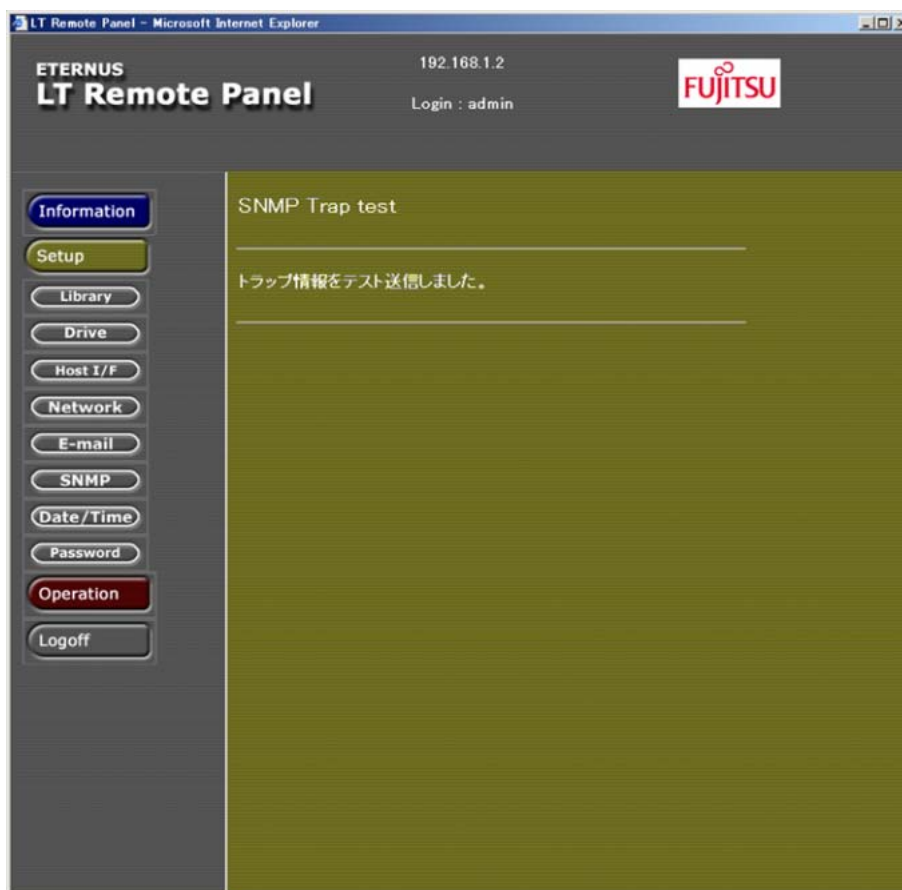
図 3.45 SNMP トラップの送信テスト開始確認画面



- 3 送信を行う場合、[OK] ボタンをクリックします。

- 4 送信が完了した場合、以下の画面が表示されます。送信先 IP の装置にトラップが送信されているか確認してください。

図 3.46 SNMP トラップの送信完了画面



手順ここまで

3.11.9 MIB ファイルのダウンロード

LT270 S2 に登録されている MIB ファイルをダウンロードできます。

手順

- 1 [Setup] 配下に表示される [SNMP] ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。

図 3.47 SNMP トラップ設定画面

ユーザ名	認証	認証方法	認証パスワード	認証パスワード(再入力)	暗号化	暗号化方法
<input type="text"/>	認証あり	SHA	<input type="text"/>	<input type="text"/>	暗号あり	AE

- 2 ウィンドウをスクロールさせ、最下部にある [Download] ボタンをクリックします。

図 3.48 SNMP 設定画面 (ダウンロード)



- 3 ダウンロードするファイルを "MIB File" または "Trap File" から選択し、[OK] ボタンをクリックします。

図 3.49 MIB/Trap ファイルダウンロード画面



- 4 表示されるダイアログに従い、ファイルをダウンロードし、保存してください。

手順ここまで

3.11.10 パスワードの変更

リモートパネルにログインするパスワードの変更について説明します。

手順

- 1 [Setup] 配下に表示される [Password] ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。

図 3.50 パスワード変更画面



- 2 各項目を設定します。

表 3.36 パスワード設定項目

設定項目	説明
ログイン名	パスワードを変更するログイン名を選択します。
現パスワード	現行のパスワード（1～8文字）を入力します。入力可能文字は、半角英小文字、数字および、（ドット）です。
新パスワード	新しいパスワード（1～8文字）を入力します。入力可能文字は、半角英小文字、数字および、（ドット）です。
新パスワード（確認）	新パスワードに入力したものを再度入力します。

- 3** 表示内容に問題がなければ [OK] ボタンをクリックします。変更が完了すると、処理結果画面が表示されます。

● 備考

変更したパスワードはお客様の管理となりますので、忘れないようにしてください。現在のパスワードを忘れてしまった場合は、保守員にご連絡ください。

手順ここまで

3.12 論理ライブラリの設定

論理ライブラリの新規作成、構成変更、および削除の手順について説明します。
操作を行う前に、装置の状態を確認してください。

以下のいずれかの状態でない場合は、設定後の確認画面においてエラーメッセージが表示される場合があります。

- キャビネットの構成
 - 基本キャビネットのみの構成の場合のみ、論理ライブラリを作成できます。
- ライブラリの状態
 - ライブラリが動作していない状態である。
- ドライブの状態
 - 割り当てるドライブはドライブが搭載されている状態である。
 - 新規の割り当てや、割り当て変更するドライブはカートリッジテープが排出されている。
 - 割り当てるドライブにエラーが発生していない。
- アダプターの状態
 - 分割する論理ライブラリ数の FC ロボットパスオプションが装着されている。
 - 割り当てるアダプターにエラーが発生していない。
- CAS の状態
 - CAS を割り当てている論理ライブラリを削除する場合、CAS のカートリッジテープが取り除かれている。

以下に設定項目を示します。

表 3.37 論理ライブラリ設定項目

設定項目	説明
Unique Name	各論理ライブラリを識別するユニーク名です。 入力可能文字は、半角英数字および半角記号 (!"#\$%&'()*+,-./ :;<=>@[]^_`{ }) です。
Assigned Cell(s)	割り当て分割するセル数を設定します。半角数字で入力してください。 ● 備考 将来の拡張を見込んだ最大数で設定してください。
Cell(s)	割り当て分割したセル内の運用セル数を設定します。半角数字で入力してください。
Adapter	論理ライブラリに割り当てるアダプター番号を示します。
Cluster No.	各論理ライブラリに割り当てるクラスタ番号を示します。
Drive(s)	論理ライブラリで実際に運用するドライブ台数を示します。

3.12.1 論理ライブラリの新規作成

論理ライブラリで実際に運用するドライブ台数を示します。

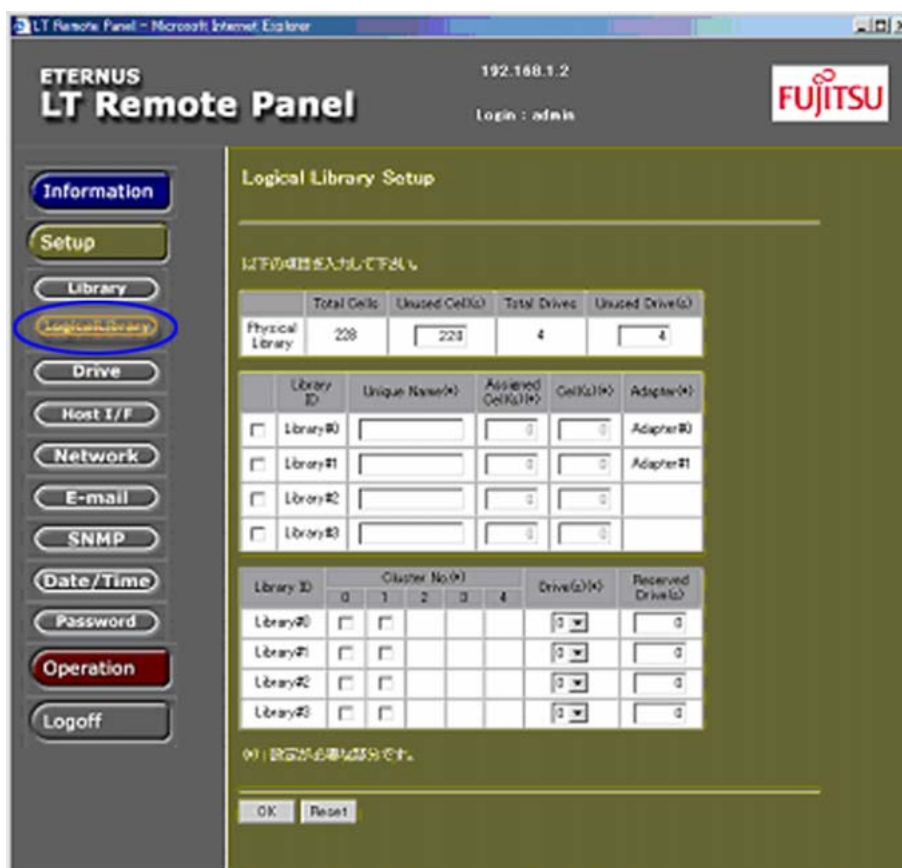
● 備考

- 分割可能な論理ライブラリ数は、搭載されたアダプター数分となります。作成画面でアダプター番号が表示されている論理ライブラリが設定対象となります。
- Setup / Library メニューの Usable Cells が変更されている場合は、この設定を元のセル数に戻す必要があります。設定を以下の値に戻してください。
 - Standard : 114 セル
 - AZ41 増設オプション : 228 セル
 - AZ42 増設オプション : 448 セル
 - AZ43 増設オプション : 579 セル (5 ドライブクラスタ搭載の場合)
 - AZ43 増設オプション : 606 セル (4 ドライブクラスタ搭載の場合)
 - AZ43 増設オプション : 633 セル (3 ドライブクラスタ搭載の場合)
 - AZ43 増設オプション : 660 セル (2 ドライブクラスタ搭載の場合)
 - AZ43 増設オプション : 687 セル (1 ドライブクラスタ搭載の場合)

手順

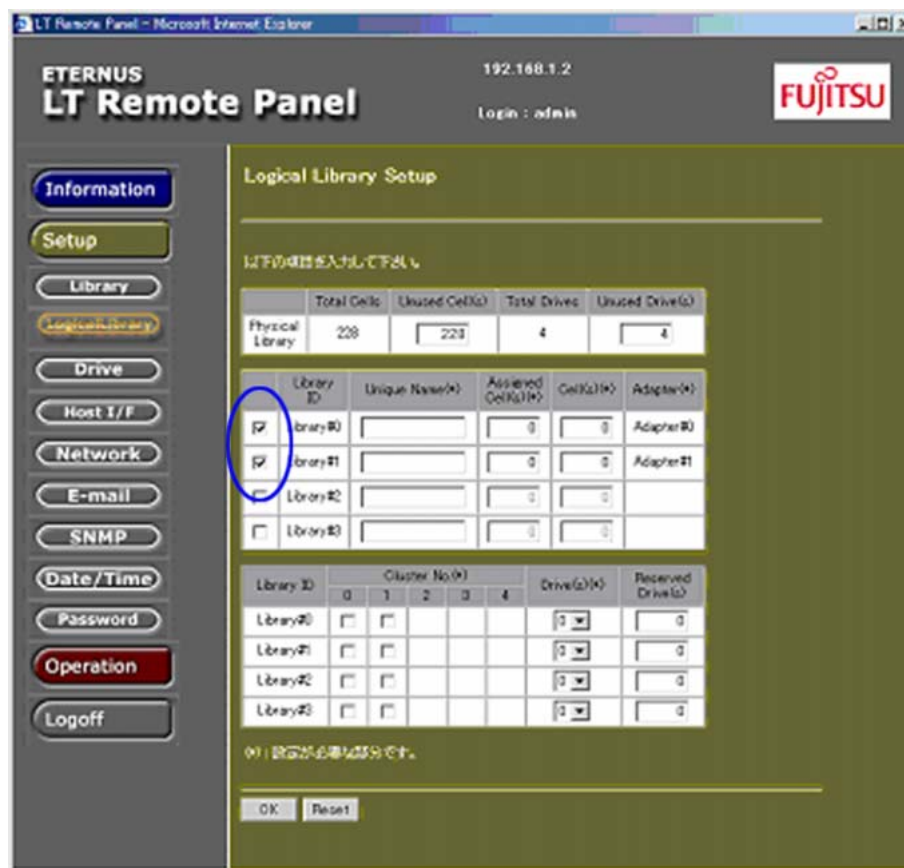
- 1 [Setup] 配下に表示される [Logical Library] ボタンをクリックすると、論理ライブラリの設定画面が表示されます。

図 3.51 論理ライブラリ作成画面



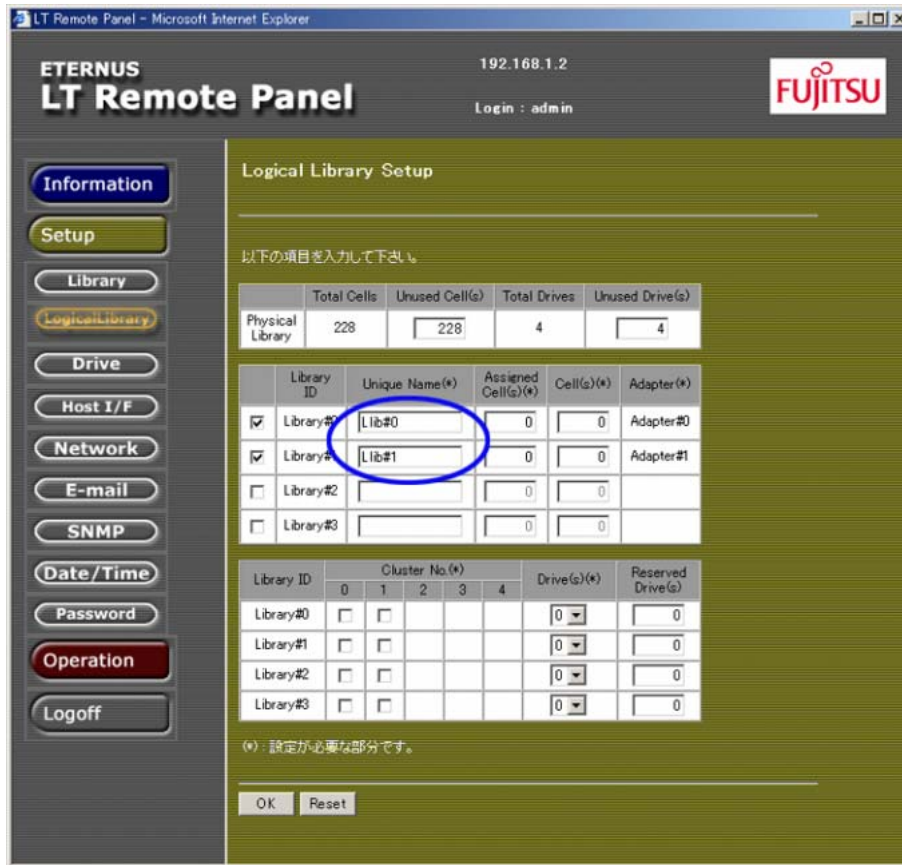
2 作成する論理ライブラリにチェックを入れます。

図 3.52 論理ライブラリ作成画面（対象選択）



3 ユニーク名を入力します。

図 3.53 論理ライブラリ作成画面（ユニーク名指定）



4 割り当て分割するセル数を入力します。

● 備考

セル数を入力すると、Unused Cell(s) の値が自動的に再計算されます。

図 3.54 論理ライブラリ作成画面（分割セル数指定）

ETERNUS LT Remote Panel 192.168.1.2 Login : admin FUJITSU

Information Setup Library Logical Library Drive Host I/F Network E-mail SNMP Date/Time Password Operation Logoff

Logical Library Setup

以下の項目を入力して下さい。

	Total Cells	Unused Cell(s)	Total Drives	Unused Drive(s)
Physical Library	228	0	4	4

	Library ID	Unique Name(*)	Assigned Cell(s)(*)	Cell(s)(*)	Adapter(*)
<input checked="" type="checkbox"/>	Library#0	Lib#0	114	0	Adapter#0
<input checked="" type="checkbox"/>	Library#1	Lib#1	114	0	Adapter#1
<input type="checkbox"/>	Library#2		0	0	
<input type="checkbox"/>	Library#3		0	0	

Library ID	Cluster No.(*)					Drive(s)(*)	Reserved Drive(s)
	0	1	2	3	4		
Library#0	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				0	0
Library#1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				0	0
Library#2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				0	0
Library#3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				0	0

(*) : 設定が必要な部分です。

OK Reset

5 運用セル数を入力します。

▶ 注意

入力したセル数の合計が物理ライブラリの総セル数を超えた場合は、エラーメッセージが表示され、設定値が入力前に戻ります。

図 3.55 論理ライブラリ作成画面（運用セル数指定）

ETERNUS
LT Remote Panel

192.168.1.2
Login : admin

FUJITSU

Information
Setup
Library
Logical Library
Drive
Host I/F
Network
E-mail
SNMP
Date/Time
Password
Operation
Logoff

Logical Library Setup

以下の項目を入力して下さい。

	Total Cells	Unused Cell(s)	Total Drives	Unused Drive(s)
Physical Library	228	0	4	4

	Library ID	Unique Name(*)	Assigned Cell(s)(*)	Cell(s)(*)	Adapter(*)
<input checked="" type="checkbox"/>	Library#0	Lib#0	114	114	Adapter#0
<input checked="" type="checkbox"/>	Library#1	Lib#1	114	114	Adapter#1
<input type="checkbox"/>	Library#2		0	0	
<input type="checkbox"/>	Library#3		0	0	

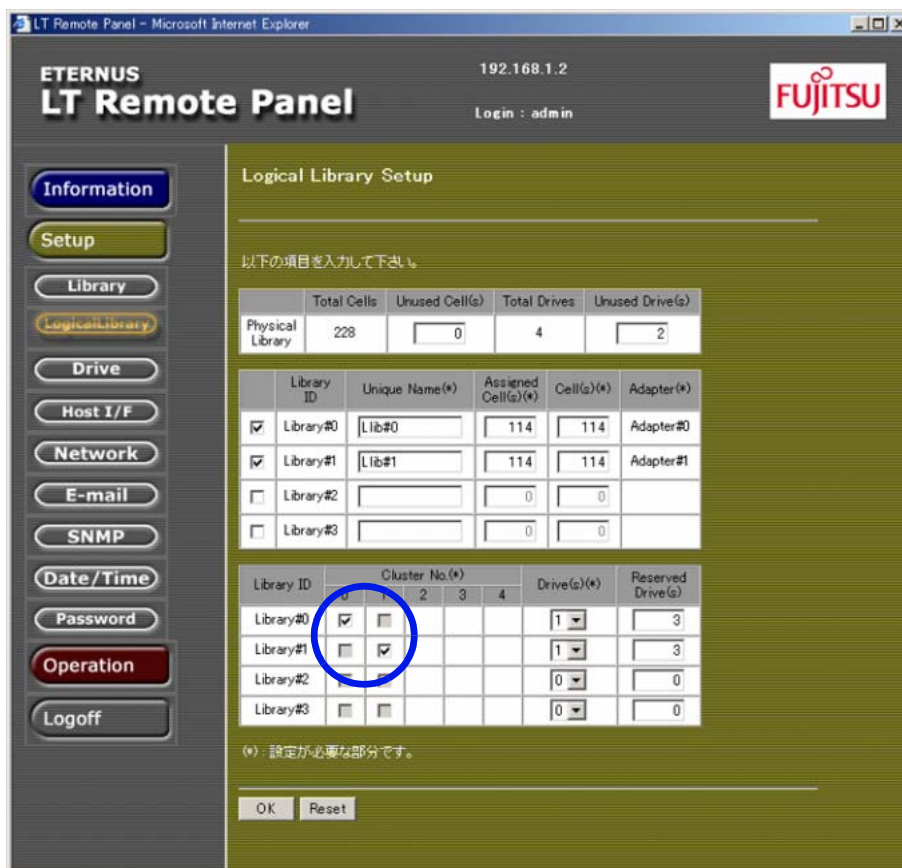
Library ID	Cluster No.(*)					Drive(s)(*)	Reserved Drive(s)
	0	1	2	3	4		
Library#0	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				0	0
Library#1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				0	0
Library#2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				0	0
Library#3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				0	0

(*) : 設定が必要な部分です。

OK Reset

6 各論理ライブラリに割り当てるクラスタ番号をチェックします。

図 3.56 論理ライブラリ作成画面（クラスタ番号指定）

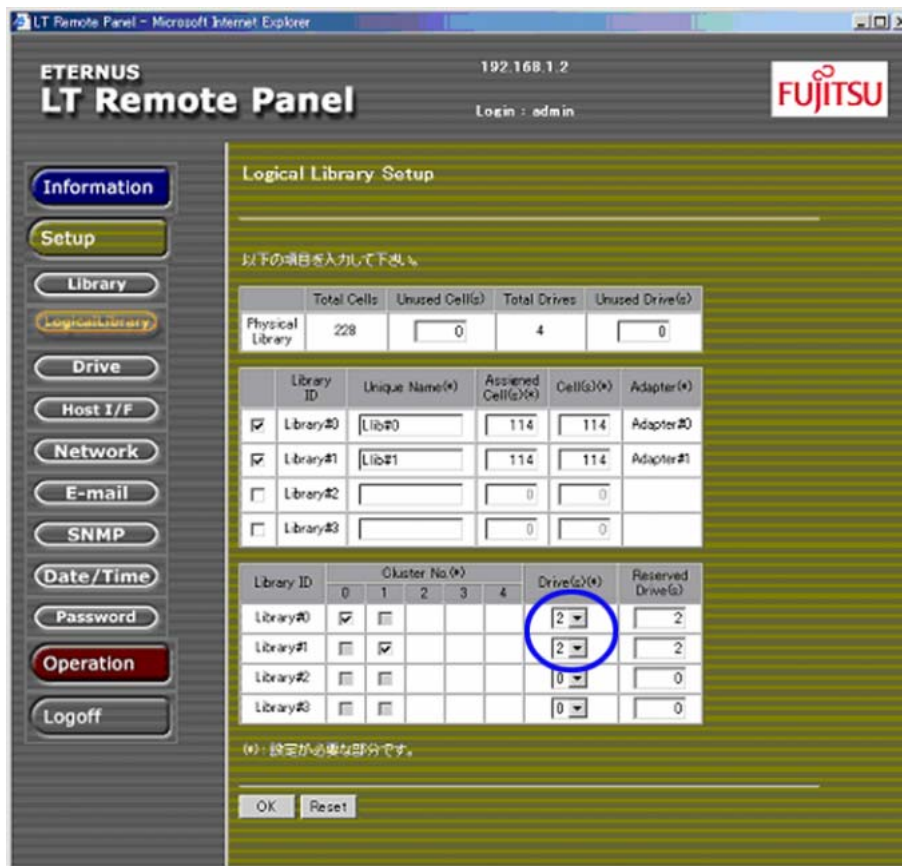


7 割り当てるドライブ台数を選択します。

● 備考

ドライブ台数を入力すると、Unused Drive(s) と Reserved Drive(s) の値が自動的に再計算されます。

図 3.57 論理ライブラリ作成画面（ドライブ台数指定）



- 8** [OK] ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。入力値や装置の構成が前述の条件を満たしていない場合は、エラーメッセージが表示されます。
- 9** 確認後、[OK] ボタンをクリックすると、論理ライブラリの作成が行われます。
- 10** 設定が完了すると、装置が自動的に再起動されます。

手順ここまで

3.12.2 論理ライブラリの構成変更

作成されている論理ライブラリの構成を変更する方法について説明します。

手順

- 1 [Setup] 配下に表示される [Logical Library] ボタンをクリックすると、論理ライブラリ設定画面が表示されます。すでに作成されている設定値が表示されます。

図 3.58 論理ライブラリ構成変更画面

ETERNUS LT Remote Panel 192.168.1.2 Login: admin FUJITSU

Information
Setup
Library
Logical Library
Drive
Host I/F
Network
E-mail
SNMP
Date/Time
Password
Operation
Logoff

Logical Library Setup

以下の項目を入力して下さい。

	Total Cells	Unused Cell(s)	Total Drives	Unused Drive(s)
Physical Library	228	0	4	2

	Library ID	Unique Name(*)	Assigned Cell(s)(*)	Cell(s)(*)	Adapter(*)
<input checked="" type="checkbox"/>	Library#0	Lib#0	114	114	Adapter#0
<input checked="" type="checkbox"/>	Library#1	Lib#1	114	114	Adapter#1
<input type="checkbox"/>	Library#2		0	0	
<input type="checkbox"/>	Library#3		0	0	

Library ID	Cluster No.(*)					Drive(s)(*)	Reserved Drive(s)
	0	1	2	3	4		
Library#0	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				1	3
Library#1	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>				1	3
Library#2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				0	0
Library#3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				0	0

(*) : 設定が必要な部分です。

OK Reset

- 2 ユニーク名、割り当てセル数、運用セル数、アダプター番号、クラスタ番号、ドライブ台数の入力値を変更します。
- 3 [OK] ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。
- 4 確認後、[OK] ボタンをクリックすると、論理ライブラリの構成変更が行われます。
- 5 設定が完了すると、装置が自動的に再起動されます。

手順ここまで

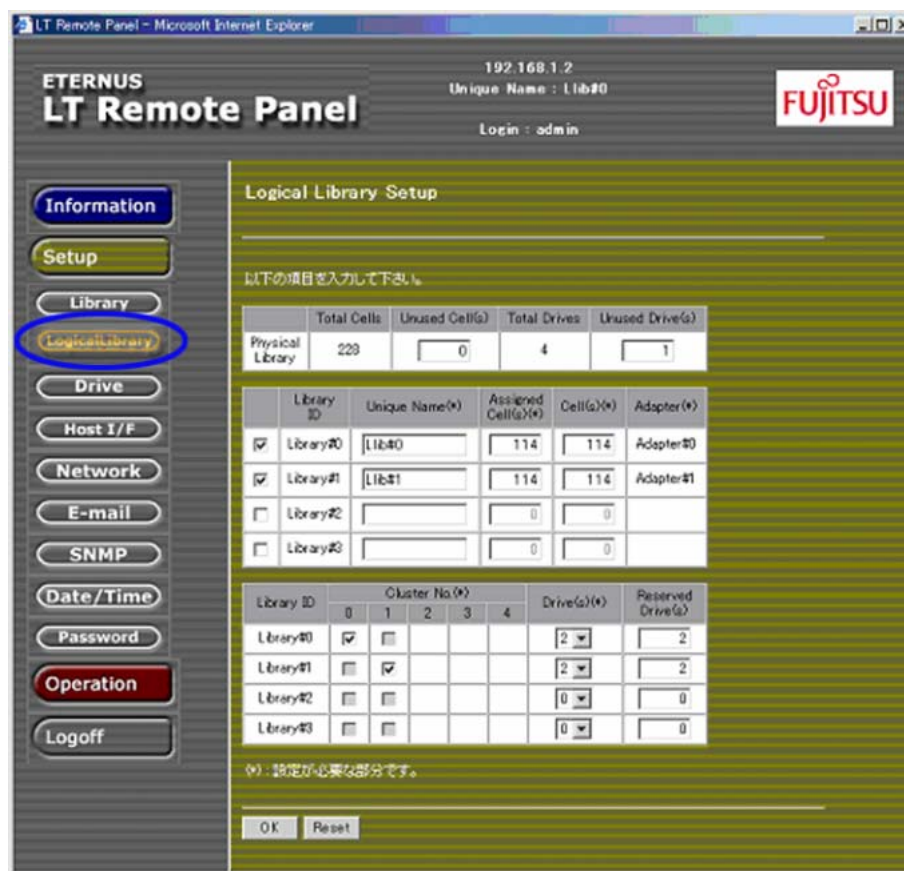
3.12.3 論理ライブラリの削除

論理ライブラリをすべて削除し、物理ライブラリ構成に戻す方法について説明します。

手順

- 1 [Setup] 配下に表示される [Logical Library] ボタンをクリックすると、論理ライブラリの設定画面が表示されます。

図 3.59 論理ライブラリ全削除画面

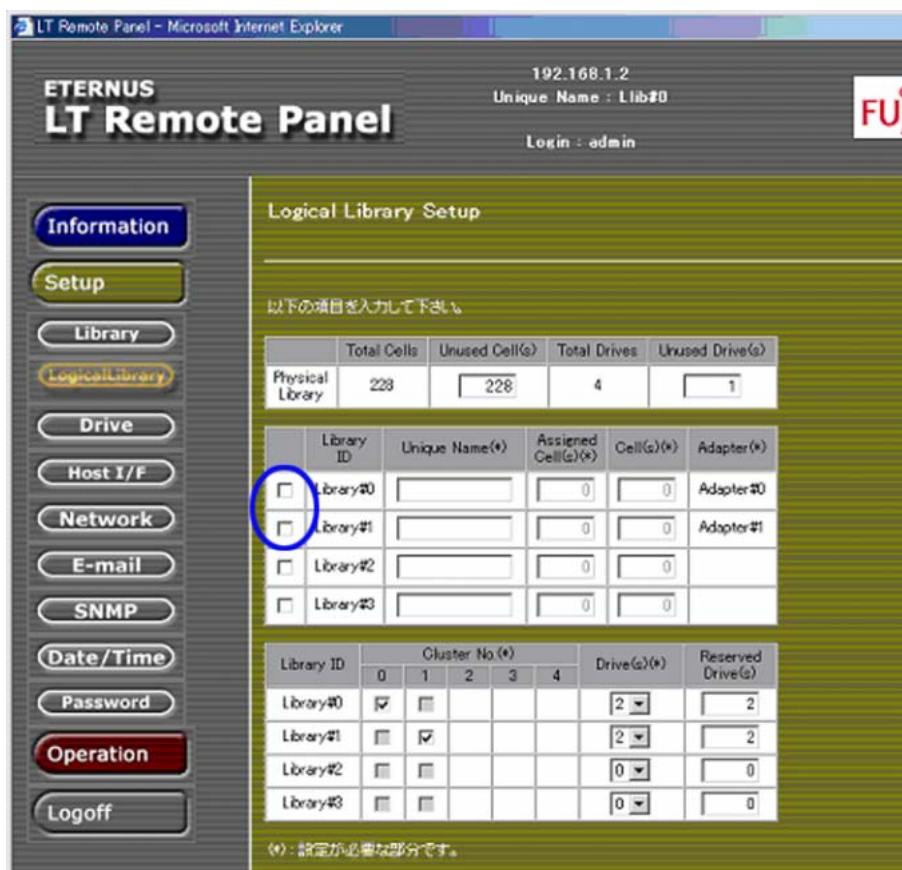


2 各論理ライブラリのチェックをすべて外してください。

● 備考

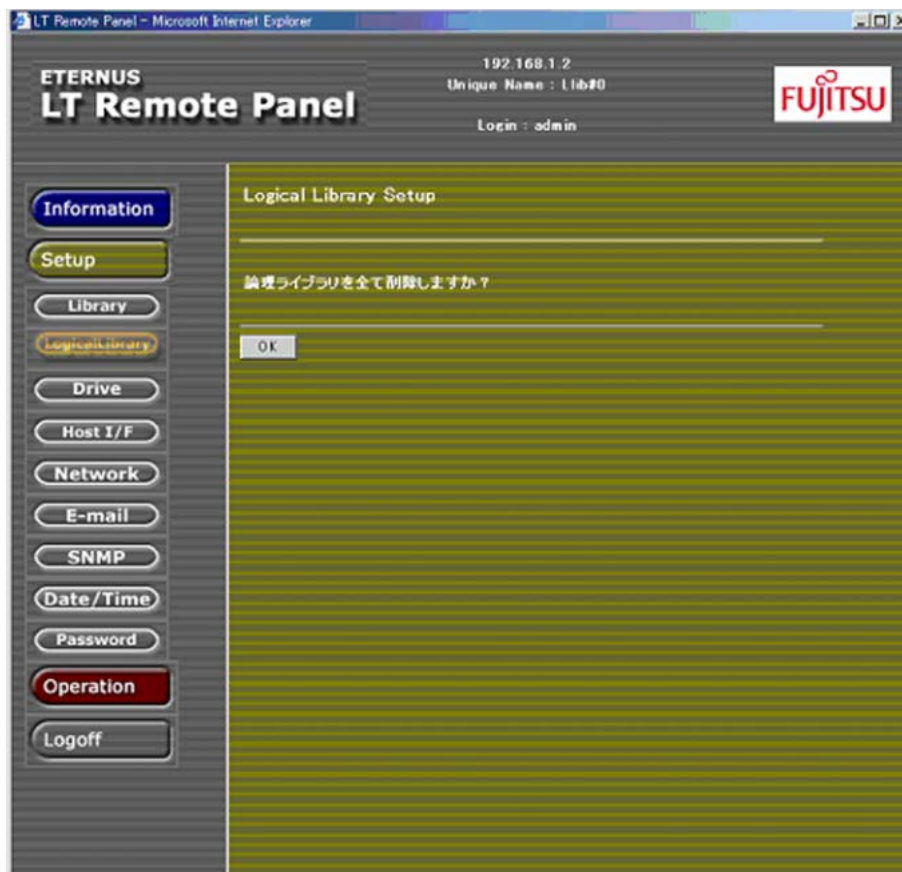
チェックを外すと、入力されていた内容がクリアされます。

図 3.60 論理ライブラリ全削除画面（対象選択）



- 3 [OK] ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。

図 3.61 論理ライブラリ全削除画面（確認画面）



- 4 確認後、[OK] ボタンをクリックすると、論理ライブラリがすべて削除されます。
5 処理が完了すると、装置は自動的に物理ライブラリ構成で再起動されます。

手順ここまで

3.13 ライブラリの操作

ライブラリの操作を行うには、メニューフレームの [Operation] ボタンをクリックします。

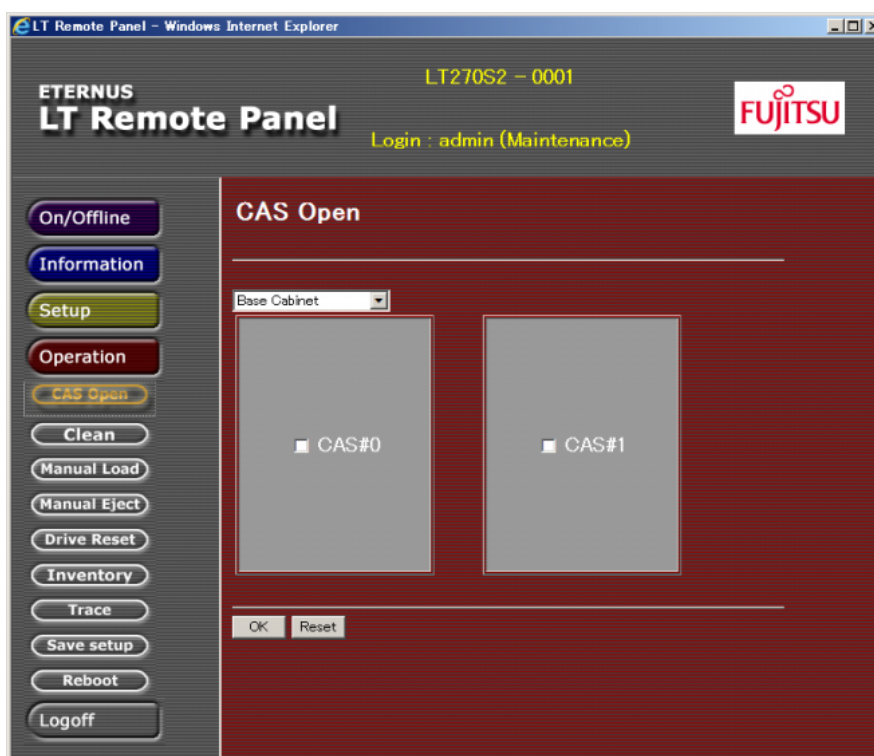
3.13.1 CAS 扉のオープン

CAS のマガジン投入口の扉を開ける方法を説明します。マガジンを投入し扉を閉めると、ライブラリは自動的にインベントリ動作を行い、投入されたカートリッジテープの情報を取り込みます。

手順

- 1 [Operation] 配下に表示される [CAS Open] ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。

図 3.62 CAS Open 画面



- 2 プルダウンメニューを操作して、キャビネットを選択します。

● 備考

CAS が User Cell / CAS door is open / In Use / CAS Prevent 状態となっているキャビネットは、選択できません。

- 3 扉を開けたい CAS を選択すると、確認画面が表示されます。
表示内容に問題がなければ [OK] ボタンをクリックしてください。

手順ここまで

3.13.2 マニュアルクリーニング

ライブラリは、ドライブごとに、クリーニングカートリッジを収納する専用セルを装備しています。マニュアルでドライブをクリーニングするときは、このクリーニングカートリッジを使用できます。

● 備考

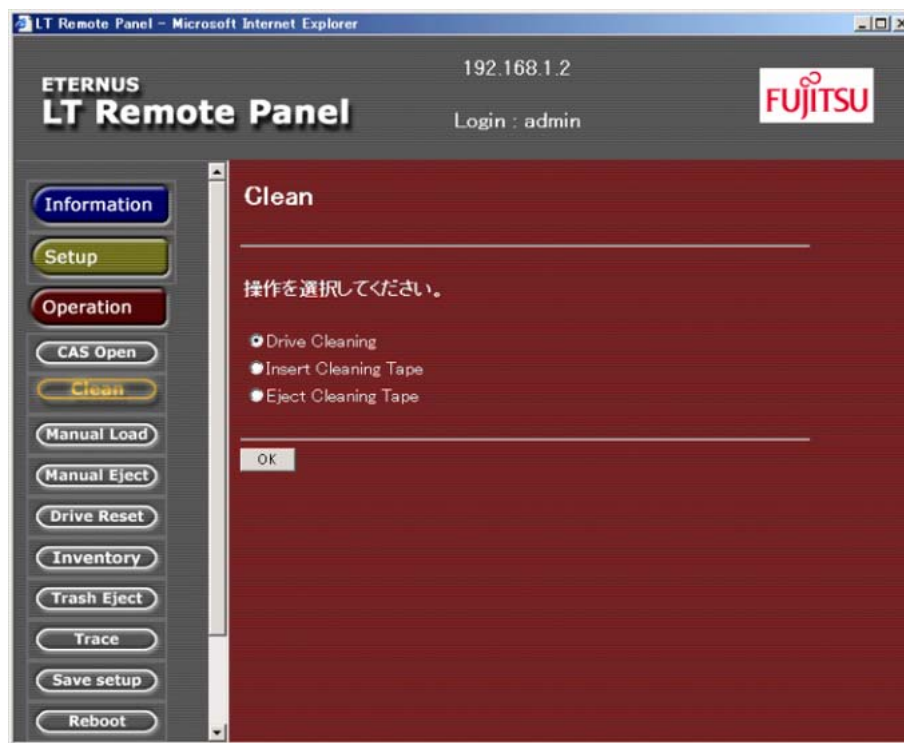
- クリーニングしたいドライブのクリーニングセルにクリーニングカートリッジが格納されていない場合や、格納されているすべてのクリーニングカートリッジが使用限度回数に達している場合、またはエラー状態である場合、クリーニングは行えません。オペレーターパネルからクリーニングカートリッジの新規投入または交換を行ってください（[「2.13 クリーニングカートリッジの投入／排出」\(P.64\)](#)を参照してください）。
- クリーニング中、ドライブは Offline 状態となります。クリーニング終了後、自動的に Online 状態となります。

マニュアルクリーニングの方法を説明します。

手順

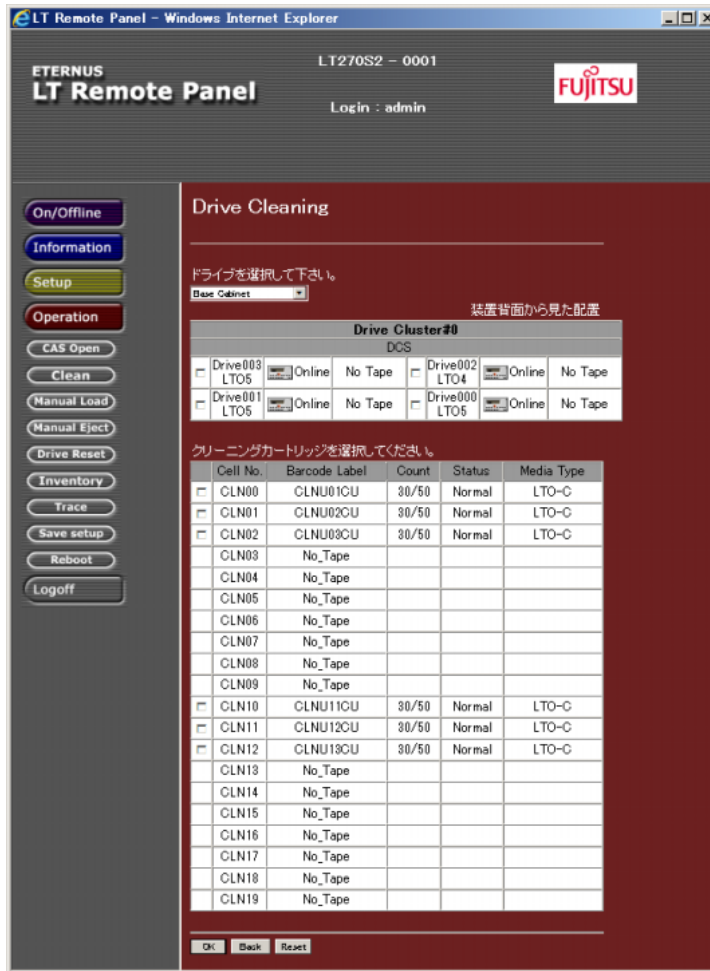
- 1 [Operation] 配下に表示される [Clean] ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。

図 3.63 Clean メニュー画面



- 2 Cleanメニュー画面から [Drive Cleaning] を選択すると、ドライブとクリーニングカートリッジの選択画面が表示されます。

図 3.64 ドライブ／クリーニングカートリッジ選択画面



表示対象となるドライブは以下のとおりです。

- ドライブからクリーニング要求が報告されている状態 (Required Clean の表示)
- ドライブのクリーニングが必要な状態 (Need Clean の表示)
- ドライブにカートリッジが投入されていない状態 (No_Tape の表示)

- 3 プルダウンメニューを操作して、対象のキャビネットを選択します。
選択したキャビネットのドライブやクリーニングカートリッジの情報が表示されます。
- 4 クリーニングを行うドライブをチェックして [OK] ボタンをクリックします。指定できるドライブは1つです。
- 5 確認画面に選択したドライブが表示されます。
表示内容に問題がなければ [OK] ボタンをクリックします。再度選択する場合は [Back] ボタンをクリックしてください。

- 6** 処理が完了すると、処理結果の画面が表示されます。これでマニュアルクリーニング処理の終了です。

手順ここまで

3.13.3 クリーニングカートリッジの投入／排出

クリーニングカートリッジの投入／排出方法について説明します。

● 備考

- クリーニングカートリッジは、使用できる回数が制限されています。クリーニングセルにあるクリーニングカートリッジが使用回数に達した場合、そのクリーニングテープは使用できなくなります。使用できないクリーニングカートリッジを排出し、新しいクリーニングカートリッジと交換してください。
- バックアップソフトウェアからライブラリを使用中に投入や排出操作を行うと、ライブラリが稼働中である旨のメッセージが表示されます。ライブラリが使用されていない状態で、再度操作を行ってください。
- クリーニングセルは、ライブラリの下ロボット専用／上ロボット専用エリアが分かれています。下／上エリアとも、必ず最低 1 巻以上のクリーニングカートリッジを投入してください。

■ クリーニングカートリッジの投入

クリーニングカートリッジは、CAS からクリーニングセルに投入します。

● 備考

- クリーニングセルに空きがない場合、この操作は行えません。
- 投入できないクリーニングカートリッジを検出すると、操作結果画面に Media Error が表示されます。CAS の MAP を参照し、クリーニングカートリッジの状態を確認してください。

手順

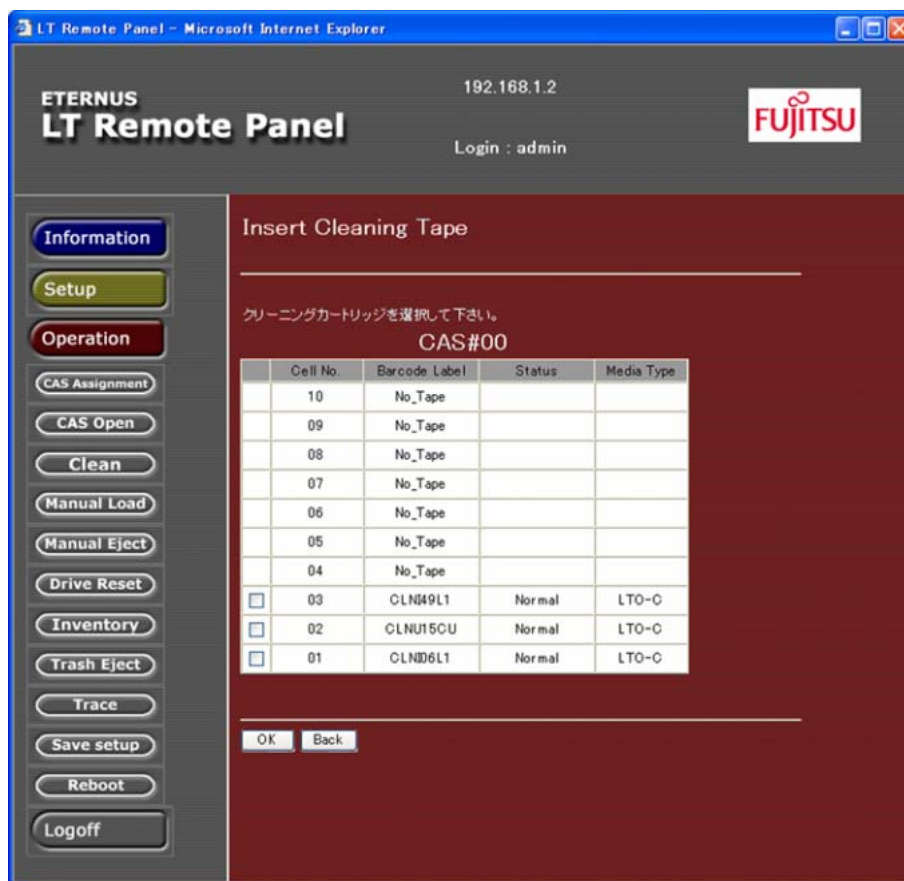
- 1 [Operation] 配下に表示される [Clean] ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。

図 3.65 Clean メニュー画面



- 2 [Insert Cleaning Tape] を選択すると、クリーニングカートリッジ選択画面が表示されます。

図 3.66 クリーニングカートリッジ選択画面



- 3 クリーニングカートリッジが投入されている CAS のセルマップが表示されます。FROM 側のプルダウンメニューを操作すると、選択されたキャビネットの CAS セルマップに表示が切り替わります。クリーニングセルに投入するクリーニングカートリッジをチェックします。
- 4 T0 側のプルダウンメニューを操作して、投入先のキャビネットを選択します。
- 5 [OK] ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。表示内容に問題がなければ [OK] ボタンをクリックします。
- 6 画面上に処理中メッセージが表示されます。別ウィンドウの進捗画面には投入するクリーニングカートリッジ数と投入が完了したクリーニングカートリッジ数が表示されます。
- 7 終了メッセージが表示されると、クリーニングカートリッジの投入は完了です。

手順ここまで

■ クリーニングカートリッジの排出

クリーニングセル内のクリーニングカートリッジは CAS に排出します。

手順

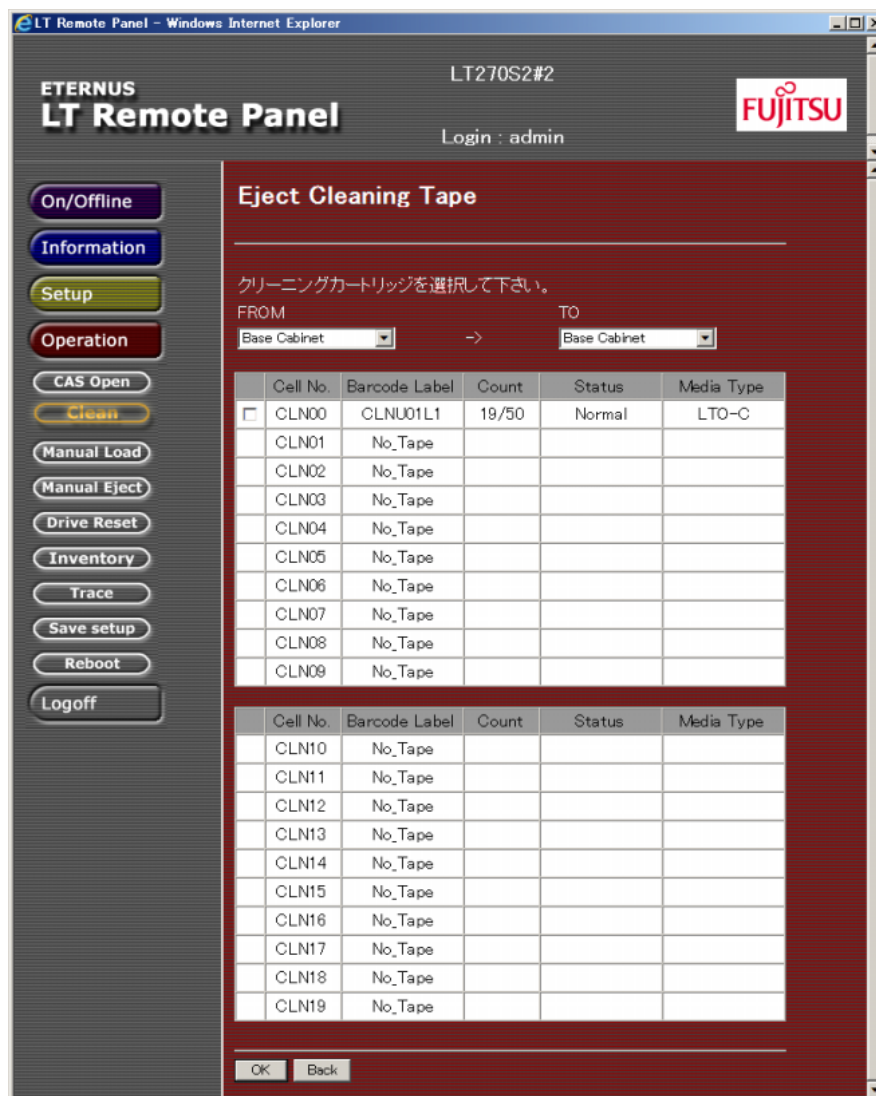
- 1 [Operation] 配下に表示される [Clean] ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。

図 3.67 Clean メニュー画面



2 [Eject Cleaning Tape] を選択すると以下の画面が表示されます。

図 3.68 クリーニングカートリッジ選択画面



- 3 FROM 側のプルダウンメニューを操作すると、選択されたキャビネットの CAS セルマップに表示が切り替わります。各クリーニングカートリッジのラベル名 (Barcode Label)、使用した回数/使用可能回数 (Count)、状態 (Status)、カートリッジテープタイプ (Media Type) が表示されます。取り出したいクリーニングセルのクリーニングカートリッジを指定します。
- 4 TO 側のプルダウンメニューを操作して、排出先のキャビネットを選択します。

● 備考

CAS が User Cell に設定されているキャビネットは選択できません。

- 5 [OK] ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。
表示内容に問題がなければ [OK] ボタンをクリックしてください。
- 6 画面上に処理中メッセージが表示されます。別ウィンドウの進捗画面には排出するクリーニングカートリッジ数と排出が完了したクリーニングカートリッジ数が表示されます。
- 7 終了メッセージが表示されると、クリーニングカートリッジの排出は完了です。

手順ここまで

3.13.4 カートリッジテープのロード

CAS 内のカートリッジテープをドライブにロードする方法を説明します。

手順

- 1 [Operation] 配下に表示される [Manual Load] ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。

図 3.69 CAS 選択画面



- 2 使用するキャビネットを CAS を選択します。

- 3 指定されたCASのセルマップが表示されます。投入したいカートリッジテープを選択します。
- 4 ロード先のドライブを選択します。プルダウンメニューを操作すると、選択されたキャビネットのドライブ一覧に表示が切り替わります。
- 5 [OK] ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。表示内容に問題がなければ [OK] ボタンをクリックします。選択したカートリッジテープとドライブの数が異なる場合、エラーメッセージがポップアップ画面に表示されます。
- 6 画面上に処理中メッセージが表示されます。別ウィンドウの進捗画面にはロードするドライブ数とロードが完了したドライブ数が表示されます。
- 7 終了メッセージが表示されると、指定されたドライブへのロードは完了です。

手順ここまで

3.13.5 カートリッジテープのイジェクト

ドライブにロードされているカートリッジテープをホームセルに排出（イジェクト）する方法を説明します。

● 備考

この操作を行うと、ドライブは一時的に非活性（Offline）状態となります。イジェクト操作が終了すると自動的に活性（Online）状態に戻ります。

イジェクトの対象は以下のドライブです。

- CAS からロードされたドライブ
- ホストからロードされたドライブ

● 備考

- 通常データのバックアップが完了したカートリッジテープはバックアップソフトウェアがホームセルに排出します。ホストがダウンしたときなど、何らかの理由でホストから制御できなくなった場合は、本操作でカートリッジテープを排出してください。
- バックアップソフトウェアからライブラリを使用中にイジェクト操作を行うと、ライブラリが稼働中である旨のメッセージが表示されます。ライブラリが使用されていない状態で、再度操作を行ってください。

手順

- 1 [Operation] 配下に表示される [Manual Eject] ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。

図 3.70 ドライブ選択画面



- 2 排出するドライブを選択します。プルダウンメニューを操作すると、選択されたキャビネットのドライブが表示されます。
- 3 [OK] ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。表示内容に問題がなければ [OK] ボタンをクリックします。
- 4 画面上に処理中メッセージが表示されます。別ウィンドウの進捗画面には排出するドライブ数と排出が完了したドライブ数が表示されます。
- 5 終了メッセージが表示されると、指定されたドライブの排出は完了です。

手順ここまで

3.13.6 ドライブハードウェアエラーの解除

ドライブでハードウェアエラーが発生した場合に復旧操作を行う方法を説明します。

● 備考

- ドライブエラーの復旧中は、そのドライブだけが非活性状態となります。復旧が完了するまでバックアップソフトウェアからそのドライブを使用することはできません。完了してから使用してください。
- ドライブにもエラー状態でバックアップソフトウェアからライブラリを使用中に復旧操作を行うと、ライブラリが稼働中である旨のメッセージが表示されます。ライブラリが使用されていない状態で、再度操作を行ってください。

ドライブでハードウェアエラーが発生すると、Status 画面にエラーコードが表示されます。

手順

- 1 [Operation] 配下に表示される [Drive Reset] ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。

図 3.71 Drive Reset 画面



- 2** ドライブハードウェアエラーの解除はキャビネット単位に実行されます。プルダウンメニューを操作して、目的のキャビネットを選択します。

● 備考

- ドライブハードウェアエラー状態でないキャビネットは、プルダウンメニューで選択できません。
- 基本キャビネットのみの構成の場合、プルダウンメニューは表示されません。

- 3** [OK] ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。
表示内容に問題がなければ [OK] ボタンをクリックしてください。
- 4** 画面上に処理中メッセージが表示され、発生しているすべてのエラーについて復旧を試みます。別ウィンドウの進捗画面にはエラー解除を行うドライブ数とエラー解除が完了したドライブ数が表示されます。
- 5** 終了メッセージが表示されると、復旧操作は完了です。

手順ここまで

3.13.7 インベントリ

一般セルや CAS セルのカートリッジテープ管理情報を更新します。

● 備考

- インベントリ中、ライブラリは非活性（Offline）状態となります。
- ライブラリの電源投入時にオートインベントリ機能が無効に設定されていると、自動インベントリは行われません。カートリッジテープの交換や位置変更を行った場合は、必ずオペレーターパネルの Inventory 操作でインベントリを行い、ライブラリのカートリッジテープ管理情報を更新してください。
- バックアップソフトウェアからライブラリを使用中にインベントリ操作を行うと、ライブラリが稼働中である旨のメッセージが表示されます。ライブラリが使用されていない状態で、再度操作を行ってください。

手順

- 1 [Operation] 配下に表示される [Inventory] ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。

図 3.72 Inventory 画面



- 2 インベントリ処理はキャビネット単位に実行されます。プルダウンメニューを操作して目的のキャビネットを選択します。

● 備考

基本キャビネットのみの構成の場合、プルダウンメニューは表示されません。

- 3 [OK] ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。表示内容に問題がなければ [OK] ボタンをクリックしてください。
- 4 インベントリ処理が完了すると、終了メッセージが表示されます。また、オペレーターパネルに Invalid CELL Information 画面が表示されているときは、セルに許可しないカートリッジテープが存在しています。内容を確認のうえ、カートリッジテープを取り除いてください。

● 備考

許可しないカートリッジテープについては、『FUJITSU Storage ETERNUS LT270 S2 テープライブラリ ユーザーズガイド 導入／運用編』の「3.4.2 カートリッジテープを排出する」を参照してください。

手順ここまで

3.13.8 トレースファイルの操作

ライブラリやドライブでハードウェアエラーが発生すると、自動的にトレース情報が別ファイルに格納されます。トレースファイルの操作では、現在トレースしているファイルを停止し、新しいファイルへの移行を行います。ホストからライブラリやドライブが認識されない、またはアクセスできない場合は、この操作を行い、トレース情報を強制的に格納させてください。

手順

- 1 [Operation] 配下に表示される [Trace] ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。

図 3.73 トレースファイル操作画面



- 2 トレースを格納する場合、[OK] ボタンをクリックします。
- 3 確認画面が表示されます。
表示内容に問題がなければ [OK] ボタンをクリックします。
- 4 処理が終了すると、処理結果の画面が表示されます。

手順ここまで

3.13.9 ライブラリ／ドライブ設定情報の保存

ライブラリやドライブの現在の設定情報をテキスト形式でファイルに保存し、設定情報の一覧を参照できます。

手順

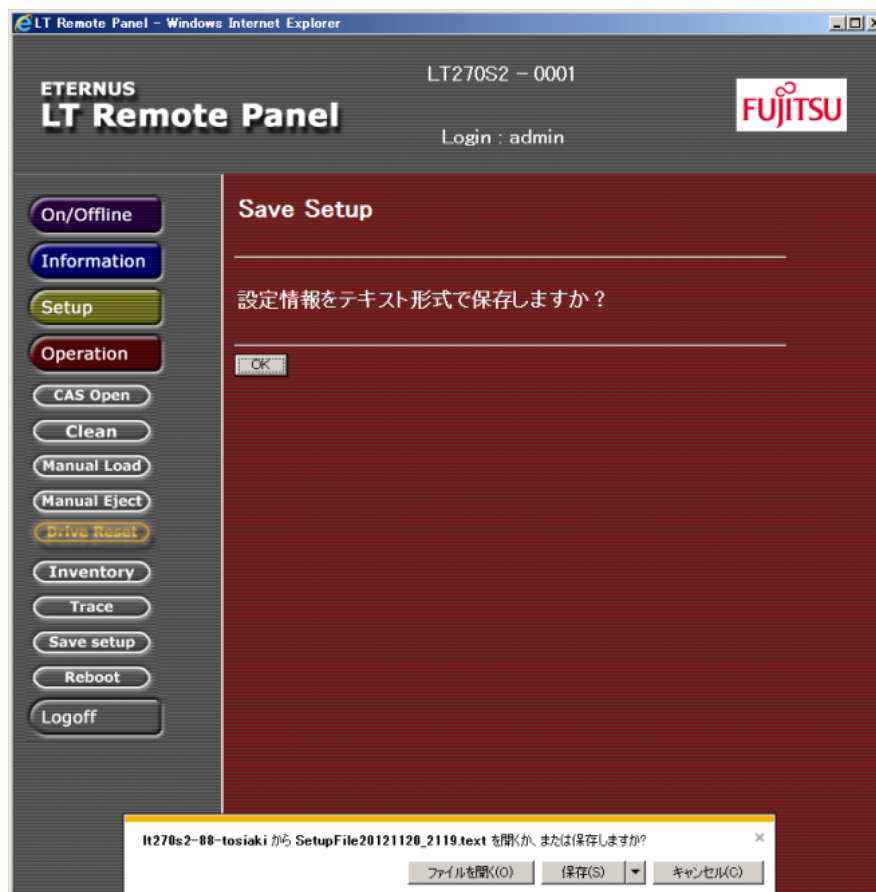
- 1 [Operation] 配下に表示される [Save setup] ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。

図 3.74 ライブラリ／ドライブ設定情報保存方法の選択



- 2 [OK] ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。

図 3.75 ライブラリ/ドライブ設定情報ダウンロードの確認



▶ 注意

ダイアログの表示は Web ブラウザの版数および種類により異なることがあります。

- 3 表示されたダイアログの [保存] をクリックします。
- 4 ダウンロード先のディレクトリを指定し、保存するファイル名を入力します。

- 5 ダウンロードが開始され、以下の画面が表示されるとダウンロードは完了です。

図 3.76 ライブラリ／ドライブ設定情報完了



● 備考

上記の画面は Web ブラウザの設定、版数、および種類により表示されない場合があります。

手順ここまで

3.13.10 ライブラリ／ドライブのリポート

ライブラリ、およびドライブ装置のリポートを、リモートパネルから行う方法を説明します。

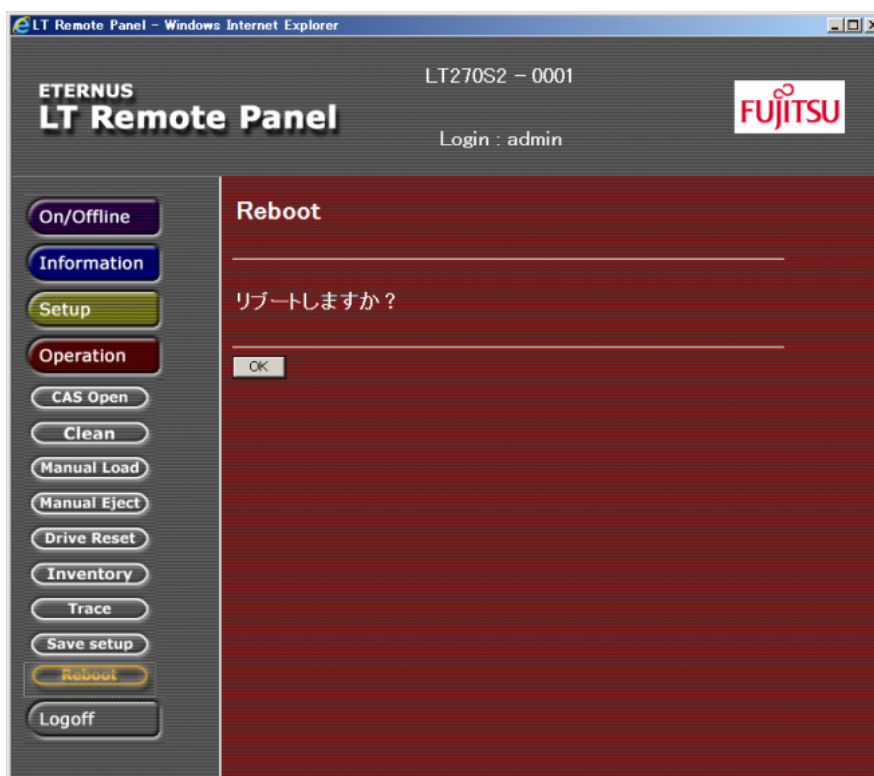
注意

リポートをする前に、すべてのキャビネットをオフラインにしておく必要があります。

手順

- 1 [Operation] 配下に表示される [Reboot] ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。

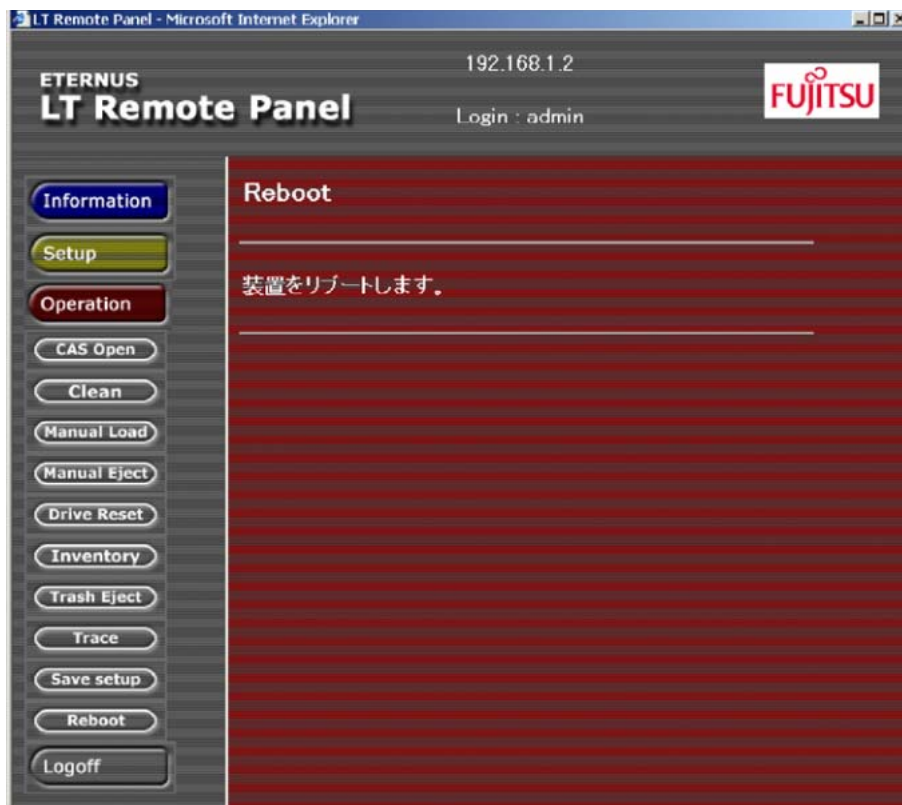
図 3.77 Reboot 確認画面



- 2 装置のリポートを行う場合、[OK] ボタンをクリックします。

- 3 以下の画面が表示され、ライブラリとドライブ装置がリブートを開始します。

図 3.78 Reboot 実行画面



- 4 リブートが開始されると、Web ブラウザの接続が切断されます。再度リモートパネルを使用する場合は、再接続してください。

手順ここまで

3.14 ライブラリのトレース／ログのダウンロード

ライブラリのトレース／ログのダウンロードを行うには、メニューフレームの [Support] ボタンをクリックします。

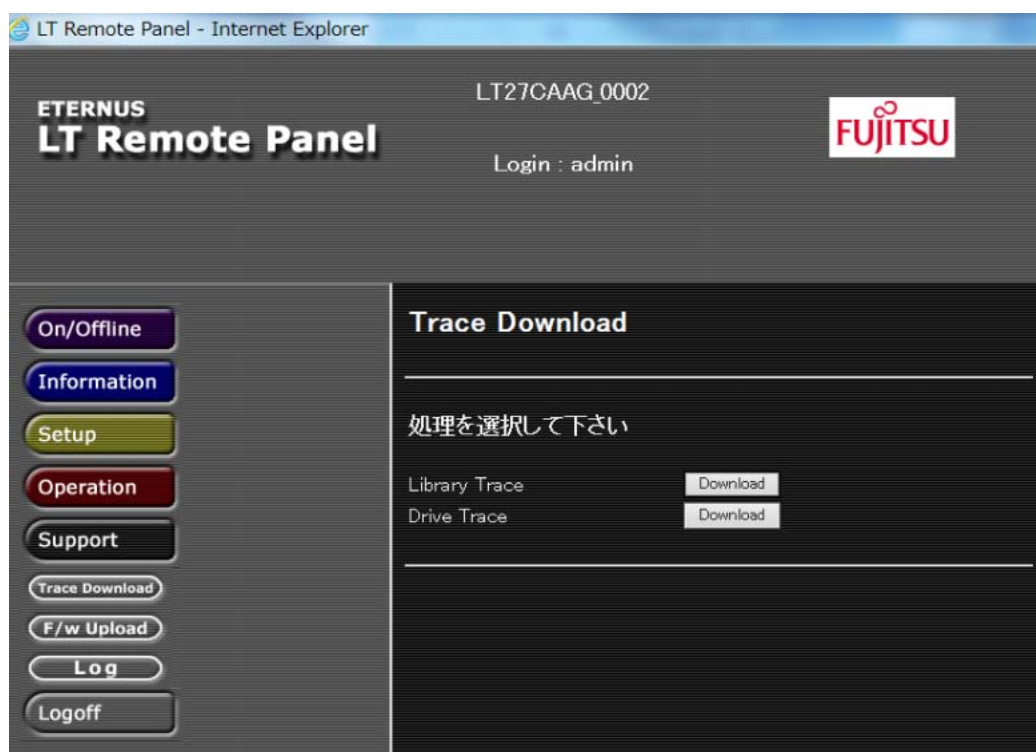
● 備考

本機能は、V30L11 以降で使用できます。

3.14.1 トレースのダウンロード

[Support] 配下に表示される [Trace Download] ボタンをクリックすると、ダウンロードするトレースを選択する画面が表示されます。

図 3.79 トレースの種類を選択する画面

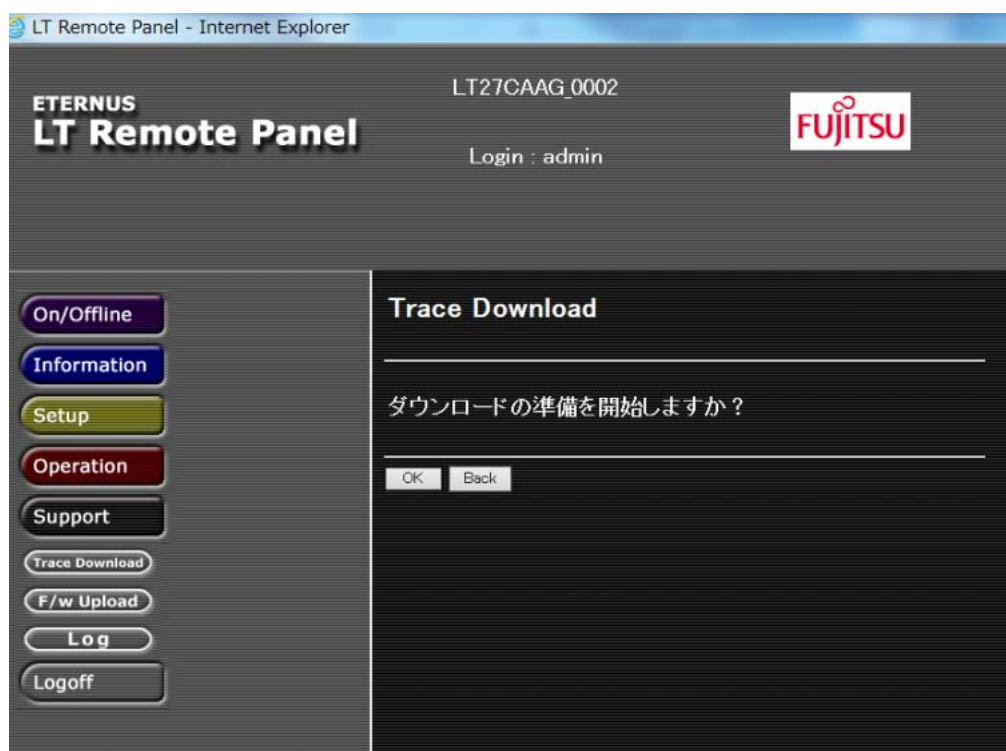


3.14.1.1 ライブラリトレースのダウンロード

手順

- 1 ライブラリトレースは、Library Trace 横の [Download] ボタンをクリックするとダウンロード準備開始画面が表示されるので、[OK] ボタンをクリックします。

図 3.80 ライブラリトレース準備画面



ダウンロードの準備が開始されます。

- 2** 準備が完了すると、画面に「ダウンロードを開始しますか？」と表示されるので、再度 [OK] ボタンをクリックします。
画面下部にダウンロードの通知バーが表示されるので、トレースを任意の場所に保存します。

図 3.81 ライブラリトレースのダウンロード開始画面



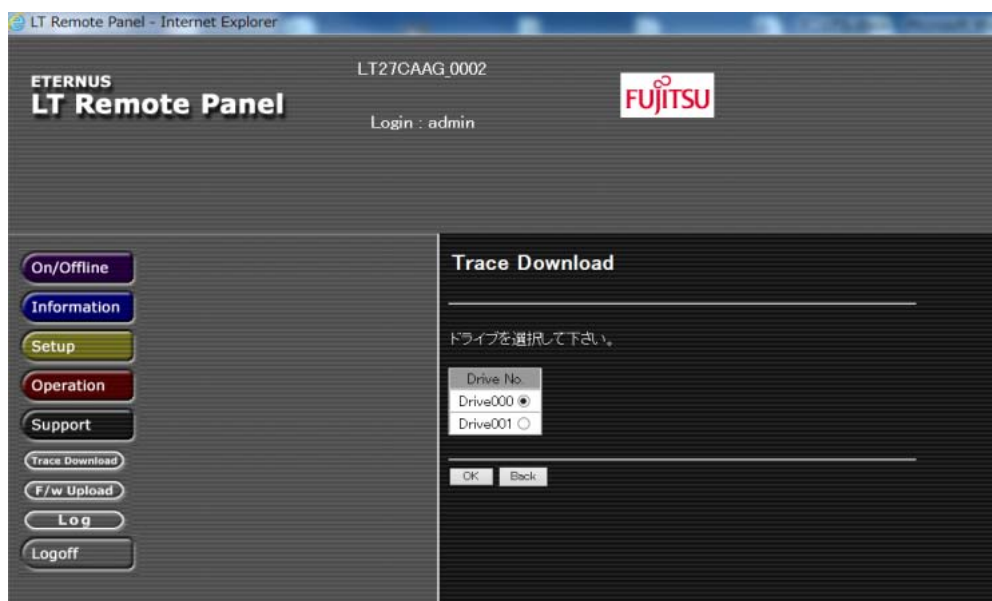
手順ここまで

3.14.1.2 ドライブトレースのダウンロード

手順

- 1 ドライブトレースは、Drive Trace 横の [Download] ボタンをクリックするとトレースを採取するドライブを選択する画面が表示されるので、ドライブを選択して [OK] ボタンをクリックします。

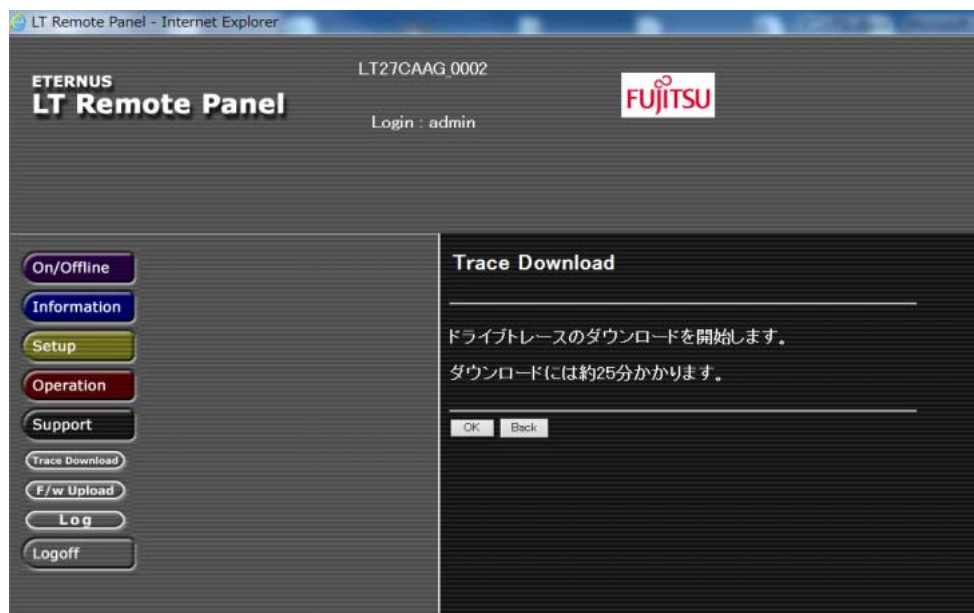
図 3.82 トレースをダウンロードするドライブを選択する画面



ドライブトレースのダウンロード確認画面が表示されます。

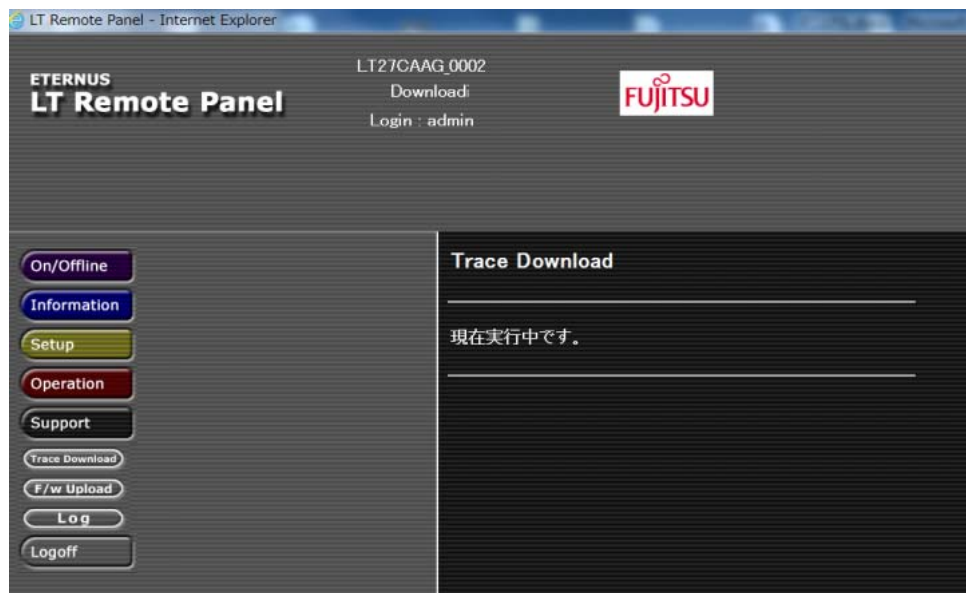
- 2** [OK] ボタンをクリックするとドライブトレースのダウンロードが開始されます。ドライブの世代によってダウンロードにかかる時間は異なります。ダウンロードにかかる時間は画面に表示されます。

図 3.83 ドライブトレースのダウンロード開始確認画面



- 3** ドライブトレースのダウンロード中は実行画面が表示されます。

図 3.84 ドライブトレースのダウンロード実行画面



- 4 ドライブトレースのダウンロードが完了すると、完了画面が表示され、画面下部にダウンロードの通知バーが表示されるので、任意の場所にドライブトレースを保存します。

図 3.85 ドライブトレースのダウンロード完了画面



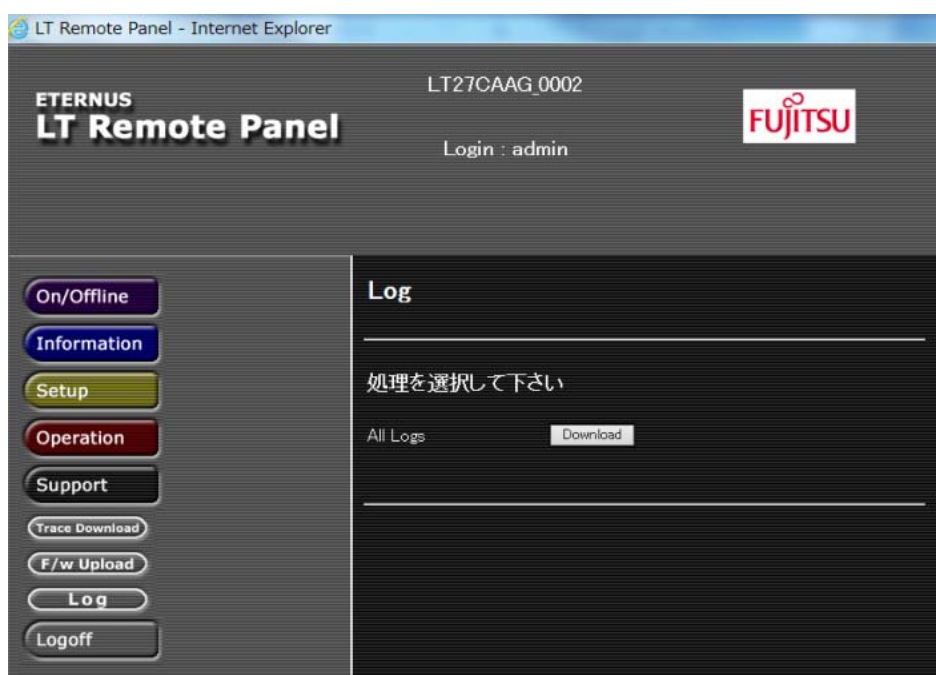
手順ここまで

3.14.2 ログのダウンロード

手順

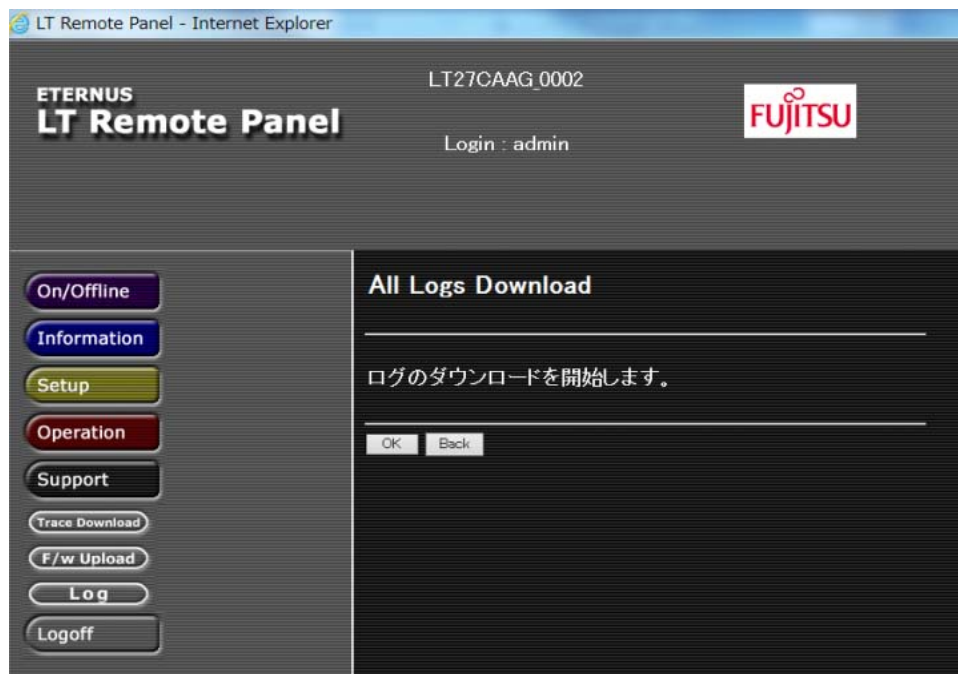
- 1 [Support] 配下に表示される [Log] ボタンをクリックすると、ログを選択する画面が表示されるので、All Logs 横の [Download] ボタンをクリックします。

図 3.86 ログを選択する画面



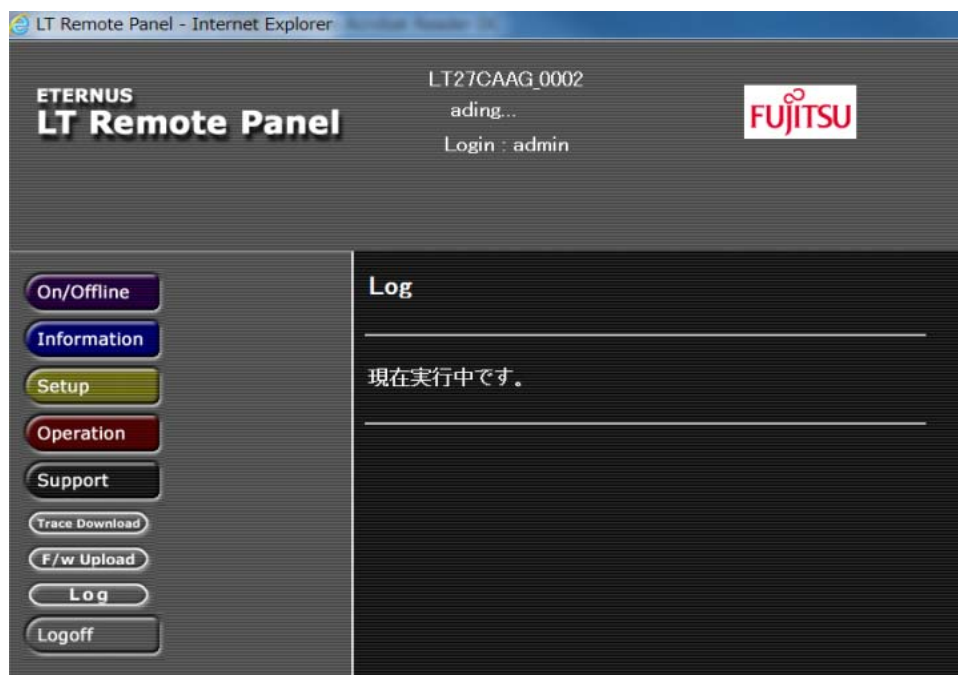
- 2 ログのダウンロード開始画面が表示されるので、[OK] ボタンをクリックします。

図 3.87 ログのダウンロード開始画面



- 3 ログのダウンロードが開始されると、ダウンロード実行中画面が表示されます。

図 3.88 ログのダウンロード実行中画面



- 4 ダウンロードが完了すると、完了画面が表示されます。完了画面が表示されてから、しばらく待つと画面下部にダウンロードの通知バーが表示されるので、任意の場所にログを保存します。

図 3.89 ログのダウンロード完了画面



手順ここまで

FUJITSU Storage ETERNUS LT270 S2 テープライブラリ
ユーザズガイド パネル操作編

P3AM-6932-07Z0

発行日 2021年3月
発行責任 富士通株式会社

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書の内容は、細心の注意を払って制作致しましたが、本書中の誤字、情報の抜け、本書情報の使用に起因する運用結果に関しましては、責任を負いかねますので予めご了承ください。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。


FUJITSU